

静岡県立美術館年報

平成28年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2016

静岡県立美術館年報

平成28年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2016

目 次

使命・重点目標・評価指標	4	講演会	56
平成28年度 美術館の評価活動	5	美術講座	57
【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。		対外活動	59
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。		【重点目標3】地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します。	
展覧会活動 展覧会一覧	7	美術館ボランティア・広報サポーター	61
観覧者数一覧	8	友の会活動	63
(企画展)		めぐりアート静岡	67
開館30周年記念展 東西の絶景 モネ、ゴーガン、若冲も大観も	9	【運営基本方針C】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。	
美術館に行こう！ ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方	10	【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます。	
開館30周年記念展 徳川の平和（パクス・トクガワナ）ー250年の美と叡智ー	11	広報活動（ホームページ）	70
再発見！ ニッポンの立体 生人形からフィギュアまで	12	美術館ニュース「アマリリス」	71
蜷川実花展	13	【重点目標2】観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます。	
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。		新たな広報チャンネルの開拓	72
(調査研究活動)		【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。	
紀要の発行	14	ロダン館展示・イベント	
研究活動	15	(ロダン館20周年記念事業 ロダンウィーク)	73
研究会	16	【運営基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます。	
各種資料整理	19	【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます。	
博物館実習	20	施設利用状況（年度別）	76
【重点目標3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。		県民ギャラリー利用状況	77
収蔵品展	21	【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます。	
移動美術展	22	来館者のアクセス満足度	78
新収蔵品	24	■付帯資料	
収蔵点数一覧	33	平成28年度主要記事	79
図書資料の収集・整理	35	(展覧会 出品目録)	
館蔵品の貸し出し	36	開館30周年記念展 東西の絶景 モネ、ゴーガン、若冲も大観も	80
美術作品の補修	40	美術館に行こう！ ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方	84
保存活動	41	開館30周年記念展 徳川の平和（パクス・トクガワナ）ー250年の美と叡智ー	86
【運営基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。		再発見！ ニッポンの立体 生人形からフィギュアまで	89
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します。		蜷川実花展	95
(一般向け)		収蔵品展	97
ギャラリーツアー	43	移動美術展	99
実技・鑑賞講座	44	(管理運営)	
(子ども向け)		関係法規	102
実技・体験	46	組織・名簿	110
学校連携普及事業（美術館教室）	49	歳入・歳出決算	111
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します。		建築・設備概要	112
		利用案内	118
		奥付	119

自己評価システムの体系

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。
そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

基本方針		重点目標	評価指標
A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1 展覧会の来館者数
		2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	2 自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	3 作品やテーマに興味を持った人の割合
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	4 展覧会における新規来館者の割合
		2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	5 展覧会に対する外部評価【定性】
		3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	6 調査研究の発表回数
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	7 内部セミナー・研究会・研修の回数
		2 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	8 他の美術館や大学と連携した取組件数
		3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	9 調査研究に関する外部評価【定性】
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	10 収蔵品展の観覧者数
		2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	11 収蔵品の公開件数
			12 作品購入件数・価格
			13 作品寄贈件数・価格
			14 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
			15 学校教育と連携した取組数
			16 鑑賞系プログラム数
			17 コレクションを活用したプログラム数
			18 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
			19 講演会等の開催件数
			20 学芸員のフロアレクチャー等の数
			21 地域住民等と連携した取組数
			22 館内空間を生かした催事の件数・参加者数
			23 地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
			24 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
			25 ホームページのアクセス件数
			26 ホームページの満足度
			27 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
			28 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
			29 ロダン館の入館者数
			30 美術館利用者数
			31 鑑賞環境に対する満足度
			32 レストラン・カフェに対する満足度
			33 ミュージアムショップに対する満足度
			34 来館者のアクセス満足度

平成28年度 美術館の評価活動

■総括

A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【成果】

- ・開館以来30年かけて収蔵してきたコレクションを活かした「東西の絶景」は、予想を超える3万人の入館者数を記録し、「コレクション力」を発揮する結果となった。
- ・親子向けに現代美術コレクションを分かりやすく紹介する当館では初めての企画「美術館へ行こう!」は、親子向けイベントを実施するなど、新たな顧客層を開拓した。
- ・芳賀前館長（現名誉館長）の長年の研究成果と学芸員の研究とを合わせた「徳川の平和」は、江戸美術の優品を展示し、その内容が充実した。
- ・他の美術館と連携し学芸員の研究成果を活かした「再発見!ニッポンの立体」は、これまでない新しい切り口で日本の立体表現の面白さを紹介できた。
- ・「蜷川実花展」は、作家本人によるPRが成功し、比較的若い層が来館し、SNSを通じた広報が効果を得た。
- ・収蔵品展、移動美術展についても、当館コレクションを展示し、普及する機会となった。
- ・展覧会の内容を評価する研究活動評価では、一定の成果を評価され、また来館者による満足度も、88.4%という高い評価を得ている。

【課題】

- ・「展覧会における新規来館者の割合」は、目標に達することができなかった。「美術館へ行こう!」「蜷川実花展」など、新たな顧客層の開拓に努めたが、今後もこうした取組を継続する必要がある。
- ・マスコミ等と共催する大型の企画展の開催が難しい現状の中で、学芸員の研究にもとづく、コレクションを活かした企画展のあり方の方向性を検討していく必要がある。
- ・作品の収集については、寄贈に依拠している現状であるが、今後のコレクション活用を図るためにも、必要な購入予算の確保が課題である。

B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

【成果】

- ・教育普及プログラムの実施件数は、208件、利用者数は、34,024人で、いずれのプログラムも利用者の満足度は高い。
- ・鑑賞教育についての専門的知識を求められ、それを活用する機会が増えてきたことは、大きな成果である。
- ・開館30周年記念展にあわせて講義系プログラムの充実を図ったことから、特別講演会、フロアレクチャー等のプログラム数及び参加者数が大きく増加した。
- ・草薙の街づくりに積極的に参加し、J R草薙駅南口を「県大・美術館口」と命名するなど、静岡県立美術館の存在感をPRすることに貢献した。

【課題】

- ・学校現場の実態に即して、当館コレクションを活用したプログラムを開発することが課題である。
- ・今後も、草薙の街づくりに積極的に参加し、美術館を核とした地域連携に取り組んでいく必要がある。

C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

【成果】

- ・フェイスブック、インスタグラム等、SNSを活用した情報発信を試みたことにより、美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合は、目標の70.0%を超え、75.2%となった。
- ・スマートフォンにも対応した、見やすく分かりやすいホームページにするため、デザインや機能を一新したことで、スマートフォンからのアクセス件数が増加した。
- ・「有度山フレンドシップ協定」をはじめとして、地域と連携したPRに取組むなど、草薙地域との連携に積極的に取組み成果を得た。
- ・「ロダンウィーク」の充実による集客数の大幅な増加により、「ロダン館の入場者数」も増加した。

【課題】

- ・新しいホームページに様々な不具合が生じており、今後の修正・改善が課題である。
- ・ホームページのアクセス件数については、例年30万件前後で推移しており、適切な目標値の設定が課題である。
- ・観光ルートマップの今後の活用、ホームページのリニューアル後の活用効果など、様々な媒体の効果的活用が課題である。
- ・イベントによる来館者増加にともなう当日の誘導や駐車場対策が課題である。

D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

【成果】

- ・美術館利用者総数は、316,223人であり、目標の254,800人を大きく上回り、県民をはじめとする利用者の多くの皆様にご利用いただいた。
- ・改修工事を実施し、施設・設備の維持管理に努めるとともに、屋外の園地管理については、良好な環境を保つことができた。
- ・レストラン・カフェ、ミュージアムショップについては、僅少差ではあるが、概ね利用者から好評を得ている。

【課題】

- ・開館30年を過ぎ、施設の不具合が目立ち、中長期的な視野を見据えた改修計画が必要である。
- ・来館者のアクセス満足度が目標値に達することができなかった。駐車場のキャパシティについては、今後の検討課題である。
- ・レストラン・カフェについては、新しい業者にメニュー及びサービスの充実を促していく必要がある。
- ・県民をはじめとする利用者、美術品の安全・安心について、幅広い視点から施設の改修等の検討をしていく必要がある。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改定作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取組を行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる

美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■平成28年度の活動

本年度も引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

（１）ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。それによって、Plan-Do-Check-Action（計画-実行-監視-改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。平成28年度は、以下の活動を行った。

- 1 アンケート調査結果の集計と分析
 - A. 展覧会観覧者アンケート（3本）
 - B. 教育・普及プログラム参加者アンケート（実技系・イベント系）
 - C. 付帯施設（レストラン、ミュージアム・ミュージアム・ショップ）
 - D. 美術館ホームページによるアンケート

（２）研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【 】内は専門分野）

坂本 満 【西洋絵画・日本洋画】／お茶の水女子大学名誉教授、金沢美術工芸大学客員教授
潮江 宏三 【西洋絵画・現代美術】／京都市立美術館館長
山梨絵美子 【日本洋画】／東京文化財研究所副所長
榎原 悟 【日本画】／岡崎市美術館館長、群馬県立女子大学名誉教授
金原 宏行 【教育普及・日本画】／豊橋市美術館館長、常葉美術館顧問

■開催記録

平成28年6月8日（水）

- ・平成27年度 研究活動評価について
- ・平成28年度 研究活動評価について
- ・今後の研究活動についての意見交換
- ・「東西の絶景」展視察及び評価・提言

平成28年9月18日（日）、10月21日（金）

- ・「徳川の平和」展視察及び評価・提言

平成28年11月17日（木）、11月24日（木）

- ・「徳川の平和」展視察及び評価・提言

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

（１）美術館が行う展覧会事業及び普及事業。

（２）学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物。

（３）その他美術及び教育普及に関する専門的事項。

（組織）

第3条 委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1）展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館藏品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

2）展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3）研究紀要／館藏品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4）教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

■展覧会活動 展覧会一覧

	企 画 展						収蔵品展
	1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4/12(火)～6/19(日) 開館30周年記念展 東西の絶景 モネ、ゴッーギャン、若冲も大観も						～4/2(土) 日本人の風景
5 MAY							4/5(火)～6/19(日) 新収蔵品展
6 JUNE							
7 JULY	7/9(土)～9/8(木) 美術館に行こう！ ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方						7/9(土)～9/4(日) フランス版画 コレクションより ジャック・カロ、 ウジェーヌ・イザペイ、 ミレーを中心に
8 AUGUST							
9 SEPTEMBER	9/17(土)～11/3 (木・祝) 開館30周年記念展 徳川の平和 (パクス・トクガワーナ) 250年の美と叡智						9/6(火)～11/6(日) 静岡ゆかりの 近代画家 日本画・洋画でつづる
10 OCTOBER							
11 NOVEMBER	11/15(火)～1/9 (月・祝) 再発見！ニッポンの立体 生人形からフィギュアまで						11/8(火)～1/9 (月・祝) 西洋の絵画 画材とともに3
12 DECEMBER							
1 JANUARY							
2 FEBRUARY	2/1(水)～3/26(日) 蜷川実花展						2/1(水)～4/2(日) 山の風景 富士山、箱根から スイスの山まで
3 MARCH							

■観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者 見込数	観 覧 者 数							
		期 間	日 数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	未就学児	招待・減免	実績数	対見込
企 画 展	東西の絶景	4/12～6/19	61	20,000	人	人	人	人	人	人	人	人
	美術館に行こう！	7/9～9/8	53	20,000	16,270	1,433	1,963	4,785	466	5,382	30,299	151.5
	徳川の平和	9/17～11/3	41	21,000	13,404	977	981	5,154	193	5,733	26,442	125.9
	再発見！ニッポンの立体	11/15～1/9	44	16,000	3,720	807	742	613	214	2,687	8,783	54.9
	蜷川実花展	2/1～3/26	47	38,000	32,053	3,500	2,616	1,705	2,168	5,970	48,012	126.3
	小 計		246	115,000	76,515	8,417	10,862	12,878	6,235	23,659	138,566	120.5
収蔵品展		4/1～3/31	275	15,000	3,655	(注1) 1,653	—	1,118	—	1,506	7,932	52.9
合 計				130,000	80,170	10,070	10,862	13,996	6,235	25,165	146,498	112.7
移動美術展	島田市	9/10～10/16	31	10,000	—	—	—	—	—	—	5,756	77.5
	富士市	10/29～11/6	9		—	—	—	—	—	—	1,989	

(注1)「未就学児・小・中学生」の観覧者数を含む。

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成14年度	170,390
昭和62年度	174,031	平成15年度	184,095
昭和63年度	214,156	平成16年度	146,706
平成元年度	229,258	平成17年度	129,768
平成2年度	233,904	平成18年度	222,608
平成3年度	190,361	平成19年度	184,535
平成4年度	173,665	平成20年度	190,669
平成5年度	218,921	平成21年度	101,792
平成6年度	410,182	平成22年度	264,207
平成7年度	245,028	平成23年度	126,626
平成8年度	178,701	平成24年度	163,533
平成9年度	127,299	平成25年度	139,428
平成10年度	153,099	平成26年度	94,664
平成11年度	107,977	平成27年度	110,310
平成12年度	146,833	平成28年度	146,498
平成13年度	207,340	累 計	5,732,330

開館30周年記念展

東西の絶景

モネ、ゴーギャン、若冲も大観も

主催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送

会期：2016年4月12日（火）～6月19日（日）

休館日：毎週月曜日、5月2日（月）は開館。

■概要

静岡県立美術館は、平成28年度に開館30周年を迎えた。風光明媚な日本平の麓にある美術館として、開館以来、日本と西洋の風景画の収集につとめてきた。本展では、開館30周年を記念して、風景画の優品の数々を重要文化財も含めて、一堂に展示した。

最初に、日本の室町時代以来の多彩な風景表現をご覧いただいた。日本では、中国の山水画にねがず伝統的な風景の捉え方や技法が踏襲されてきたが、そのなかであって、斬新な表現を完成させた若冲のような画家もあり、多種多様な風景表現が生み出されてきた。

さらに、明治の開国によって西洋の絵画と技法が広く伝わり、そこから、伝統的な日本画とはルーツを異にする「洋画」が誕生する。しかし、日本人が描く洋画は、西洋絵画と同じものにはならなかった。それは、つづいて紹介する西洋の風景画と日本の洋画とを比較することで、明らかになる。

そして、現代社会や現代人の心の風景を映し出す造形もお楽しみいただく。

最後に、ふだんはお見せする機会のない作家本人による展示指示書や作品を永年保護してきた箱などを公開するとともに、明治の国学者によるコレクションなどをとおして、作品を収集し、それを後世へ伝える意味を見つめ直した。

■会期中イベント

・特別講演会（会場：当館講堂）

1.「あれから30年—日本画収集をふりかえって」

日時：4月24日（日）14：00～15：30

講師：山下善也氏

（東京国立博物館主任研究員、元当館主任学芸員）

2.「コレクションが美術館の命と考えられていた頃

—美術館は百年の計」

日時：5月21日（土）14：00～15：30

講師：越智裕二郎氏

（西宮市大谷記念美術館館長、元当館学芸課長）

・フロアレクチャー

（場所：当館企画展展示室、いずれも13：30～）

日時：4月17日（日）、4月23日（土）、5月8日（日）、

5月20日（金）、6月5日（日）、6月12日（日）、

6月17日（金）

・学芸員のこの一点

（場所：当館企画展展示室、いずれも13：30～）

当館学芸員がコレクションの中からお勧めの一点を選び解説します。

日時：4月13日（水）、4月20日（水）、4月27日（水）、

5月11日（水）、5月18日（水）、5月25日（水）、

6月1日（水）、6月8日（水）、6月15日（水）

・ちょこっと体験・ドット若冲

（会場：当館エントランス）

日時：4月29日（金・祝）～5月3日（火・祝）

10：00～12：00 / 13：00～16：00

・みんなでドット若冲

（会場：当館実技室ほか）

日時：5月4日（水・祝）、5日（木・祝）

■出品目録

p.80参照



▲チラシ

美術館に行こう！

ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方

主 催：静岡県立美術館、テレビ静岡

特別協力：ディック・ブルーナ・ジャパン／Mercis bv

協 力：福音館書店、クツワ株式会社

企画協力：株式会社キュレイターズ

会 期：平成28年（2016）7月9日（土）～9月8日（木）

■概要

ディック・ブルーナの絵本『うさこちゃん びじゅつかんへいく』（福音館書店／平成20年）は、両親と一緒に初めて美術館を訪れたミッフィー（うさこちゃん）が、さまざまな作品と出会い、新たな発見をし、美術館を満喫するストーリーである。モダン・アートに造詣の深いブルーナが、絵本を通じてその楽しみ方を伝えようとしたものであり、20世紀以降のモダン・アートの展開を踏まえた内容は、大人にとっても示唆に富むものとなっている。

本展は、この絵本を起点として企画され、全3章で構成されたものである。第1章「みてみよう」では、ミッフィーをナビゲーターとしながら当館の近現代美術コレクションを紹介した。絵本の内容に沿って、7つのコーナーに分けて計33点の所蔵品・寄託品を展示した。第2章「かんがえてみよう」では、ブルーナのイラスト、ペーパーバック、ポスターなどを展示し、グラフィック・デザイナーとしてのブルーナの独創性と魅力に迫るとともに、モダン・アートに関するブルーナの言葉を掲出し、その連関を探った。第3章「つくってみよう」は、企画展末尾のスペースにワークショップコーナーとして設置。ブルーナ的制作方法の一端を簡単な手作業を通して体験することで、来館者にブルーナの作品の理解を深めてもらった。

ファミリー層を主な対象とした企画展は当館として初の試みであったが、反響は大きく、子ども連れの家族を多く含む多数の来場者を迎えることができた。

図録は、ブルーナ作品編／静岡県立美術館コレクション編の2冊組として作成・販売した。また、「たんけんガイド」、「おとなガイド」の2種を作成して会場内で無料配布、展覧会を楽しむ手がかりとした。

■関連事業

・小学生のための美術館探検ツアー

7月23日（土）、8月7日（日）各10：30～／企画展示室

・子どもとファミリーのための展覧会ツアー

7月18日（月・祝）、8月21日（日）各10：30～／企画展示室

・大人のための展覧会ツアー

9月4日（日）10：30～、13：30～／企画展示室

■図録

企画・編集・発行：株式会社キュレイターズ

執筆：今井美樹（PRED.主宰／大阪工業大学准教授）、
石上充代（当館上席学芸員）ほか

アートディレクション・デザイン：今井美樹

編集協力：ディック・ブルーナ・ジャパン

仕様：2冊組（48頁・24頁）、各18.4×18.4 cm

内容：

ブルーナ作品編

年譜

初期のデザインと〈ブラック・ベア〉のポスター
ペーパーバックのデザイン

絵本と主人公たち

社会活動

「ディックブルーナの作品とスタイル」今井美樹

静岡県立美術館コレクション編

ほんものそっくり？

うごいてる うごいてる

なにでできているの？

こんな かきかたがあるんだ

よくわからない でも きになる

ほんもの？ ほんものじゃない？

きれいな たくさんのいろ たのしいね

作品紹介

■出品目録

pp.84～85を参照

びじゅつかんって どんな ところかしら？
なんだか おもしろそう。

美術館に行こう！
ディック・ブルーナに学ぶ
モダン・アートの楽しみ方

2016年7月9日[土]—9月8日[木]

開館時間：午前10時～午後5時30分（観覧客への入場は午後5時まで）
休館時間：7月23、30日、8月6、13、20、27日（いずれも休館日）
午後7時までは閉館（観覧客への入場は午後6時30分まで）
休 館 日：毎週月曜日（ただし、7月18日[日]、8月14日[日]、9月11日[日]は休館）
観 覧 料：一般800円（600円）、70歳以上400円（300円）、大学生以下無料
※1歳未満は200円（100円）※2歳未満は100円（50円）※3歳未満は50円（20円）
※4歳未満は20円（10円）※5歳未満は10円（5円）※6歳未満は5円（2円）
※7歳未満は2円（1円）※8歳未満は1円（50円）※9歳未満は50円（20円）
※10歳未満は20円（10円）※11歳未満は10円（5円）※12歳未満は5円（2円）
※13歳未満は2円（1円）※14歳未満は1円（50円）※15歳未満は50円（20円）
※16歳未満は20円（10円）※17歳未満は10円（5円）※18歳未満は5円（2円）
※19歳未満は2円（1円）※20歳未満は1円（50円）※21歳未満は50円（20円）
※22歳未満は20円（10円）※23歳未満は10円（5円）※24歳未満は5円（2円）
※25歳未満は2円（1円）※26歳未満は1円（50円）※27歳未満は50円（20円）
※28歳未満は20円（10円）※29歳未満は10円（5円）※30歳未満は5円（2円）
※31歳未満は2円（1円）※32歳未満は1円（50円）※33歳未満は50円（20円）
※34歳未満は20円（10円）※35歳未満は10円（5円）※36歳未満は5円（2円）
※37歳未満は2円（1円）※38歳未満は1円（50円）※39歳未満は50円（20円）
※40歳未満は20円（10円）※41歳未満は10円（5円）※42歳未満は5円（2円）
※43歳未満は2円（1円）※44歳未満は1円（50円）※45歳未満は50円（20円）
※46歳未満は20円（10円）※47歳未満は10円（5円）※48歳未満は5円（2円）
※49歳未満は2円（1円）※50歳未満は1円（50円）※51歳未満は50円（20円）
※52歳未満は20円（10円）※53歳未満は10円（5円）※54歳未満は5円（2円）
※55歳未満は2円（1円）※56歳未満は1円（50円）※57歳未満は50円（20円）
※58歳未満は20円（10円）※59歳未満は10円（5円）※60歳未満は5円（2円）
※61歳未満は2円（1円）※62歳未満は1円（50円）※63歳未満は50円（20円）
※64歳未満は20円（10円）※65歳未満は10円（5円）※66歳未満は5円（2円）
※67歳未満は2円（1円）※68歳未満は1円（50円）※69歳未満は50円（20円）
※70歳未満は20円（10円）※71歳未満は10円（5円）※72歳未満は5円（2円）
※73歳未満は2円（1円）※74歳未満は1円（50円）※75歳未満は50円（20円）
※76歳未満は20円（10円）※77歳未満は10円（5円）※78歳未満は5円（2円）
※79歳未満は2円（1円）※80歳未満は1円（50円）※81歳未満は50円（20円）
※82歳未満は20円（10円）※83歳未満は10円（5円）※84歳未満は5円（2円）
※85歳未満は2円（1円）※86歳未満は1円（50円）※87歳未満は50円（20円）
※88歳未満は20円（10円）※89歳未満は10円（5円）※90歳未満は5円（2円）
※91歳未満は2円（1円）※92歳未満は1円（50円）※93歳未満は50円（20円）
※94歳未満は20円（10円）※95歳未満は10円（5円）※96歳未満は5円（2円）
※97歳未満は2円（1円）※98歳未満は1円（50円）※99歳未満は50円（20円）
※100歳未満は20円（10円）※101歳未満は10円（5円）※102歳未満は5円（2円）
※103歳未満は2円（1円）※104歳未満は1円（50円）※105歳未満は50円（20円）
※106歳未満は20円（10円）※107歳未満は10円（5円）※108歳未満は5円（2円）
※109歳未満は2円（1円）※110歳未満は1円（50円）※111歳未満は50円（20円）
※112歳未満は20円（10円）※113歳未満は10円（5円）※114歳未満は5円（2円）
※115歳未満は2円（1円）※116歳未満は1円（50円）※117歳未満は50円（20円）
※118歳未満は20円（10円）※119歳未満は10円（5円）※120歳未満は5円（2円）
※121歳未満は2円（1円）※122歳未満は1円（50円）※123歳未満は50円（20円）
※124歳未満は20円（10円）※125歳未満は10円（5円）※126歳未満は5円（2円）
※127歳未満は2円（1円）※128歳未満は1円（50円）※129歳未満は50円（20円）
※130歳未満は20円（10円）※131歳未満は10円（5円）※132歳未満は5円（2円）
※133歳未満は2円（1円）※134歳未満は1円（50円）※135歳未満は50円（20円）
※136歳未満は20円（10円）※137歳未満は10円（5円）※138歳未満は5円（2円）
※139歳未満は2円（1円）※140歳未満は1円（50円）※141歳未満は50円（20円）
※142歳未満は20円（10円）※143歳未満は10円（5円）※144歳未満は5円（2円）
※145歳未満は2円（1円）※146歳未満は1円（50円）※147歳未満は50円（20円）
※148歳未満は20円（10円）※149歳未満は10円（5円）※150歳未満は5円（2円）
※151歳未満は2円（1円）※152歳未満は1円（50円）※153歳未満は50円（20円）
※154歳未満は20円（10円）※155歳未満は10円（5円）※156歳未満は5円（2円）
※157歳未満は2円（1円）※158歳未満は1円（50円）※159歳未満は50円（20円）
※160歳未満は20円（10円）※161歳未満は10円（5円）※162歳未満は5円（2円）
※163歳未満は2円（1円）※164歳未満は1円（50円）※165歳未満は50円（20円）
※166歳未満は20円（10円）※167歳未満は10円（5円）※168歳未満は5円（2円）
※169歳未満は2円（1円）※170歳未満は1円（50円）※171歳未満は50円（20円）
※172歳未満は20円（10円）※173歳未満は10円（5円）※174歳未満は5円（2円）
※175歳未満は2円（1円）※176歳未満は1円（50円）※177歳未満は50円（20円）
※178歳未満は20円（10円）※179歳未満は10円（5円）※180歳未満は5円（2円）
※181歳未満は2円（1円）※182歳未満は1円（50円）※183歳未満は50円（20円）
※184歳未満は20円（10円）※185歳未満は10円（5円）※186歳未満は5円（2円）
※187歳未満は2円（1円）※188歳未満は1円（50円）※189歳未満は50円（20円）
※190歳未満は20円（10円）※191歳未満は10円（5円）※192歳未満は5円（2円）
※193歳未満は2円（1円）※194歳未満は1円（50円）※195歳未満は50円（20円）
※196歳未満は20円（10円）※197歳未満は10円（5円）※198歳未満は5円（2円）
※199歳未満は2円（1円）※200歳未満は1円（50円）※201歳未満は50円（20円）
※202歳未満は20円（10円）※203歳未満は10円（5円）※204歳未満は5円（2円）
※205歳未満は2円（1円）※206歳未満は1円（50円）※207歳未満は50円（20円）
※208歳未満は20円（10円）※209歳未満は10円（5円）※210歳未満は5円（2円）
※211歳未満は2円（1円）※212歳未満は1円（50円）※213歳未満は50円（20円）
※214歳未満は20円（10円）※215歳未満は10円（5円）※216歳未満は5円（2円）
※217歳未満は2円（1円）※218歳未満は1円（50円）※219歳未満は50円（20円）
※220歳未満は20円（10円）※221歳未満は10円（5円）※222歳未満は5円（2円）
※223歳未満は2円（1円）※224歳未満は1円（50円）※225歳未満は50円（20円）
※226歳未満は20円（10円）※227歳未満は10円（5円）※228歳未満は5円（2円）
※229歳未満は2円（1円）※230歳未満は1円（50円）※231歳未満は50円（20円）
※232歳未満は20円（10円）※233歳未満は10円（5円）※234歳未満は5円（2円）
※235歳未満は2円（1円）※236歳未満は1円（50円）※237歳未満は50円（20円）
※238歳未満は20円（10円）※239歳未満は10円（5円）※240歳未満は5円（2円）
※241歳未満は2円（1円）※242歳未満は1円（50円）※243歳未満は50円（20円）
※244歳未満は20円（10円）※245歳未満は10円（5円）※246歳未満は5円（2円）
※247歳未満は2円（1円）※248歳未満は1円（50円）※249歳未満は50円（20円）
※250歳未満は20円（10円）※251歳未満は10円（5円）※252歳未満は5円（2円）
※253歳未満は2円（1円）※254歳未満は1円（50円）※255歳未満は50円（20円）
※256歳未満は20円（10円）※257歳未満は10円（5円）※258歳未満は5円（2円）
※259歳未満は2円（1円）※260歳未満は1円（50円）※261歳未満は50円（20円）
※262歳未満は20円（10円）※263歳未満は10円（5円）※264歳未満は5円（2円）
※265歳未満は2円（1円）※266歳未満は1円（50円）※267歳未満は50円（20円）
※268歳未満は20円（10円）※269歳未満は10円（5円）※270歳未満は5円（2円）
※271歳未満は2円（1円）※272歳未満は1円（50円）※273歳未満は50円（20円）
※274歳未満は20円（10円）※275歳未満は10円（5円）※276歳未満は5円（2円）
※277歳未満は2円（1円）※278歳未満は1円（50円）※279歳未満は50円（20円）
※280歳未満は20円（10円）※281歳未満は10円（5円）※282歳未満は5円（2円）
※283歳未満は2円（1円）※284歳未満は1円（50円）※285歳未満は50円（20円）
※286歳未満は20円（10円）※287歳未満は10円（5円）※288歳未満は5円（2円）
※289歳未満は2円（1円）※290歳未満は1円（50円）※291歳未満は50円（20円）
※292歳未満は20円（10円）※293歳未満は10円（5円）※294歳未満は5円（2円）
※295歳未満は2円（1円）※296歳未満は1円（50円）※297歳未満は50円（20円）
※298歳未満は20円（10円）※299歳未満は10円（5円）※300歳未満は5円（2円）
※301歳未満は2円（1円）※302歳未満は1円（50円）※303歳未満は50円（20円）
※304歳未満は20円（10円）※305歳未満は10円（5円）※306歳未満は5円（2円）
※307歳未満は2円（1円）※308歳未満は1円（50円）※309歳未満は50円（20円）
※310歳未満は20円（10円）※311歳未満は10円（5円）※312歳未満は5円（2円）
※313歳未満は2円（1円）※314歳未満は1円（50円）※315歳未満は50円（20円）
※316歳未満は20円（10円）※317歳未満は10円（5円）※318歳未満は5円（2円）
※319歳未満は2円（1円）※320歳未満は1円（50円）※321歳未満は50円（20円）
※322歳未満は20円（10円）※323歳未満は10円（5円）※324歳未満は5円（2円）
※325歳未満は2円（1円）※326歳未満は1円（50円）※327歳未満は50円（20円）
※328歳未満は20円（10円）※329歳未満は10円（5円）※330歳未満は5円（2円）
※331歳未満は2円（1円）※332歳未満は1円（50円）※333歳未満は50円（20円）
※334歳未満は20円（10円）※335歳未満は10円（5円）※336歳未満は5円（2円）
※337歳未満は2円（1円）※338歳未満は1円（50円）※339歳未満は50円（20円）
※340歳未満は20円（10円）※341歳未満は10円（5円）※342歳未満は5円（2円）
※343歳未満は2円（1円）※344歳未満は1円（50円）※345歳未満は50円（20円）
※346歳未満は20円（10円）※347歳未満は10円（5円）※348歳未満は5円（2円）
※349歳未満は2円（1円）※350歳未満は1円（50円）※351歳未満は50円（20円）
※352歳未満は20円（10円）※353歳未満は10円（5円）※354歳未満は5円（2円）
※355歳未満は2円（1円）※356歳未満は1円（50円）※357歳未満は50円（20円）
※358歳未満は20円（10円）※359歳未満は10円（5円）※360歳未満は5円（2円）
※361歳未満は2円（1円）※362歳未満は1円（50円）※363歳未満は50円（20円）
※364歳未満は20円（10円）※365歳未満は10円（5円）※366歳未満は5円（2円）
※367歳未満は2円（1円）※368歳未満は1円（50円）※369歳未満は50円（20円）
※370歳未満は20円（10円）※371歳未満は10円（5円）※372歳未満は5円（2円）
※373歳未満は2円（1円）※374歳未満は1円（50円）※375歳未満は50円（20円）
※376歳未満は20円（10円）※377歳未満は10円（5円）※378歳未満は5円（2円）
※379歳未満は2円（1円）※380歳未満は1円（50円）※381歳未満は50円（20円）
※382歳未満は20円（10円）※383歳未満は10円（5円）※384歳未満は5円（2円）
※385歳未満は2円（1円）※386歳未満は1円（50円）※387歳未満は50円（20円）
※388歳未満は20円（10円）※389歳未満は10円（5円）※390歳未満は5円（2円）
※391歳未満は2円（1円）※392歳未満は1円（50円）※393歳未満は50円（20円）
※394歳未満は20円（10円）※395歳未満は10円（5円）※396歳未満は5円（2円）
※397歳未満は2円（1円）※398歳未満は1円（50円）※399歳未満は50円（20円）
※400歳未満は20円（10円）※401歳未満は10円（5円）※402歳未満は5円（2円）
※403歳未満は2円（1円）※404歳未満は1円（50円）※405歳未満は50円（20円）
※406歳未満は20円（10円）※407歳未満は10円（5円）※408歳未満は5円（2円）
※409歳未満は2円（1円）※410歳未満は1円（50円）※411歳未満は50円（20円）
※412歳未満は20円（10円）※413歳未満は10円（5円）※414歳未満は5円（2円）
※415歳未満は2円（1円）※416歳未満は1円（50円）※417歳未満は50円（20円）
※418歳未満は20円（10円）※419歳未満は10円（5円）※420歳未満は5円（2円）
※421歳未満は2円（1円）※422歳未満は1円（50円）※423歳未満は50円（20円）
※424歳未満は20円（10円）※425歳未満は10円（5円）※426歳未満は5円（2円）
※427歳未満は2円（1円）※428歳未満は1円（50円）※429歳未満は50円（20円）
※430歳未満は20円（10円）※431歳未満は10円（5円）※432歳未満は5円（2円）
※433歳未満は2円（1円）※434歳未満は1円（50円）※435歳未満は50円（20円）
※436歳未満は20円（10円）※437歳未満は10円（5円）※438歳未満は5円（2円）
※439歳未満は2円（1円）※440歳未満は1円（50円）※441歳未満は50円（20円）
※442歳未満は20円（10円）※443歳未満は10円（5円）※444歳未満は5円（2円）
※445歳未満は2円（1円）※446歳未満は1円（50円）※447歳未満は50円（20円）
※448歳未満は20円（10円）※449歳未満は10円（5円）※450歳未満は5円（2円）
※451歳未満は2円（1円）※452歳未満は1円（50円）※453歳未満は50円（20円）
※454歳未満は20円（10円）※455歳未満は10円（5円）※456歳未満は5円（2円）
※457歳未満は2円（1円）※458歳未満は1円（50円）※459歳未満は50円（20円）
※460歳未満は20円（10円）※461歳未満は10円（5円）※462歳未満は5円（2円）
※463歳未満は2円（1円）※464歳未満は1円（50円）※465歳未満は50円（20円）
※466歳未満は20円（10円）※467歳未満は10円（5円）※468歳未満は5円（2円）
※469歳未満は2円（1円）※470歳未満は1円（50円）※471歳未満は50円（20円）
※472歳未満は20円（10円）※473歳未満は10円（5円）※474歳未満は5円（2円）
※475歳未満は2円（1円）※476歳未満は1円（50円）※477歳未満は50円（20円）
※478歳未満は20円（10円）※479歳未満は10円（5円）※480歳未満は5円（2円）
※481歳未満は2円（1円）※482歳未満は1円（50円）※483歳未満は50円（20円）
※484歳未満は20円（10円）※485歳未満は10円（5円）※486歳未満は5円（2円）
※487歳未満は2円（1円）※488歳未満は1円（50円）※489歳未満は50円（20円）
※490歳未満は20円（10円）※491歳未満は10円（5円）※492歳未満は5円（2円）
※493歳未満は2円（1円）※494歳未満は1円（50円）※495歳未満は50円（20円）
※496歳未満は20円（10円）※497歳未満は10円（5円）※498歳未満は5円（2円）
※499歳未満は2円（1円）※500歳未満は1円（50円）※501歳未満は50円（20円）
※502歳未満は20円（10円）※503歳未満は10円（5円）※504歳未満は5円（2円）
※505歳未満は2円（1円）※506歳未満は1円（50円）※507歳未満は50円（20円）
※508歳未満は20円（10円）※509歳未満は10円（5円）※510歳未満は5円（2円）
※511歳未満は2円（1円）※512歳未満は1円（50円）※513歳未満は50円（20円）
※514歳未満は20円（10円）※515歳未満は10円（5円）※516歳未満は5円（2円）
※517歳未満は2円（1円）※518歳未満は1円（50円）※519歳未満は50円（20円）
※520歳未満は20円（10円）※521歳未満は10円（5円）※522歳未満は5円（2円）
※523歳未満は2円（1円）※524歳未満は1円（50円）※525歳未満は50円（20円）
※526歳未満は20円（10円）※527歳未満は10円（5円）※528歳未満は5円（2円）
※529歳未満は2円（1円）※530歳未満は1円（50円）※531歳未満は50円（20円）
※532歳未満は20円（10円）※533歳未満は10円（5円）※534歳未満は5円（2円）
※535歳未満は2円（1円）※536歳未満は1円（50円）※537歳未満は50円（20円）
※538歳未満は20円（10円）※539歳未満は10円（5円）※540歳未満は5円（2円）
※541歳未満は2円（1円）※542歳未満は1円（50円）※543歳未満は50円（20円）
※544歳未満は20円（10円）※545歳未満は10円（5円）※546歳未満は5円（2円）
※547歳未満は2円（1円）※548歳未満は1円（50円）※549歳未満は50円（20円）
※550歳未満は20円（10円）※551歳未満は10円（5円）※552歳未満は5円（2円）
※553歳未満は2円（1円）※554歳未満は1円（50円）※555歳未満は50円（20円）
※556歳未満は20円（10円）※557歳未満は10円（5円）※558歳未満は5円（2円）
※559歳未満は2円（1円）※560歳未満は1円（50円）※561歳未満は50円（20円）
※562歳未満は20円（10円）※563歳未満は10円（5円）※564歳未満は5円（2円）
※565歳未満は2円（1円）※566歳未満は1円（50円）※567歳未満は50円（20円）
※568歳未満は20円（10円）※569歳未満は10円（5円）※570歳未満は5円（2円）
※571歳未満は2円（1円）※572歳未満は1円（50円）※573歳未満は50円（20円）
※574歳未満は20円（10円）※575歳未満は10円（5円）※576歳未満は5円（2円）
※577歳未満は2円（1円）※578歳未満は1円（50円）※579歳未満は50円（20円）
※580歳未満は20円（10円）※581歳未満は10円（5円）※582歳未満は5円（2円）
※583歳未満は2円（1円）※584歳未満は1円（50円）※585歳未満は50円（20円）
※586歳未満は20円（10円）※587歳未満は10円（5円）※588歳未満は5円（2円）
※589歳未満は2円（1円）※590歳未満は1円（50円）※591歳未満は50円（20円）
※592歳未満は20円（10円）※593歳未満は10円（5円）※594歳未満は5円（2円）
※595歳未満は2円（1円）※596歳未満は1円（50円）※597歳未満は50円（20円）
※598歳未満は20円（10円）※599歳未満は10円（5円）※600歳未満は5円（2円）
※601歳未満は2円（1円）※602歳未満は1円（50円）※603歳未満は50円（20円）
※604歳未満は20円（10円）※605歳未満は10円（5円）※606歳未満は5円（2円）
※607歳未満は2円（1円）※608歳未満は1円（50円）※609歳未満は50円（20円）
※610歳未満は20円（10円）※611歳未満は10円（5円）※612歳未満は5円（2円）
※613歳未満は2円（1円）※614歳未満は1円（50円）※615歳未満は50円（20円）
※616歳未満は20円（10円）※617歳未満は10円（5円）※618歳未満は5円（2円）
※619歳未満は2円（1円）※620歳未満は1円（50円）※621歳未満は50円（20円）
※622歳未満は20円（10円）※623歳未満は10円（5円）※624歳未満は5円（2円）
※625歳未満は2円（1円）※626歳未満は1円（50円）※627歳未満は50円（20円）
※628歳未満は20円（10円）※629歳未満は10円（5円）※630歳未満は5円（2円）
※631歳未満は2円（1円）※632歳未満は1円（50円）※633歳未満は50円（20円）
※634歳未満は20円（10円）※635歳未満は10円（5円）※636歳未満は5円（2円）
※637歳未満は2円（1円）※638歳未満は1円（50円）※639歳未満は50円（20円）
※640歳未満は20円（10円）※641歳未満は10円（5円）※642歳未満は5円（2円）
※643歳未満は2円（1円）※644歳未満は1円（50円）※645歳未満は50円（20円）
※646歳未満は20円（10円）※647歳未満は10円（5円）※648歳未満は5円（2円）
※649歳未満は2円（1円）※650歳未満は1円（50円）※651歳未満は50円（20円）
※652歳未満は20円（10円）※653歳未満は10円（5円）※654歳未満は5円（2円）
※655歳未満は2円（1円）※656歳未満は1円（50円）※657歳未満は50円（20円）
※658歳未満は20円（10円）※659歳未満は10円（5円）※660歳未満は5円（2円）
※661歳未満は2円（1円）※662歳未満は1円（50円）※663歳未満は50円（20円）
※664歳未満は20円（10円）※66

開館30周年記念展

徳川の平和（パクス・トクガワナ）－250年の美と叡智－

主催：静岡県立美術館・静岡新聞社・静岡放送

特別協賛：清水銀行

会期：平成28年（2016）9月17日（土）～

11月3日（木・祝）

■概要

本展は、徳川家康没後400年という節目を記念して、徳川将軍家がもたらした天下泰平の時代に描かれた絵画の再評価を、平和な時代性に着目して行おうとしたものである。江戸時代前・中・後期それぞれの時代の名品を中心とする約100点の作品によって、江戸絵画史250年の流れを紹介した。展示は、江戸絵画の素晴らしさを視覚的に体感出来る構成となるように工夫し、10点余りの国宝・重要文化財を筆頭に、二条城の金碧障壁画、金屏風などの絢爛豪華な大作・傑作が会場を彩った。また、名品以外にも、新出作品や初公開作品も多数展示し、江戸絵画の新たな一面を紹介することによって、研究的な意義も追究した。

■関連事業

・特別講演会

時間：各回とも14：00～15：30／当館講堂

9月18日（日）対談「〈徳川の平和〉の諸条件」

講師：小和田哲男氏（静岡大学名誉教授）×芳賀 徹（当館館長）

9月19日（月・祝日）

鼎談「パクス・トクガワナに花開く絵画」

講師：河野元昭氏（京都美術工芸大学学長）×小林 忠氏（岡田美術館館長）×芳賀 徹

9月24日（土）対談「徳川の平和と『花はさくら木』」

講師：辻原 登氏（作家）×芳賀 徹

10月1日（土）

講演「江戸漢詩に描かれた都市風俗と田園風景」

講師：揖斐 高氏（成蹊大学名誉教授）

10月8日（土）

講演「静岡と三遊亭円朝——江戸の落語の集大成者」

講師：延広眞治氏（東京大学名誉教授）

10月15日（土）

講演「江戸の好奇心——絵にみる異国の人と動物たち」

講師：内山淳一氏（仙台市博物館副館長）

10月22日（土）

講演「江戸時代の自然災害と飢饉、疫病」

講師：磯田道史氏（国際日本文化研究センター准教授）

10月29日（土）

講演「東福門院と寛永二条城行幸」

講師：笠谷和比古氏（国際日本文化研究センター名誉教授）

11月3日（木・祝日）講演「武家屋敷の美少年」

講師：泉 万里（当館学芸部長）

・美術講座

10月16日（日）14：00～15：30／当館講座室

「美の玉手箱をひらくとき——『徳川の平和』展のまどろこ 狩野派作品を中心に」

講師：野田麻美（当館学芸員）

・フロアレクチャー

9月22日（木・祝）、10月10日（月・祝）、10月30日（日）

各日14：00から1時間程度／当館展示室

■図録

編集：野田麻美（静岡県立美術館）

デザイン：川添英昭

発行：静岡県立美術館

制作：印象社

仕様：A4版変形、232頁

内容：

ごあいさつ

巻頭論文 芳賀 徹「『徳川の平和』への史的眺望
— 風きのふの空のありどころ 燕村」

図版

コラム

野田麻美「『記録画』の奥底に潜むもの—狩野益信
『朝鮮通信使図屏風』の謎を読む」

泉 万里「江戸山王祭図屏風」の謎」

野田麻美「光かがやく世界へのいざない—池大雅
『柳下童子図屏風』における革新性」

芳賀 徹「渡辺崋山『翎毛虫魚冊』について—小さなものの放つ生命の輝き」

論考 野田麻美「江戸狩野派の〈倣古図〉をめぐる
一考察—狩野探幽筆『学古図帖』を中心に」

作品解説

参考文献

落款印章

作品目録

■出品目録

pp.86～88を参照



▲チラシ

再発見！ ニッポンの立体 生人形からフィギュアまで

主催：静岡県立美術館、読売新聞社、静岡第一テレビ、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
会期：平成28年11月15日（火）～29年1月9日（月・祝）

■概要

古来、日本では仏像、神像、人形、置物、建築彫物など様々な立体造形がつけられていた。これらは西洋的な彫刻の概念に基づくものではなく、美術（ファイン・アート）としては位置づけられてこなかったが、近年、日本近代彫刻史の再検討が盛んに行われる中で、改めて注目を集めている。

この展覧会はこういった成果をうけて、彫刻、工芸など従来のジャンル分けを越えたより自由な視点から日本の立体造形を紹介する趣旨で、三重県立美術館・群馬県立館林美術館とともに調査・企画を行った成果である。

主に近世から現代に至る多彩な日本の立体造形作品を紹介しながら、日本における「彫刻」と「工芸」という二つの分野の関わり、西洋的彫刻世界と前近代的造形世界を往還するわが国独特の感性について広く紹介した。

静岡会場では、民俗資料としての置物・人形や江戸の伝統を踏まえ現在に生きる根付から、近代彫刻と近代工芸、現代アーティストによる人物表現、フィギュアや食品サンプル、そしてその淵源としての土偶や埴輪まで、共通巡回作品に加えて静岡独自の出品作品を補強し賑々しく展示した。

■関連事業

・特別対談

日時：12月4日（日）14：00～15：30／

場所：当館講堂

「サブカルチャーからニッポンの立体を考える」

講師：工藤健志氏（青森県立美術館学芸主幹）、
村上 敬（当館上席学芸員）

・実技講座

日時：11月19日（土）及び20日（日）10：00～16：30

場所：当館実技室

「粘土造形 美少女のレシピ」

講師：永島信也氏（根付作家）

・フロアレクチャー

日時：11月27日（日）、12月11日（日）14：00～14：30

場所：企画展示室

■図録

編集・執筆：神尾玲子（群馬県立館林美術館学芸員）、
村上 敬（当館上席学芸員）、毛利伊知郎（三重県立美術館顧問）、原 舞子（三重県立美術館学芸員）

発行：群馬県立館林美術館、静岡県立美術館、三重県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

制作・印刷：印象社

仕様：24.0×19.2cm 176頁

内容：

毛利伊知郎「再発見！ニッポンの立体」

神尾玲子「立体と平面の境界——浮彫に関するいくつかのこと」

原 舞子「小さきものへ——小品から見る日本の立体表現の歩み」

村上 敬「本物そっくり」なひとがたについて——彫刻とヒューマノイドと人形と」

図版

略年譜

主要作家解説

主要参考文献

作品リスト

■出品目録

pp.89-94を参照



蜷川実花展

主 催：静岡県立美術館、静岡朝日テレビ
協 賛：株式会社パナホーム静岡
静岡展特別協力：新静岡セノバ
協 力：富士フイルムイメージングシステムズ株式会社 東京リスマチック株式会社
企画協力：Lucky Star Co., Ltd. 小山登美夫ギャラリー
会 期：平成29年2月1日（水）～3月26日（日）

■概要

現代日本を代表する写真家で、映画、ファッション、広告など様々な分野で表現活動をくりひろげ、幅広い年代層の人々から熱い注目を集めている、アーティストの蜷川実花を紹介する展覧会。2015年に活動20周年を迎え、新たな領域に切り込む、蜷川実花の過去5年間の活動を総括するというコンセプトに基づき、2010年から2015年までに撮影、制作された作品の中から、アーティストがセレクトした9シリーズ約380点を展示した。

具体的には、蜷川の代名詞とも言える、あざやかな色彩の「Flowers」、背景のセットや衣装、小道具にいたるまで、蜷川がディレクションして撮影した著名人のポートレート、2011年3月の東日本大震災直後に、生を謳歌するかのようには咲き誇る桜を、憑かれたように撮影した「桜」、花火や野外フェスの鮮烈で、刹那的な美をとらえた最新作「Light of」などによって構成された。

とりわけ、第2室の「桜」を展示したコーナーでは、展覧会としては国内初となる、展示室の壁、床ともに、桜のイメージで全面を覆いつくした晴れやかな空間インスタレーションの展示を行い、来場者から好評を博した。

また、第1室から第3室に展示した4つのシリーズを写真撮影可能とし、撮影した画像をInstagramにアップすることを呼びかけるパネルを掲示して、従来とは異なる鑑賞方法を提案した。この呼びかけに応じて、2000件を超える展示風景の画像が、Instagramにアップされた。

第1線で活躍する写真家として、あるいは若い女性のファッション・リーダー的存在として、近年、特に注目を集めているアーティストだけあって、県内外から、大勢の方に来場いただいた。

■関連事業

- ・開催記念「蜷川実花×小山登美夫 トークショー」
日 時：1月31日（火） 13：30開場 14：00～15：00
会 場：当館講堂
出 演：蜷川実花氏、小山登美夫氏
定 員：250名
参加費：トークショー付観覧チケット料金（前売料金）、販売手数料
販 売：朝日テレビチケットセンター
- ・開催記念「クラシックミニコンサート」
日 時：3月18日（土） 14：00～15：00
会 場：静岡県立美術館 講堂
出 演：静岡交響楽団
曲 目：「展覧会の絵」よりプロムナード&古城ほか
定 員：250名
参加費：無料

■出品目録

pp.95－96を参照



▲チラシ

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要第1号を刊行し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。したがって研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に基づき、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関、研究者へ配布した。

第32号

■版 型 29.7 × 21.0 cm

■頁 数 80ページ

■発行日 平成29年3月31日

■内 容

□カラー口絵

- ・狩野安信・常信・探信・益信・探雪《名画集》個人蔵
- ・堀田正民《行囊詩画》個人蔵

□論文

- ・南 美幸「森田亀之助「泰西現代巨匠傳叢二 佛蘭西彫刻家ロダン」に関する考察—その原典と日本のロダン受容における位置—」
- ・野田麻美「ポスト探幽世代の画家たちについて—狩野安信・常信・探信・益信・探雪《名画集》（個人蔵）の史的位置—」
- ・浦澤倫太郎「近江宮川藩第六代藩主・堀田正民による《行囊詩画》について—大名が描いた東海道と中山道の風景—」



▲表紙

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌・ニューズレターなどへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説などは除いている。

■泉 万里

- ・口頭発表「月次祭礼図模本にみる祇園会風流の特異点」（第53回藝能史研究会大会、平成28年6月5日）
- ・口頭発表「『元信』印富士参詣曼荼羅と富士見の旅」（「中近世絵画における古典の変成と再結晶化」[科研基盤B] 研究会、平成29年3月26日）
- ・研究ノート「『江戸天下祭図屏風』研究事始め」（静岡県立美術館ニュース『アマリリス』122号、平成28年7月）

■三谷里華

- ・論文“Raphaël Collin et ses toiles peintes ou esquissées à Fontenay-aux-Roses”, *Raphaël Collin (1850-1916) peintre fontenaisien*, Archives municipales de Fontenay-aux-Roses, 2016.

■南 美幸

- ・論文「フランスにおける日本人のロダン作品体験 1900～1918年－文献からの分析・整理」（『ロダン没後100年 ロダンと近代日本彫刻』、小平市平櫛田中美術館、平成29年2月）
- ・論文「森田亀之助『泰西現代巨匠傳叢二 佛蘭西彫刻家ロダン』に関する考察－その原典と日本のロダン受容における位置」（『静岡県立美術館紀要』32号、平成29年3月）

■村上 敬

- ・論文「「本物そっくりな」ひとがたについて―彫刻とヒューマノイドと人形と」（群馬県立近代美術館・静岡県立美術館・三重県立美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会『再発見！ニッポンの立体』、平成28年7月）
- ・論文「ロボットをめぐる展示の問題」（大阪大学美学研究室『美学研究』11号、平成29年3月）

■川谷承子

- ・論文「鈴木基真 実在感のない風景」（『記録集 めぐるりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる』、平成29年3月）

■泰井 良

- ・口頭発表「和田英作と近代の富士山－富士山をモチーフとして－」（三保松原学シンポジウム2016、平成28年11月5日）
- ・論文「理念なき博物館は、消えゆくのみ」（平成26～28年度 日本学術振興会科学研究費助成事業研究成果報告書『日本の博物館のこれから～「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営～』）

■石上充代

- ・研究ノート「渡辺省亭《十二ヶ月花鳥図》の構図について」（静岡県立美術館ニュース『アマリリス』123号、平成28年10月）

■野田麻美

- ・口頭発表「狩野探幽周辺の倣古図に関する一考察－探幽筆『学古図帖』を中心に」（美術史学会東支部例会、平成28年4月2日）
- ・論文「江戸狩野派の〈倣古図〉をめぐる一考察－狩野探幽筆『学古図帖』を中心に」（『徳川の平和－250年の美と叡智』、平成28年9月）
- ・論文「ポスト探幽世代の画家たちについて－狩野安信・常信・探信・益信・探雪『名画集』（個人蔵）の史的位置－」（『静岡県立美術館紀要』32号、平成29年3月）
- ・研究ノート「狩野探幽筆『学古図帖』（個人蔵）の先にあるもの－〈倣古図研究〉事始め－」（静岡県立美術館ニュース『アマリリス』121号、平成28年4月）

■浦澤倫太郎

- ・論文「堀田正民《行囊詩画》－大名が描いた東海道と中山道の風景－」（『静岡県立美術館紀要』32号、平成29年3月）
- ・研究ノート「平井顕斎《耕織図》」（静岡県立美術館ニュース『アマリリス』124号、平成29年1月）

研究会

4月

江戸天下祭図屏風について

泉 万里

本図は江戸時代の祭礼図屏風中屈指の名品として知られていながら、長く所在不明であった屏風である。近年再発見され、「國華」特集号が組まれ、明暦大火直前の江戸城内をめぐる山王祭礼行列を描くものであること、紀伊徳川家周辺で描かれたものであろうことなどが指摘された。その後、水戸光圀由来の屏風という伝承を紹介して、発注者像を絞ろうとする試みや、本図寺伝来から慶安事件（由比正雪らによる謀反未遂事件。これに紀伊徳川頼宣の印のある文書が使われていたことで、紀伊徳川家にも嫌疑がかけられた）と紀伊徳川家の関係から制作の動機をさぐる「歴史推理」も行なわれている。

はじめに、そうした最新の知見が根拠を再検討し、つづいて、従来見過ごされてきた昭和初期になされた本図に関わる言説を紹介する。

そして、本図と気脈を通じさせる作品を数点あげ、本図が狩野派系の絵師によって、明暦ごろに描かれたものと考えられることを指摘した。

最後に、「天下祭」を主題とするほかの作例の、やや特殊な受容の事例をあげ、本図の制作の背景を考えた。

5月

直次郎と鷗外——ミュンヘンの青春

芳賀 徹

画家原田直次郎と森鷗外は、ミュンヘンに同時期に滞在し、そこで知り合う。鷗外は直次郎の磊落な芸術家気質を好み、親交をむすんだ。直次郎は日本に妻を残して留学していたが、ミュンヘンの女性たちから慕われ、数多くの恋愛関係をもつが、そうしたロマンスの数々も鷗外はつぶさに観察している。日本に帰国したのちも2人の交友関係は続いた。

鷗外は、直次郎の、西洋絵画の古格を学びとった重厚な絵画を、印象派などの新しい芸術運動を学んだ日本人画家の絵画よりも高く評価していた。もしも、西洋に新しい芸術運動が起こらず、古き伝統をうけつづき直次郎の様式が日本で発展、成長したならば、日本の洋画はかえって画法としては壮健な発達を遂げたのではないか、という鷗外の問いかけは、いまでもその鮮度を失っていない。

6月

平井顕斎 人と芸術

浦澤倫太郎

遠州で活躍した平井顕斎（享和2〔1802〕－安政3〔1856〕）とその作品について発表した。

顕斎は現在の牧之原市にあたる、榛原郡青池村の豪農の家に生まれた、静岡ゆかりの画家である。絵の道を志して江戸に三度上り、谷文晁や渡辺崋山に絵を学んだ後、故郷で活動が続けた。その作品は同地を中心に愛好されてきた。

本発表では、県内所蔵者宅での調査結果を元に、まず初期作品から時代順に顕斎の画業を概観し、師の崋山から特に大きな影響を受けていることを確認した。そして、代表作のひとつに数えられる《耕織図》二幅対を取り上げた。本作の構図や個々のモチーフにおいて、崋山をはじめとする先行作品からの引用が認められることを指摘し、顕斎が様々な図像を組み合わせることで本作を描いていると結論付けた。

なお、本発表後半部は、アマリス第124号「研究ノート」に「平井顕斎《耕織図》」と題して掲載した。

7月

「モダン」日本の観た「フジタ」——1930（昭和5）年、宝塚少女歌劇、レビュー『パリセット』

三谷理華

藤田嗣治（1886-1968）は、20世紀初頭のパリに渡り、その強烈な個性と独特の画風で一躍フランス画壇の寵児となった日本人画家である。その人気者ぶりは、パリのレビューの登場人物としても取り上げられる程であった。そしてこのレビューを観た宝塚少女歌劇団の演出家、白井鐵造（1900-1983）は、帰国後の1950（昭和5）年、同歌劇団での自作のレビュー『パリセット』においても「フジタ」を登場させている。

パリと日本のレビューに登場した「フジタ」は、いづれも憎めないお調子者として表現されていたと思われるが、日本ではこれに、見知らぬ異郷での「成功者」のイメージも付与されていたことが窺われることを本論では指摘した。従って当時の日本において「フジタ」は、見知らぬ異国に「モダン」な夢を観ようとした人々にとっては、現実の世界と夢の世界とを繋ぐ「媒介者」の役割を託されていたものと結論付けた。

9月

ピラネージの最初期と景観画のリアルについて

新田建史

18世紀イタリアのヴェドゥータ（景観画）や風景表現は、必ずしも「視覚に忠実」な訳ではなく、自然に見えるよう、画面を適宜調整した結果である。今日で言えば、建築を実際に建てる前に制作するパース図面のように、データに基づいて正確に、バーチャルな景観を画面上で構築して見せるものなのであって、パーツを適宜取捨選択した結果なのである。ローマの景観画で名高いジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ（1720～1778）と、彼よりも概ね100年前にローマで活躍した版画家、ジョヴァンニ・パッティスタ・ファルダ（1643～1678）との作品を比較してみると、ピラネージが同じ場所、同じ建物を描写するに当たり、先行作例に対してどのような工夫を凝らしたのかを、はっきりと見て取ることが出来る。本発表では両者の比較に加え、ガイウス・ケスティウスのピラミッドを例に取り、この建築物が都市ローマを描く際のアトリビュートとして機能していることを指摘し、景観画における図像学の可能性について言及した。

11月

近年の現代美術展から見る作品の再制作と資料の関係について

川谷承子

現存しない作品の再制作展示は、現代美術の展覧会においては珍しいものではなく、当館で平成25年に開催した「グループ「幻触」と石子順造 1966-1971」展を含め、美術館の展覧会でもしばしば行われている。本発表では、再制作を行うにあたっては、作家本人からの指示に加えて、制作当時の記録写真や印刷物等がいかに重要な資料になりうるかを、発表者自身の展示経験と、昨今頻繁に開かれているアーカイブをテーマとするシンポジウムでの研究者間の議論を踏まえて指摘した。平成28年に国立国際美術館で開催された「THE PLAY since 1967」展では、物質として残る作品ではなく、「行為」に取り組んできたグループの活動を、印刷物・記録写真・記録映像・音声記録・原寸大資料によってのみ紹介する試みを行い、活動の全貌を視覚的に今に伝えることに成功していた。1960年代には、制作をして発表し、互いに批評し合うという相互関係によって、表現行為が成立しており、作品を物質として未来永劫作品を残していくという発想はなかった。そのような時代の作品を検証するにあたって

は、現在の視点から、再制作が是か非か、あるいは再制作は真正の作品か否かという問いを立てる事は不毛で、再制作展示そのものが、現代に当時の活動の歴史的意味を提起する重要な資料になりうると思う。

12月

日本におけるロダン受容 フランスでの日本人のロダン作品体験 1900～1918—文献からの分析・整理

南 美幸

1900年のパリ万国博覧会を契機として、第一次世界大戦終了（1918年）頃までに美術研鑽のため渡仏した日本人が現地であるいは帰国後記した文献は、彼らがどのようなロダン作品を見て、どのような印象・感想を持ったかを物語る重要な一次資料である。本研究会では、これらの文献から日本人のロダン受容を分析・整理して基本的なデータを提示し、いくつか考察を加えた。これまでの日本におけるロダン受容すなわち日本のロダニズム研究のありようは、概観すると、以下の2つの方向性に大別される。一つは日本の近代彫刻へのロダンの影響を全般的に論ずる方向、もう一つは彫刻以外の分野へのロダンの影響（白樺などの文学や精神風土）に関する研究である。フランスでの日本人のロダン作品体験の実態に関する先行研究はこれまでになく、日本におけるロダニズムの原点を問い直す一端となると思われる。

中村大三郎《浄謚》について

石上充代

《浄謚》（二曲一双屏風、個人蔵）は、大正10年（1921）の第2回帝展出品作で、中村大三郎が近世初期風俗画に依拠する作品を集中的に描いていた画業前半期の作。近世初期風俗画の人物の型を花摘みの姿に置き換えるとともに、合理的な空間表現を取り込み、近代的なアレンジを試みる。切り取ったような人物造形、花をさしだす女性のしぐさ、画面全体の静謐な雰囲気などには、当時さかんに紹介されていたフラ・アンジェリコの影響が指摘できる。のちに日本画における典型的な美人画の様式を作り上げた大三郎の画業の背後には、国内外の幅広い絵画への関心と学習があった。また、彼の作品に一貫して看取できる静謐な感覚については、大三郎の資質であるとともに、フラ・アンジェリコなど西洋絵画などを通して育まれた感性であった可能性も指摘できよう。

2月

延宝・天和年間における江戸狩野派の活動について— 「名画集」の分析から—

野田麻美

平成28年秋に開催した「徳川の平和—250年の美と叡智」展の第一章にて紹介した、狩野安信・常信・探信・益信・探雪筆「名画集」の分析を中心に、当時の江戸狩野派の活動について検討した内容を発表した。

発表においては、探幽没後の延宝・天和年間における江戸狩野派の活動について、「名画集」の各図の分析を通じて考察した。まずは、各図の配列から画家の序列を検討し、関連作品である「花鳥人物図画帖」（嬉遊会コレクション）、「画帖」（ハーバード大学美術館）との関係性を明らかにした。その後、80図ある図の様式的な特徴について、画家ごとに検討し、本作が安信晩年の大和絵様式をよく示す作品であり、その影響を他の画家がそれぞれ受けていることを指摘した。以上により、本作が延宝・天和年間における江戸狩野派の活動を知るうえで重要な作品であることを明らかにし、その史的意義について考察した。

川村清雄《海底に遺る日清勇士の髑髏》再考

村上 敬

当館所蔵の川村清雄作品《海底に遺る日清勇士の髑髏》について、その物理的現況と制作事情について再検討を行った。既往研究で指摘されていた制作者（川村清雄）・発注者（木村浩吉）・着賛者（勝海舟）の関係を再確認したのち、これまで指摘されていなかった木村と福澤諭吉（アンチ勝海舟として著名）の交遊や、木村による箱書き墨書をめぐる時代性（作品制作の30数年後、昭和6年という時代における本作の位置づけ）について評価した。

また、同作は日清戦争という同時代の事件を扱った「歴史画」であるが、その現れ方は展覧会美術における歴史画とはかなり異なったものとなっている。今後は、近代の美術展覧会における歴史画といったマスメディア論的問題のみならず、今回取り上げた作品のようないわば「親密な（intimate）」側面をもつ——あえていえば近世以前の日本絵画のような——近代絵画についてあらたな視点から論じていく必要と可能性があるのではないかと展望した。

3月

平成32年（2020年）実施学習指導要領の改訂について 石津宏直

平成30年より小学校、平成31年より中学校で実施となる新学習指導要領案が平成29年2月14日付で発表された。学習指導要領は学校基本法を基に、全国どの地域でも一定水準の教育を受けられるようにする、カリキュラム作りの基準となるものであり、1947年から約10年に1度のサイクルで改定が行われてきた。

今回の改定では「アクティブラーニング」「道徳の教科化」「プログラミング」などが話題となっている。美術館としては、全ての教科等が①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等、の3つの柱で再整理されたことによる変化や、図工・美術科の「B鑑賞」の内容に、美術館や博物館等との「連携」という言葉が追加され、今後は来館による作品観覧に留まらず、学校での鑑賞教育への協力を求められる変更であると考えられる。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が継続されており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による写真撮影を行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板として、受入番号順フォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。

(2) 館蔵品のデジタル画像

平成16年度からは、新収蔵品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影も行なっている。作成または撮影されたデジタル画像は、DVDなどで納品される。また課内PCにも保存され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。デジタル画像が作成されていない館蔵品もまだあり、それらの遡及撮影も懸案となっている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、様々な形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループに整理を行なっていただいております、学芸員の研究などに活用されている。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、各企画展毎に整理収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には市販のデータベースソフト「桐」を使用している。

(1) 館蔵品

館蔵品データベースには、題名、材質、伝来など基本情報が入力されている。デジタル画像は主な作品については揃っているが、未作成の作品については順次作成を進めている。

館蔵品データのバックアップを、館内だけではなく、館外の適切な場所に保管することも、防災対策上考えていかねばならない。

(2) 図書

図書データはデジタル化され、来館者による検索も閲覧室に設置されたPC上で行なうことができる。新規図書は、図書担当職員によってデータベース登録が行なわれている。

博物館実習

当館は、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受け入れには、次の3つを条件とし、今年度は7大学12名の実習生を受け入れ、8月8日から12日の5日間にわたって実習を行った。

(1) 県内出身者もしくは県内の大学に在籍していること。

(2) 美学・美術史学、または美術教育・制作・政策等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。

(3) 大学の推薦を受けていること。

当館の博物館実習は、実習生にじかに美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館界を支える一員としての素養を身につけてもらうことを目指している。カリキュラムは実習、講義、演習、見学からなり、それぞれ当館学芸課の職員が担当した。

昨年度に引き続き「美術館は社会に必要か？」というテーマを設定し、現在の日本の美術館に期待されている社会的役割を、実習を通じて学生に考えてもらうことを目指した。このテーマに沿って、事前レポートの提出、発表、および実習後の成果をまとめた事後レポートの提出を義務付け、学習効果の意識化と定着を図った。

※以下()内は当館担当者名

■実習内容

・実習

作品取扱実習(南、三谷、石上、野田、浦澤)

収蔵庫内実習(新田、浦澤)

「夏休みこどもワークショップ」補助体験(石津)

・講義

県立美術館の概要(泉)

コレクション形成とその活用の工夫(泉)

展覧会ができるまで①：国際巡回展(三谷)

展覧会ができるまで②：他館との共同展(村上)

展覧会ができるまで③：自主企画展(川谷)

文化財の保全・管理(新田)

ロダン館とロダン作品について(南)

教育普及事業について(石上)

他機関との連携事業(川谷)

博物館評価と文化政策の基礎(泰井)

ボランティアについて(浦澤)

・演習

事前課題発表(浦澤)

・見学

施設見学①：裏方(浦澤)

施設見学②：表方(浦澤)

■カリキュラム

(1) 10:00~10:50

(2) 11:00~11:50

(3) 13:00~13:50

(4) 14:00~14:50

(5) 15:00~15:50

(6) 16:00~16:50

8月8日(月)

(1) オリエンテーション(浦澤)

(2) 県立美術館の概要(泉)

(3) 施設見学①：表方(浦澤)

(4) 事前課題発表(浦澤)

(5) 事前課題発表(浦澤)

(6) 課題制作・実習ノート整理(浦澤)

8月9日(火)

(1) 展覧会ができるまで①：海外巡回展(三谷)

(2) コレクション形成とその活用の工夫(泉)

(3) 収蔵庫内実習(新田、浦澤)

(4) 収蔵庫内実習(新田、浦澤)

(5) 収蔵庫内実習(新田、浦澤)

(6) 課題制作・実習ノート整理(浦澤)

8月10日(水)

(1) 展覧会ができるまで②：他館との共同展(村上)

(2) 教育普及事業について(石上)

(3) 作品取扱実習(南、三谷、石上、野田、浦澤)

(4) 作品取扱実習(南、三谷、石上、野田、浦澤)

(5) 作品取扱実習(南、三谷、石上、野田、浦澤)

(6) 課題制作・実習ノート整理(浦澤)

8月11日(木)

(1) 文化財の保全・管理(新田)

(2) 施設見学②：裏方(浦澤)

(3) 他機関との連携事業(川谷)

(4) 展覧会ができるまで③：自主企画展(川谷)

(5) 広報・ボランティアについて(浦澤)

(6) 課題制作・実習ノート整理(浦澤)

8月12日(金)

(1) 博物館評価と文化政策の基礎(泰井)

(2) ロダン館とロダン作品について(南)

(3) 「夏休みこどもワークショップ」補助体験(石津)

(4) 「夏休みこどもワークショップ」補助体験(石津)

(5) 「夏休みこどもワークショップ」補助体験(石津)

(6) 課題制作・実習ノート整理(浦澤)

収蔵品展

当館では本館第7展示室で収蔵品展を開催している。
本年度は始めに新収蔵品展を開催し、コレクションに加わった新たな顔ぶれを紹介した。その後、当館の収蔵品を幅広くご覧いただくために、主にジャンルごとに展示を行った。

本館1階エントランスにある名品コーナーでは、常時3点の作品を公開しており、どなたでも無料で鑑賞することができる。

本年度の収蔵品展は、以下の通りである。

■平成28年度収蔵品展

4月5日（火）～6月19日（日）

新収蔵品展

7月9日（土）～9月4日（日）

フランス版画コレクションより

ジャック・カロ、ウジェーヌ・イザベイ、ミレーら
を中心に

9月6日（火）～11月6日（日）

静岡ゆかりの近代画家 日本画・洋画でつづる

11月8日（火）～1月9日（月・祝）

西洋の絵画 画材とともに3

2月1日（水）～4月2日（日）

山の風景 富士山、箱根からスイスの山まで

■出品目録

pp.97～98を参照

移動美術展

静岡県立美術館のコレクションは現在2,600点を超え、常時開催している収蔵品展は、多くの来館者からご好評をいただいている。しかし、静岡県は東西に広く、静岡市から遠く離れた地域では、これらのコレクションを鑑賞する機会に必ずしも恵まれているとはいえない。移動美術展は、開館以来、県内の遠方にあつて、静岡県立美術館のコレクションをご覧いただくことが難しい方々のために、選りすぐりのコレクションを鑑賞いただく機会として開催するものである。

静岡県立美術館 移動美術展 島田市出身の洋画家 北川民次と静岡の創作版画

会場：島田市博物館、島田市博物館分館

会期：平成28年9月10日（土）～10月16日（日）

主催：静岡県立美術館、島田市博物館、ヒストピア島田
観覧料：無料

今回の移動美術展では、島田市（旧・金谷町）出身の北川民次の作品を中心として、静岡ゆかりの絵画や創作版画を展示した。北川民次は、メキシコで児童画教育に大きく貢献し、また帰国後は独自の作風で日本の洋画界において重要な役割を果たした。また静岡は、中川雄太郎が参加した「童土社」をはじめ、現在も創作版画が盛んな土地としても知られている。こうした静岡ゆかりの画家たちによる作品を通じて、静岡の魅力を再発見する機会とした。

■会期中イベント

静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー

9月18日（日） 14：00～

博物館講座「静岡ゆかりの画家たち」

講師：泰井 良（当館上席学芸員）

9月25日（日） 13：30～15：00

当館ボランティアによるギャラリートツアー

10月10日（月・祝）、10月16日（日） 11：00～、

13：00～、14：00～、

■出品目録

p.99参照

島田市出身の洋画家
北川民次と
静岡の創作版画

2016 観覧無料
9月10日（土）～10月16日（日）
午前9時～午後5時（入館は、午後4時30分まで）

島田市博物館
〒427-0237 静岡県島田市南一丁目5番10号 TEL 0547-37-1000 FAX 0547-37-8900

島田市博物館分館（海野光弘版画記念館）
〒427-0237 静岡県島田市南二丁目1番5号 TEL FAX 0547-34-3218

本展覧：9月10日（土）～10月16日（日）10時～18時（休）休館、10月10日（土）休館、10月11日（日）休館
主 催：静岡県立美術館、島田市博物館、ヒストピア島田

静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー（作品解説）
9月18日（日） 午後2時～午後3時30分
博物館講座「静岡ゆかりの画家たち」
講師：泰井 良（静岡県立美術館上席学芸員）
9月25日（日） 午後13時30分～15時 予約受付あり

静岡県立美術館ボランティアによるギャラリートーク（30分程度）
10月10日（月・祝）、10月16日（日） 午前11時～午後1時、午後2時～午後4時 予約受付あり

※島田市博物館分館日本画廊では、移動展の機会中、海野光弘の本展覧作品（約35点）を中心に展示します。

つなぐる。次へ

▲チラシ

富士市制施行50周年記念
静岡県立美術館 移動美術展
富士山と静岡ゆかりの絵画

会 場：富士市文化会館（ロゼシアター）展示室
会 期：平成28年10月29日（土）～11月6日（日）
主 催：静岡県立美術館、公益財団法人富士市文化振
興財団
観覧料：無料

今回の移動美術展では、数あるコレクションの中から、平木政次、五姓田義松、石川欽一郎など富士山を描いた絵画を中心として、曾宮一念、栗原忠二、柏木俊一など静岡ゆかりの画家たちの作品を展示した。信仰と芸術の源泉ともなった富士山の絵画を通じて、あらためて静岡の魅力を感じていただく機会とした。

■会期中イベント

静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー

10月29日（土） 10：00～、
11月1日（火） 15：00～

■出品目録

p.101参照

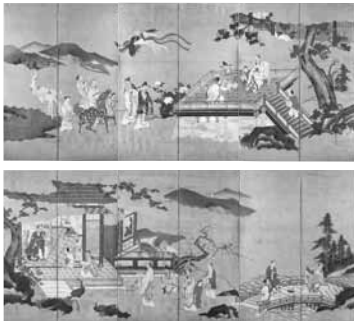


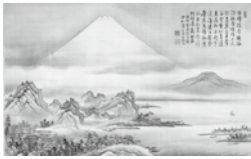
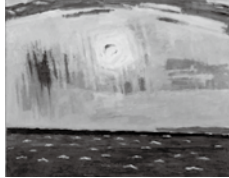
▲チラシ

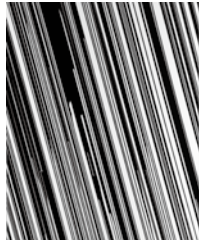
平成28年度 新収蔵品

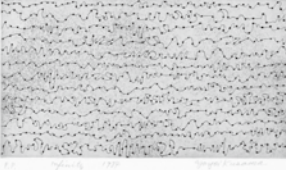
当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

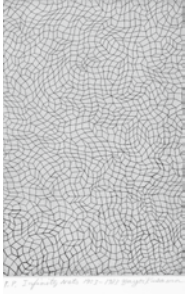
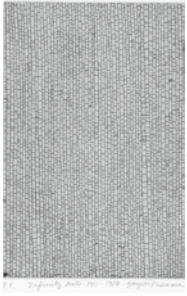
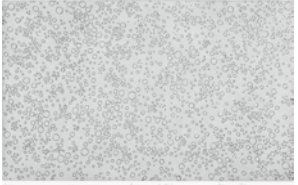
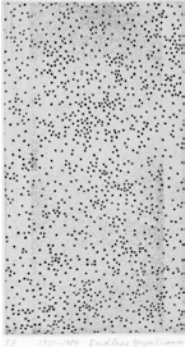
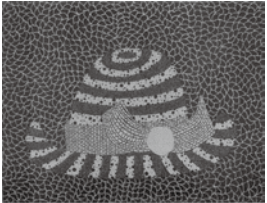
- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とした国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモチーフとする作品

No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
1	狩野益信	賢帝図屏風	17世紀 (江戸時代 前期)	紙本金地着色	各163.8×362.0	静岡県立美術館友の会 寄贈
十七世紀に活躍した狩野探幽の養子だった狩野益信の作品で、金屏風に中国の賢帝の逸話が描かれている。 						
2	平井顕斎	李白陶酔図	1835 (天保6)	紙本淡彩	108.8×50.1	野村紀男氏 寄贈
唐代の詩人・李白の酩酊した様子が描かれる。現在確認されている顕斎の作品の中では、最も初期の年紀を持つ。 						
3	平井顕斎	耕織図	1845 (弘化2)	紙本着色	各151.6×74.4	野村紀男氏 寄贈
右幅の耕作図と左幅の織機図からなる二幅対。師・渡辺崋山《月下鳴機図》（静嘉堂文庫美術館蔵）などから図取りが行われている。精緻な描写を見せる、顕斎の代表作の一つ。 						

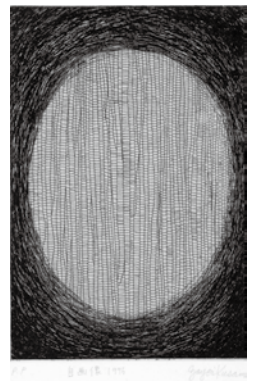
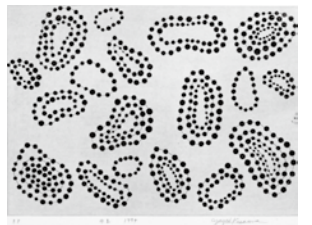
No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
4	平井顕斎	鍾馗嫁妹図	19世紀 (江戸時代 後期)	紙本墨画淡彩	129.7×47.4	野村紀男氏 寄贈
						鍾馗が妹を嫁がせるのに奔走したという逸話が描かれる。師・華山が描いたとされる《鍾馗嫁妹図》の忠実な模写。 
5	平井顕斎	鴈門急雨図	19世紀 (江戸時代 後期)	絹本墨画淡彩	161.3×71.2	野村紀男氏 寄贈
						中国・山西省にある鴈門が描かれる。明代末期の画家・李士達《驟雨行客図》の模写。 
6	平井顕斎	望嶽図	19世紀 (江戸時代 後期)	絹本墨画	41.3×66.3	野村紀男氏 寄贈
						駿河湾の向こうにそびえる富士山と、清見寺、三保の松原が併せて描かれる。画面右上の賛も含め、伝雪舟《富士三保清見寺図》を元としている。 
7	小糸源太郎	早春	1940 (昭和15)	キャンヴァス、 油彩	50.5×61.0	國分繁子氏 寄贈
						小田原市にある曾我梅林を描いたもの。春の爽やかな空気が感じられるとともに、湿潤な日本の気候・風土をも着実に捉えており、そこには温もりさえも感じられる。小品ではあるが、アトリエで完成された作品には観られない、小糸の豊かな感受性が伝わる佳作である。 
8	小糸源太郎	東海	1975 (昭和50)	キャンヴァス、 油彩	73.0×91.0	國分繁子氏 寄贈
						東の空から太陽が昇る様子を流麗な筆致と鮮やかな色彩で捉えた最晩年、円熟期の作品である。昭和50年(1975)に開催された第7回日展に出品された意欲作でもある。本作は、目の病を得た後に制作された作品で、画面からは余分なものが一切なくなり、そのため主観によるところが大きく、力強い線描と鮮やかな色彩によるダイナミックな画面構成となっている。 

No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
9	北川民次	山村初春 (高草山風景)	1941 (昭和16)	キャンヴァス、 油彩	60.5×72.5	北川禮太郎 氏寄贈
						静岡県焼津市と藤枝市との境にある高草山をモチーフとした作品。北川民次の中で、取材地がはっきりとしている作品は少ない。また制作年や来歴などが明確な作品であり、今後の北川民次研究にとって大変貴重な作品である。 
10	名和晃平	Direction #23	2012 (平成24)	キャンヴァス、 ペンキ	250.0×200.0 ×6.0	太田正樹氏 寄贈
						2011年から続く「Direction」シリーズの1点。垂直に張ったキャンヴァスを15度傾けて、キャンヴァスの上端から顔料を滴らせて描いた作品。重力に従いながら、絵具が下方に移動する運動の軌跡により、白と黒の強いコントラストが反復する画面に仕上がっている。液体のもつ特性と重力との関係性によって、描かれたドロ잉ングといえる。 
11	森万里子	Cycloid IV	2015 (平成27)	アルミニウム、 塗料、ラッカー	195.5×120.7 ×137.0	太田正樹氏 寄贈
						複雑で繊細な形が絡み合って広がっていく、アルミニウム製の彫刻作品。表面が、パールのように輝く塗料で覆われ光沢を放ち、未来的で優美な形状は、物質性を超越しているかの様に見える。 
12	森万里子	Higher Being I	2013 (平成25)	Fujiflex プリン ト、ルーサイト、 アルミニウム	122.0×122.0 ×7.6	太田正樹氏 寄贈
						作者が、自然の目に見えないエネルギーに触発されて、沖縄の海を眼前にして描いたドロ잉ングを元に、コンピュータで作成した、フォトベインティング作品。 
13	ダレン・アーモンド	In Reflection 005	2015 (平成28)	ミラーガラス、 アクリル絵具	146.0×206.0 (インスタ レーションサ イズ)	太田正樹氏 寄贈
						《In Reflection》は、アーモンドが2015年から制作を始めたシリーズ。16枚の鏡面パネルには、鏡面にアクリル絵の具でペイントされた数字が、すぐに解読できないかたちで配されており、壊れたフリップ式時計（パタパタ時計）のように、時を告げることがない抽象的なパターンを構成している。 

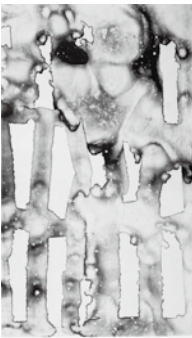
No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
14	嵯峨篤	Inside/004 (松風)	2015 (平成28)	フィンランド バーチ合板、 ウレタン塗装	91.0×91.0× 7.0	太田正樹氏 寄贈
						絵画性を意識して、2015年より制作を始めた、「Inside」シリーズの内の1点。画表面には、塗装と研磨に加えて、香道における源氏香の図柄から引用した、5本のストライプが描かれている。 
15	嵯峨篤	Inside/006 (夕顔)	2015 (平成28)	フィンランド バーチ合板、 ウレタン塗装	91.0×91.0× 7.0	太田正樹氏 寄贈
						絵画性を意識して、2015年より制作を始めた、「Inside」シリーズの内の1点。画表面には、塗装と研磨に加えて、香道における源氏香の図柄から引用した、5本のストライプが描かれている。 
16	ジャック・カロ	大受難伝(7枚組)	c.1620年代 中頃?	紙、エッチング	各11.4×22.2	購入
						伝統的な宗教画主題であるキリストの受難から7つの場面を選択したシリーズ。線の太さのヴァリエーション、モノクロのグラデーションとコントラストなど、優れたエッチング作家として本領が発揮された作品。 
17	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	サン・パオロ門近く、ガイウス・ケステイウスのピラミッド	1745年刊行	紙、エッチング	12.7×20.3	購入
						ピラネージ最初期の景観画作品。大胆なモチーフのクローズアップに、様式形成期の試行錯誤が感じられる。描線のバリエーション、繊細さは、エッチングという技法に彼が既にある程度習熟していたことを示している。 
18	草間彌生	無限	1953-1984 (昭和28-昭和59)	紙、エッチング	20.2×36.3 [45.8×36.3]	寄贈
						モノクロームの点と線で埋め尽くされた作品。 

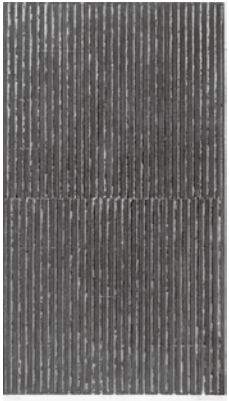
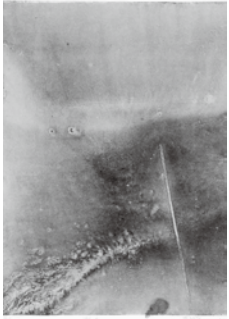
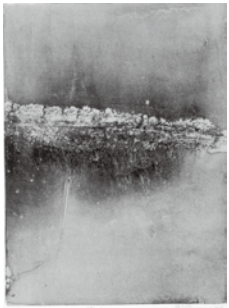
No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
19	草間彌生	無限の網	1953-1984 (昭和28-昭和59)	紙、エッチング	30.0×19.9 [55.0×40.1]	寄贈
						モノクロームの網目模様で埋め尽くされた作品。 
20	草間彌生	無限の網	1953-1984 (昭和28-昭和59)	紙、エッチング	29.9×19.9 [55.1×40.3]	寄贈
						モノクロームの網目模様で埋め尽くされた作品。 
21	草間彌生	集積	1953-1984 (昭和28-昭和59)	紙、エッチング	27.8×45.5 [45.8×63.1]	寄贈
						モノクロームの大きさの異なる水玉が泡のように描かれた作品。 
22	草間彌生	エンドレス	1953-1984 (昭和28-昭和59)	紙、エッチング	27.9×45.5 [45.6×63.2]	寄贈
						モノクロームの点と線から成る作品。 
23	草間彌生	エンドレス	1953-1984 (昭和28-昭和59)	紙、エッチング	36.3×20.0 [63.0×45.7]	寄贈
						モノクロームの無数の点が描かれた作品。 
24	草間彌生	帽子	1984 (昭和59)	紙、リトグラフ	31.2×40.8 [43.3×56.8]	寄贈
						鮮やかな赤地にオレンジ色の網目が描かれた背景に、帽子が描かれた作品。帽子そのものも、水玉と網目に覆われている。 

No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
草間作品を象徴するかぼちゃが、複数配置され、黒のインクで刷った作品。						
25	草間彌生	かぼちゃ軍団	1985 (昭和60)	紙、エッチング	28.9×42.4 [46.2×62.8]	寄贈
草間作品を象徴するかぼちゃが、複数配置され、黒のインクで刷った作品。						
26	草間彌生	かぼちゃ軍団	1985 (昭和60)	紙、エッチング	27.7×42.3 [46.0×63.1]	寄贈
黒地に緑色で網目模様が描かれた地の上に、大胆な花が描かれた作品。花そのものも、水玉と網目に覆われている。						
27	草間彌生	花(1)	1992 (平成4)	紙、リトグラフ	28.5×22.9 [44.9×61.6]	寄贈
有機的な形態がモノクロームで描かれた作品。輪郭線が、線と水玉で描かれている。						
28	草間彌生	水玉	1994 (平成6)	紙、エッチング	29.9×42.0 [45.7×62.8]	寄贈
1995年フジテレビギャラリーで行われた版画展「記念撮影」に合わせて制作された作品。						
29	草間彌生	自画像	1995 (平成7)	紙、エッチング	22.2×14.9 [51.2×38.0]	寄贈



No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
30	木村希八	田園	1958 (昭和33)	紙、リトグラフ	12.8×36.8 [19.7×44.7]	寄贈
						1950年代より、自ら作品制作をはじめ、版画パステル、ドローイング、カラージュ、オブジェ作品を個展で発表し、豊かな才能を遺憾なく発揮した。本作は、リトグラフを手がけるようになって4年目の作品。当時、まだリトプレスを購入する事ができず、木版のバレンを使って刷った作品。この時期、風景や、建物をモチーフにした作品を多く制作している。 
31	木村希八	題不詳	1959 (昭和34)	紙、リトグラフ	19.7×21.4 [25.0×29.3]	寄贈
						1959年に、リトプレス機を購入して、鎌倉に版画工房を開設してから制作した、描線と薄墨の効果で描いた作品。この時期、紙に描く絵とは異なった版で、絵作りする様々な試みを行っている。刷り方も、インクの盛りの量を変えたり、プレス圧の加減によって出る効果の違いなどを、試している。 
						強い描線と、薄墨の効果で描いた作品。
32	木村希八	題不詳	c.1965 (昭和40頃)	紙、リトグラフ	25.7×18.4 [45.4×36.0]	寄贈
						
33	木村希八	題不詳	1968 (昭和43)	紙、エッチング	18.0×13.9 [38.4×28.6]	寄贈
						日本美術家連盟が1963年に開設したJAA版画工房で、リトグラフを担当していた頃の作品。 4～6は、同じモチーフのエッチング作品。刷りによって濃度が異なる例。酒を好んだ木村の自画像と考えられる。 

No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
日本美術家連盟が1963年に開設したJAA版画工房で、リトグラフを担当していた頃の作品。 4～6は、同じモチーフのエッチング作品。刷りによって濃度が異なる例。酒を好んだ木村の自画像と考えられる。						
34	木村希八	題不詳	1968 (昭和43)	紙、エッチング	18.0×13.9 [38.0×28.5]	寄贈
						
35	木村希八	題不詳	1968 (昭和43)	紙、エッチング	18.0×13.8 [38.0×28.7]	寄贈
日本美術家連盟が1963年に開設したJAA版画工房で、リトグラフを担当していた頃の作品。 4～6は、同じモチーフのエッチング作品。刷りによって濃度が異なる例。酒を好んだ木村の自画像と考えられる。						
						
36	木村希八	氷柱	1968 (昭和62)	紙、リトグラフ	48.7×29.0 [57.0×37.5]	寄贈
1987年以降、リトグラフと木版画制作を再開して、多くの作品を作り続けた。本作は、解き墨で描いたリトグラフ作品。						
						
解き墨で描いたリトグラフ作品。						
37	木村希八	氷流	1968 (昭和62)	紙、リトグラフ	50.4×35.0 [56.7×38.2]	寄贈
						

No	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
						木版画の作品で、1版で3回刷りを行う関係で版を左右対称に彫った作品。墨汁で刷った上に、濃いめのグレーを刷っている。
38	木村希八	降雪	1968 (平成5)	紙、木版	80.0×45.0 [88.8×54.2]	寄贈
						
						熟練したリトグラフの刷りの技法を遺憾なく発揮した作品。
39	木村希八	潮干	1999 (平成11)	紙、リトグラフ	34.4×25.2 [54.5×42.3]	寄贈
						
						熟練したリトグラフの刷りの技法を遺憾なく発揮した作品。
40	木村希八	流水	1999 (平成11)	紙、リトグラフ	34.4×25.2 [54.4×42.0]	寄贈
						

■収蔵点数一覧（平成28年度末現在）

購入作品数

（百万円）

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合 計	
											点数	金額
55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
22	1	1			1						3	12
23	1										1	5
24		1			1						2	5
25											0	0
26	1										1	16
27											0	0
28					2						2	3
合 計	点数	123	121	32	12	1,016	7	75	1	46	20	1,453
	金額	1,697	2,831	311	68	365	80	2,811	3	8	142	8,316

寄贈作品数

(作品数)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合 計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5											0
6					1						1
7											0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2	10							2		14
26	4	8			24		3			2	41
27		1			2						3
28	6	4			23		1			4	38
計	218	124	19	93	330	340	14	8	13	61	1,220

図書資料の収集・整理

■収集

平成28年度の新たな受入により、当館蔵書は94,354冊となった。その累計内訳は、刊行図書42,131冊、美術雑誌22,625冊、美術館等刊行物29,598冊である（データのデジタル化による冊数表記の改訂については、平成18年度年報を参照されたい）。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）により、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

■分類・整理

平成28年度に行った作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場（会期）	貸出期間
1	和田英作	富士	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/11/28
2	和田英作	『和田英作編 鉛筆 画教科書 一』	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/11/28
3	和田英作	『和田英作編 鉛筆 画教科書 二』	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/11/28
4	和田英作	写生帖（天竜川）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/8/17
5	和田英作	写生帖（三保の富士）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/8/17
6	和田英作	写生帖（天女）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/8/17
7	和田英作	写生帖（奈良）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/8/17
8	和田英作	写生帖（逢妻河畔）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	刈谷市美術館 (4/23-6/5)	2016/4/13- 2016/8/17
9	和田英作	富士	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/11/28
10	和田英作	『和田英作編 鉛筆 画教科書 一』	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/11/28
11	和田英作	『和田英作編 鉛筆 画教科書 二』	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/11/28
12	和田英作	写生帖（天竜川）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/8/17
13	和田英作	写生帖（三保の富士）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/8/17
14	和田英作	写生帖（天女）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/8/17
15	和田英作	写生帖（奈良）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/8/17
16	和田英作	写生帖（逢妻河畔）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	佐野美術館 (6/11-8/7)	2016/4/13- 2016/8/17
17	和田英作	富士	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	神戸市立小磯記念美術館 (8/20-10/10)	2016/4/13- 2016/11/28
18	和田英作	『和田英作編 鉛筆 画教科書 一』	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	神戸市立小磯記念美術館 (8/20-10/10)	2016/4/13- 2016/11/28
19	和田英作	『和田英作編 鉛筆 画教科書 二』	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	神戸市立小磯記念美術館 (8/20-10/10)	2016/4/13- 2016/11/28
20	和田英作	写生帖（富士（佐野））	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	神戸市立小磯記念美術館 (8/20-10/10)	2016/8/10- 2016/11/28
21	和田英作	写生（富士連作4点）	刈谷市美術館、佐野美術館、 神戸市立小磯記念美術館、都 城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	神戸市立小磯記念美術館 (8/20-10/10)	2016/8/10- 2016/11/28

No	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場（会期）	貸出期間
22	和田英作	写生帖（富士（河口湖））	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	神戸市立小磯記念美術館（8/20-10/10）	2016/8/10-2016/11/28
23	和田英作	写生帖（富士（吉田））	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	神戸市立小磯記念美術館（8/20-10/10）	2016/8/10-2016/11/28
24	和田英作	富士	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	都城市立美術館（10/22-11/27）	2016/4/13-2016/11/28
25	和田英作	『和田英作編 鉛筆画教科書 一』	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	都城市立美術館（10/22-11/27）	2016/4/13-2016/11/28
26	和田英作	『和田英作編 鉛筆画教科書 二』	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	都城市立美術館（10/22-11/27）	2016/4/13-2016/11/28
27	和田英作	写生帖（富士（佐野））	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	都城市立美術館（10/22-11/27）	2016/8/10-2016/11/28
28	和田英作	写生（富士連作4点）	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	都城市立美術館（10/22-11/27）	2016/8/10-2016/11/28
29	和田英作	写生帖（富士（河口湖））	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	都城市立美術館（10/22-11/27）	2016/8/10-2016/11/28
30	和田英作	写生帖（富士（吉田））	刈谷市美術館、佐野美術館、神戸市立小磯記念美術館、都城市立美術館、日動美術財団	「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」	都城市立美術館（10/22-11/27）	2016/8/10-2016/11/28
31	草間彌生	無題	ヘニー・オンスタッド・アートセンター	「草間彌生 通覧」展	ヘニー・オンスタッド・アートセンター（ノルウェー）（2/18-5/15）	2015/8/15-2016/6/15
32	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	名古屋市美術館	「生誕130年記念 藤田嗣治展」	名古屋市美術館（4/29-7/3）	2016/4/19-2016/12/21
33	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	兵庫県立美術館	「生誕130年記念 藤田嗣治展」	兵庫県立美術館（7/16-9/22）	2016/4/19-2016/12/21
34	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	府中市美術館	「生誕130年記念 藤田嗣治展」	府中市美術館（10/1-12/11）	2016/4/19-2016/12/21
35	小林清親	猫と提灯	町田市立国際版画美術館	「清親－光線画の向こうに」展	町田市立国際版画美術館（3/12-4/17）	2016/2/15-2016/5/15
36	小林清親	駿州湖日没の富士	町田市立国際版画美術館	「清親－光線画の向こうに」展	町田市立国際版画美術館（3/12-4/17）	2016/2/15-2016/5/15
37	小林清親	神田八雲神社暁	町田市立国際版画美術館	「清親－光線画の向こうに」展	町田市立国際版画美術館（3/12-4/17）	2016/2/15-2016/5/15
38	吉田博	上高地の春	千葉市美術館、毎日新聞社	「生誕140年 吉田博展」	千葉市美術館（4/9-5/22）	2016/3/30-2017/9/6
39	吉田博	竈坂	千葉市美術館、毎日新聞社	「生誕140年 吉田博展」	千葉市美術館（4/9-5/22）	2016/3/30-2017/9/6
40	吉田博	上高地の春	郡山市立美術館、毎日新聞社	「生誕140年 吉田博展」	郡山市立美術館（6/4-7/24）	2016/3/30-2017/9/6
41	吉田博	日光・荒沢	郡山市立美術館、毎日新聞社	「生誕140年 吉田博展」	郡山市立美術館（6/4-7/24）	2016/3/30-2017/9/6
42	吉田博	上高地の春	石橋美術館、毎日新聞社	「生誕140年 吉田博展」	石橋美術館（2/4-3/20）	2016/3/30-2017/9/6
43	吉田博	街道	石橋美術館、毎日新聞社	「生誕140年 吉田博展」	石橋美術館（2/4-3/20）	2016/3/30-2017/9/6
44	川村清雄	静物写生	福岡市美術館	「物・語－近代日本の静物画－」	福岡市美術館（5/14-7/3）	2016/5/4-2016/7/13
45	茨木猪之吉	初夏の常念岳	山口県立美術館、松本市美術館、山口朝日放送株式会社	「遙かなる山－発見された風景美」展	山口県立美術館（5/26-7/3）	2016/5/16-2016/9/14
46	茨木猪之吉	初夏の常念岳	山口県立美術館、松本市美術館、山口朝日放送株式会社	「遙かなる山－発見された風景美」展	松本市美術館（7/16-9/4）	2016/5/16-2016/9/14

No	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場（会期）	貸出期間
47	飯田昭二	Half 6 Half（ハンドバック）	平塚市美術館	「会館25周年記念展 不思議なアート トリック・トリック・トリック」展	平塚市美術館（7/2-8/28）	2016/6/22-2016/9/7
48	丹羽勝次	NO HOOKS	平塚市美術館	「会館25周年記念展 不思議なアート トリック・トリック・トリック」展	平塚市美術館（7/2-8/28）	2016/6/22-2016/9/7
49	前田守一	遠近のものさし	平塚市美術館	「会館25周年記念展 不思議なアート トリック・トリック・トリック」展	平塚市美術館（7/2-8/28）	2016/6/22-2016/9/7
50	鈴木慶則	非在のタブロー（マグリットによる）	平塚市美術館	「会館25周年記念展 不思議なアート トリック・トリック・トリック」展	平塚市美術館（7/2-8/28）	2016/6/22-2016/9/7
51	司馬江漢	駿河薩陀山富士遠望図	富士市立博物館	「富士のある風景」展	富士市立博物館（5/24-6/19）	2016/5/10-2016/6/30
52	横山大観	富士山	富士市立博物館	「富士のある風景」展	富士市立博物館（5/24-6/19）	2016/5/10-2016/6/30
53	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	富士市立博物館	「富士のある風景」展	富士市立博物館（5/24-6/19）	2016/5/10-2016/6/30
54	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦）	富士市立博物館	「富士のある風景」展	富士市立博物館（5/24-6/19）	2016/5/10-2016/6/30
55	石川欽一郎	駿河湾	富士市立博物館	「富士のある風景」展	富士市立博物館（5/24-6/19）	2016/5/10-2016/6/30
56	横山大観	群青富士	公益財団法人佐野美術館	「横山大観 大気を描く」展	佐野美術館（10/1-11/6）	2016/9/21-2016/11/16
57	土佐光起	秋草鶉図	公益財団法人松伯美術館	「花鳥画の心」展	松伯美術館（10/7-11/27）	2016/9/20-2016/12/15
58	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	東京都美術館、愛知県美術館、東京新聞、TBSテレビ	「ゴッホとゴーギャン展」	東京都美術館（10/8-12/18）	2016/9/28-2017/3/30
59	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	東京都美術館、愛知県美術館、東京新聞、TBSテレビ	「ゴッホとゴーギャン展」	愛知県美術館（1/3-3/20）	2016/9/28-2017/3/30
60	浦上玉堂	抱琴訪隠図	岡山県立美術館、千葉市美術館、山陽新聞社	「文人として生きる 浦上玉堂と春琴・秋琴子の芸術」展	岡山県立美術館、千葉市美術館（9/23-10/30）	2016/9/9-2016/12/31
61	浦上春琴	競秀争流図	岡山県立美術館、千葉市美術館、山陽新聞社	「文人として生きる 浦上玉堂と春琴・秋琴子の芸術」展	岡山県立美術館、千葉市美術館（11/10-12/18）	2016/9/9-2016/12/31
62	円山応挙	木賊兎図	根津美術館	「開館75周年記念特別展 円山応挙」	根津美術館（11/3-12/18）	2016/10/20-2016/12/31
63	オーギュスト・ロダン	女のケンタウロスのトルソと絶望する若者	小平市	「ロダンと近代日本彫刻」展	小平市平櫛田中彫刻美術館（2/3-3/12）	2017/1/24-2017/3/22
64	オーギュスト・ロダン	ヴィクトリア・アンド・アルバートと呼ばれる女のトルソ	小平市	「ロダンと近代日本彫刻」展	小平市平櫛田中彫刻美術館（2/3-3/12）	2017/1/24-2017/3/22
65	オーギュスト・ロダン	考える人（小型像）	本郷新記念札幌彫刻美術館	「本郷新記念札幌彫刻美術館開館35周年記念 ロダン展」	本郷新記念札幌彫刻美術館（7/9-9/25）	2016/6/28-2016/10/1
66	オーギュスト・ロダン	カレーの市民 第一試作	本郷新記念札幌彫刻美術館	「本郷新記念札幌彫刻美術館開館35周年記念 ロダン展」	本郷新記念札幌彫刻美術館（7/9-9/25）	2016/6/28-2016/10/1
67	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	本郷新記念札幌彫刻美術館	「本郷新記念札幌彫刻美術館開館35周年記念 ロダン展」	本郷新記念札幌彫刻美術館（7/9-9/25）	2016/6/28-2016/10/1
68	秋野不矩	ガンガー（ガンジス河）	豊橋市美術博物館	「NIHON画・新たな地平を求めて」展	豊橋市美術博物館（10/29-12/11）	2016/10/15-2016/12/25
69	草間彌生	無題	国立新美術館、朝日新聞社、テレビ朝日	「草間彌生展」	国立新美術館（2/22-5/22）	2017/2/12-2017/6/1
70	狩野栄信（伊川）	桐松鳳凰・月夜葡萄図屏風	山梨県立博物館	「葡萄と葡萄酒」展	山梨県立博物館（10/8-11/28）	2016/9/28-2016/12/8
71	二見彰一	朝のコラール	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館（9/17-11/13）	2016/9/7-2016/11/23
72	二見彰一	アンダンテ・カンタビレ	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館（9/17-11/13）	2016/9/7-2016/11/23

No	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場（会期）	貸出期間
73	二見彰一	バッハとジャズと	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
74	二見彰一	ふたつのホルンのために	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
75	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より 空を飛ぶメフィストフェレス	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
76	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より 書斎のファウスト	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
77	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より ファウストの前に現れたメフィストフェレス	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
78	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より 学生酒場のメフィストフェレス	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
79	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より マルガレーテを誘惑しようとするファウスト	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
80	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より マルガレーテと紡車	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
81	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より ファウストとヴァレンティンの決闘	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
82	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より 教会のマルガレーテ	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
83	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より ファウストの前に現れたマルガレーテの亡霊	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
84	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より 安息日の夜、馬を駆るファウストとメフィストフェレス	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
85	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より マルガレーテの獄室のファウスト	群馬県立近代美術館	「音楽と美術」展	群馬県立近代美術館 (9/17-11/13)	2016/9/7- 2016/11/23
86	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風	京都市美術館	「生誕300年 若冲の京都 KYOTOの若冲」展	京都市美術館 (10/4-12/4)	2016/11/7- 2016/12/18
87	鈴木慶則	非在のタブロー（マグリットによる）	東京ステーションギャラリー	「パロディ、二重の声」展	東京ステーションギャラリー (2/18-4/16)	2017/2/10- 2017/4/26
88	鈴木慶則	梱包されたオダリスク	東京ステーションギャラリー	「パロディ、二重の声」展	東京ステーションギャラリー (2/18-4/16)	2017/2/10- 2017/4/26
89		天平四年山背国愛宕郡計帳断簡（第一断簡）（重文）	島根県立古代出雲歴史博物館、島根県古代文化センター	「出雲風土記－語り継がれる古代の出雲」	島根県立古代出雲歴史博物館 (3/25-5/16)	2017/3/15- 2017/5/26
90		天平四年山背国愛宕郡計帳断簡（第二断簡）（重文）	島根県立古代出雲歴史博物館、島根県古代文化センター	「出雲風土記－語り継がれる古代の出雲」	島根県立古代出雲歴史博物館 (3/25-5/16)	2017/3/15- 2017/5/26

美術作品の補修

平成28年度の修復作品

- ・平井顕斎《李白陶酔図》一幅
軸首片側取り付け（元使い）
- ・平井顕斎《鴈門急雨図》一幅
掛紐の織りのほぐれを糊止め
- ・平井顕斎《鐘馗嫁妹図》一幅
軸首片側新調のうえ取り付け
背面破れ押さえ
- ・安田靉彦《雅扇》一幅
掛紐新調
- ・池大雅《山中訪隠図屏風》四曲一隻
作品検診
- ・《富士三保松原図屏風》六曲一双
作品検診
- ・北川民次《山村初春(高草山風景)》作品検診
- ・小糸源太郎《早春》作品検診
- ・小糸源太郎《東海》作品検診
- ・ハイム・スーチン《カーニユ風景》作品検診
- ・リチャード・ウィルソン《リン・ナントルからスノー
ドンを望む》作品検診
- ・ジャック・カロ『大受難伝』7枚組 マット装
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《サン・
パオロ門近く、ガイウス・ケステイウスのピラミッ
ド》マット装
- ・草間彌生《Untitled》作品検診、画面調整
- ・植木茂《トルソ》作品検診
- ・木村希八《田園》マット装
- ・木村希八《題不詳》マット装
- ・木村希八《題不詳》マット装
- ・木村希八《題不詳（1704）》マット装
- ・木村希八《題不詳（1558）》マット装
- ・木村希八《題不詳（1523）》マット装
- ・木村希八《氷柱》マット装
- ・木村希八《氷流》マット装
- ・木村希八《降雪》マット装
- ・木村希八《潮干》マット装
- ・木村希八《流水》マット装
- ・草間彌生《無限》マット装
- ・草間彌生《無限の網》マット装
- ・草間彌生《無限の網》マット装
- ・草間彌生《集積》マット装
- ・草間彌生《エンドレス》マット装
- ・草間彌生《エンドレス》マット装
- ・草間彌生《帽子》マット装
- ・草間彌生《かぼちゃ軍団》マット装

- ・草間彌生《かぼちゃ軍団》マット装
- ・草間彌生《花(1)》マット装
- ・草間彌生《水玉》マット装
- ・草間彌生《自画像》マット装

彫刻作品の保守点検業務

彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品を、ジョージ・リッキー作《四つの旋回する斜線 菱形Ⅱ》を除き、陰イオン系洗剤を使用して洗浄した。またロダン館及びブリッジ・ギャラリーの彫刻作品の内、ブロンズを素材とする作品の乾拭き作業を行なった。

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、建設されてから30年近くが経過した当館では、建物の各所に不具合が出始めており、この作品保存という機能への障害がしばしば生じている。

最も大きな要因は老朽化である。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

建物を取り巻く環境が、設計当初の想定とは異なってきたことも看過出来ない。気象庁発表による平均気温は30年前とは変わっており、ゲリラ豪雨の如き急激な気候変動は、かつては見込まれていなかった空調施設への負荷を、著しいものにしている。電気やガス、水道料金の高騰が、対応の困難に拍車をかける。

また、生物の生息環境の変化は、これまでに見られなかった虫菌害のリスクを高めている。マダニ、トコジラミ、ヤンバルトサカヤスデ、ヒアリ等は、文化財害虫ではないが、観覧環境を悪化することもある。ハクビシン、アライグマ、タイワンリス等の外来生物も、静岡県内で被害を生じているようであり、イノシシはついに、美術館付近の駅にも出没するようになった。

展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のブンガノンによる殺虫処理は例年通り行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ブンガノンには害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

作品に虫菌害が発生した際、有害要因を物理的に排除するだけでなく、薬剤等による処理が必要となる場合がある。

菌害の場合、燻蒸用薬剤ならば、主成分が酸化エチレンの薬品（商品名エキヒュームS）が適当かと考えている。資料に適性があるなら、夏期の日照を利用した熱処理も試行しつつある。

虫害に対しては、環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法として、これまでに検討を進めてきた窒素置換法による低酸素濃度殺虫を、今後も必要に応じて実施する見込みである。この手法は、処理時間を長く取る必要があるものの、安全性が高く、メリットは大き

い。今後、手法の洗練と精度を高めていく予定である。

収蔵庫等で虫菌害が発生した場合にも、当該個所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃や環境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

照明用代替光源検討

作品照明用の灯体更新は、緊急性を増しつつある。既に国内各メーカーの蛍光灯在庫が無くなりつつあり、安定器の確保も難しくなりつつある。同時に、現有のハロゲン光源の灯体は老朽化が進みつつあり、近年のLED照明器具の配光とは、大きな落差を感じずにはおれない。

既にLED化されたロダン館照明は、現状では十分な性能を発揮しているが、本館照明は絵画作品を照明することがほとんどであるため、より高い演色性能を有するものが望ましい。

現在の、作品照明に耐え得る高演色性スポットライトは、光源と灯体が一体となっているものが多く、製品選別に失敗すると、予算的にもリカバーが困難である。しかし問題の先送りも出来ない。現状での最適解をどこに見出すか、引き続き検討していきたい。

主力となる代替光源は、LEDである。有機ELやCCFLは、十分な出力や、作品照明として考える製品の有無等の点に鑑み、当面の検討範囲からははずれている。色温度可変の機種は、演色性への懸念から、検討の優先順位は相対的に低い。

環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は4回の館内調査を行なった。また今年度から屋外の生物環境の調査を、5月から10月にかけて毎月1回実施し、館内に侵入する恐れのある生物の生息状況や、リスクになり得る建物周囲の状況を確認した。

本年度は、ヤンバルトサカヤスデの数が、昨年度に比べて大幅に少なかったように感じる。美術館本館周囲の植栽を大きく伐採したが、その効果もあったと思われる。とはいえ、近隣の路上で枯葉の溜まった場所には、まとまった数の個体を確認していることから、

このヤスデは完全に定着してしまったものと思われる。

館内の作品収納環境は、必ずしも望ましい状態ではなくなりつつある。点数が増え、収納場所が無くなっていくことで、通気を確保し難くなり、取り扱いに必要な空間の確保も難しくなりかねない。作品の収集は美術館本来の機能であり、これを維持していくためにも、収蔵庫機能の改善は、必須の課題である。

普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行なわれている。

防災

今年度も、展示室でお客様のご案内や作品の監視に当たる、ミューズスタッフ、レストラン、カフェ、警備職員、学芸総務両課職員等、美術館全体による防災訓練が行なわれた。

主な保存活動の経過

5月16日（月）～23日（月）

外部業者による館内環境調査第1回目

5月31日（火）

外部業者による館外生物環境調査第1回目

6月13日（月）

外部業者による館外生物環境調査第2回目

6月24日（金）～26日（日）

ブンガノンによる館内殺虫業務

7月26日（火）

外部業者による館外生物環境調査第3回目

8月18日（木）～29日（月）

外部業者による館内環境調査第2回目

8月29日（月）

外部業者による館外生物環境調査第4回目

9月1日（木）

職員防災訓練

9月20日（火）

ミューズスタッフ防災訓練

9月28日（水）

外部業者による館外生物環境調査第5回目

10月3日（月）～10月7日（金）

エキヒュームによる小規模作品燻蒸実施

10月24日（月）

外部業者による館内環境調査第6回目

11月2日（水）

真菌生息状況調査

11月14日（月）～11月21日（月）

外部業者による館内環境調査第3回目

2月6日（月）

職員防災訓練

2月27日（月）～3月9日（木）

外部業者による館内環境調査第4回目

3月

ヤスデ生息環境を少なくするための植樹状況変更、エントランス等のドアブラシ更新を行なう。

ギャラリーツアー

展示室グループのギャラリーツアー班に所属する当館ボランティアがナビゲーターを務めて、収蔵品展を参加者とともに対話形式で30分間鑑賞する。開館年から平成21年度まで行われてきた「ギャラリートーク」のスタイルを改変して、平成22年度より行っている。

平成28年度のボランティア再募集によって、メンバーの一部が入れ替わったが、今年度のギャラリーツアー班の総数は前年度と同じく11人であった。前回から継続して活動しているボランティアは、経験を重ねることによりナビゲーションの技術を一層向上させており、新たに加わったボランティアは、意欲的に館内の美術講座に参加するなど自己研鑽を重ねた。通常は、収蔵品展を対象に行っているが、大部分を館蔵品で構成した、開館30周年記念展「東西の絶景 モネ、ゴッゲン、若冲も大観も」でもツアーを実施した。また、島田市博物館で行われた移動美術展の会場でもツアーを実施し、島田市博物館のボランティアとの交流も生まれた。1年間のツアーへの参加者数は、519名であった。

1. 「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

2. ボランティア 展示室グループ・ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。

一方向的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

3. ギャラリーツアー登録ボランティア

11名(28年度3月現在)

4. 実施日、研修日

実施日：毎月第1土曜日(13:30～、14:30～)

＊13:30の回はロダン館

毎月第3土曜日(13:30～、14:30～)

企画展開幕後の最初の休館日：展覧会担当学芸員による研修

5. ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①ツアーで取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。
- ②展覧会開幕後、展示室で実作品を前にボランティア同士でディスカッションを行う。
- ③学芸員による研修会に参加
- ④模擬ツアー(予行演習)
- ⑤本番ツアー

6. 28年度 ギャラリーツアー実施実績 (参加者数 計519名)

○収蔵品展

「フランス版画コレクションより」

7月16日、8月6日、20日、9月3日(計40名)

「静岡ゆかりの近代画家」

9月17日、10月1日、15日、11月5日(計65名)

「西洋の絵画」

11月19日、12月3日、17日、1月7日(計38名)

「山の風景」

2月4日、18日、3月4日、18日(計64名)

○ロダン館

5月7日、6月4日、18日、8月6日、9月3日、
10月1日、12月3日、1月7日、2月4日、3月
4日(計187名)

○企画展(収蔵品を活用した企画展)

「東西の絶景」展 5月22日、29日(計62名)

○移動美術展(島田市博物館)

「北川民次と静岡の創作版画」 10月10日、16日
(計63名)

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験

平成22年度から実施。どんな方でも気軽に参加できるように、入ってすぐのエントランスで申し込み無料短時間の簡単創作体験を行っている。

本年度も水曜日から日曜日までの5日間を基本として、展覧会とからめた内容・技法での実施を目指した。県立美術館の収蔵作品や企画展に展示中の作品などをモチーフとすることで、展示作品への興味関心を促した。ちょこっと体験目当てのリピーターも増えていて、PR活動としての効果は高い。

本年度からの新企画として「ニッポンの立体」展に合わせ、ちょこっと立体「ミニ考える人づくり」を行った。



実施日	内 容	人数
4月29～ 5月3日	ドット若冲マス目描き体験 巨大「樹花鳥獣図」を共同制作	683
5月18 ～22日	銅版画体験 収蔵作品モチーフ の絵ハガキ エンボス刷り	518
10月12 ～16日	日本画体験 簡単水墨画・砂子 蒔きで富士山絵ハガキづくり	503
11月23 ～27日	ミニ考える人づくり お湯で溶 けるプラスチックでの造形	468
3月1 ～5日	シルクスクリーン ガーゼハンカチへの印刷体験	263
年間25日		3,152

■みんなでドット若冲

当館所蔵品《樹花鳥獣図屏風》(伊藤若冲)の屏風が特別展示される時期に行うようにしているワークショップで、平成28年度で11回目を迎え、白象の図柄を描いた。

「枅目描き」の1マスを7×7センチの厚紙に置き換えて着色し、約9倍に拡大するような作業となる。出来上がった作品は、エントランス床面に並べ、約10×5メートルの巨大絵(屏風一扇)となる。とはいえ、

絵の具を作った段階で微妙に色が違ったり、グループごとに手法が違ったりと、参加者たちのブレーストリーミングが一番の醍醐味かもしれない。

また、本ワークショップ2日間の直前3日間で、ちょこっと体験として「ドット若冲マス目描き」を実施し、2日間の「みんなでドット若冲」参加者34名以外のちょこっと体験参加者も、後日エントランスに飾られた完成作品を観るために再来館される姿が多数あった。

日 時：5月4日(月)、5月5日(火)
インストラクター：石津宏直(当館主査)
助 手：谷正輝氏、村上志穂氏
場 所：当館実技室、エントランス
参加者数：34名



■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることを目指し、展覧会に関連づけて実施している。

「粘土造形 美少女のレシピ」では、「ニッポンの立体」展への出品作家である永島信也氏に講師をお願いし、展示室でのギャラリートークの後、制作を通して作家の考え方に触れるという実技講座の目指す理想的な形での実践ができた。

北川純氏のシルクスクリーン、福井利佐氏の切り絵

といった恒例の講座も、開催中の企画展と関連付けて鑑賞が深まる内容の実技講座となった。



実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
5月28日 5月29日	日本画 金箔貼り ＜鈴木 強（日本画家）＞	12
7月17日 7月18日	シルクスクリーン ＜北川 純氏（現代アート作家）＞	12
9月18日	葵の御紋と平和のしるし ＜福井利佐氏（切り絵作家）＞	17
10月1日 10月2日	日本画「オリジナル学古図帖をつくろう」＜日下 文（日本画家）＞	12
11月19日 11月20日	粘土造形 美少女のレシピ ＜柳本一英氏（銅版画家）＞	20
2月11日 2月12日	オルタナ写真講座 ＜大野仁志氏（写真店経営）＞	10
年間10日間実施		78

■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合って取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画についてはインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言を行っている。

また、「創作週間スペシャル」と題し、特定の技法習得を目的としたワークショップを木版画とリトグラフの内容でそれぞれ2日間ずつ開催した。創作週間スペシャルで技法に興味をもった参加者が、通常の創作週間へ継続的に参加される方も多く見られた。

その他には、エントランスでの「ちょこっと体験」や「実技講座」から、自分でもっと制作をしてみたい

と創作週間を利用し始める参加者も多い。

開室日数：46日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下文氏（日本画家）、藤田泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）

利用者数：516名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間、金・土曜日に実施している。

参加者は高齢者が多いが、中学生・高校生・大学生など若手の参加者も増加傾向にあり、県外からの参加者も出てきている。デッサンを通してロダン彫刻をより深く鑑賞できる人気プログラムとなっている。

実施日数：24日

実施時間：10：00～16：30

参加者数：567名



実技・体験

■ねんど開放日

ねんど開放日は、実技室と約1tの粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

3歳以上の親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

人気プログラムで各月の初回はほとんど満員で、後述の「えのぐ開放日」と並んで、実技室プログラムの中でも参加者数の多いプログラムとなっている。

平成28年度より名称を「粘土開放日」から「ねんど開放日」へ改称。

実施日数：10日（1日3回で30回実施）

実施時間：午前の部① 10：10～11：30

午前の部② 11：30～12：50

午後の部 14：00～15：20

インストラクター：内海健夫氏（美術作家）

助 手：谷正輝氏、丸山成美氏

場 所：当館実技室

参加者数：1,600名



■えのぐ開放日

えのぐ開放日は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらうプログラムである。

平成26年度までメインの会場としていた県民ギャラリー前屋外テラスが平成27年度は外壁工事中で使えず室内開催のみであったが、平成28年度からは屋外での活動再開となった。

「ねんど開放日」と同様に、親子でコミュニケーションを取りながら造形遊び体験を楽しんでいただくプログラムではあるが、えのぐ開放日については、インストラクターが描くテーマや技法を指定してナビゲートしながら、希釈したポスターカラー複数色を用いて屋外テラスの石畳の上に描画していく。テーマはインストラクターの谷正輝氏が季節や企画展の内容などに合わせて考案。

平成28年度より名称を「絵の具開放日」から「えのぐ開放日」へ改称。

実施日数：6日（1日2回で12回実施）

実施時間：午前の部 10：15～12：00

午後の部 13：30～15：30

インストラクター：谷正輝氏（美術家）

助 手：藤田一馬氏、松田あかね氏

場 所：当館屋外展示テラス

参加者数：1,421名



■わくわくアトリエ

わくわくアトリエは「いろんな素材をかたちに！」をテーマに、小学生から大人まで幅広い年代が創作活動の喜びを味わえる制作体験ワークショップである。

小学生が参加できる講座ということもあり、参加者のメインは小学生または親子である。

企画展のテーマに合わせて、小学生でも参加可能な内容を講師陣に考案してもらっているが、各分野の技巧的な内容の「実技講座」とは違い、誰にでもできる幅の広い技法や視点が創作活動自体の楽しさに繋がっているように感じる。

実施日数：4日

実施時間：10：15～15：30

助 手：堀池玲美氏、石川瑛美氏

場 所：当館実技室

参加者数：136名



実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
7月24日	モダンアーティストの誕生 ＜石津宏直（当館主査）＞	14
9月19日	切り絵 御紋でござる！ ＜福井利佐氏（切り絵作家）＞	46
7月13日	いろいろな木材で工作しよう！ ＜石津宏直（当館主査）＞	56
1月18日	一眼カメラでパチリ！ ＜大野仁志氏（写真店経営）＞	20
年間4日		136

■夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、小学生を対象に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びを感じてもらうためのプログラムである。

平成28年度は同年度新収蔵品展に作品を展示し、当館の収蔵作家となった大庭大介氏・重野克明氏を講師として迎え、2日ずつのワークショップを開催した。

「キラキラえのぐでモダンアート」

収蔵作品にもなっている大庭大介氏の作品は、ラメやパールなどキラキラした素材感が特徴的な作風。今回のワークショップでは、大庭氏が実際の制作で使っている特殊なアクリル絵の具を用意し、2日間をかけて絵の具の調合から、抽象絵画の完成までを、大庭氏が子どもたちとかかわりながら丁寧に進めていった。

実 施 日：平成28年8月9日・10日

場 所：当館実技室

講 師：大庭大介氏（現代美術作家）

助 手：今西真也氏、堀池玲美氏

参加者数：12名



「銅版画 ほめられたこと おこられたこと」

講師である重野克明氏の制作技法は銅版画のエッチングである。エッチングは小学生にとっては難しい理論と工程が必要となる技法ではあるが、本講座では重野氏の制作に対する思いや制作の喜びを子供たちに伝えるために、あえてエッチングにこだわってワークショップを行った。重野氏が持参した10点以上の版画作品個々の制作エピソードや作品に込めた思いなどが子供たちに語られ、アイデアスケッチから印刷の工程まで、1人1人と対話しながら進めていった。

実施日：平成28年8月11日・12日

場所：当館実技室

講師：重野克明氏（版画家）

助手：藤岡美樹氏、藤田一馬氏

参加者数：9名



学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いするものである。

■ねんど教室

ねんど教室は、幼児、児童、生徒を対象に、陶芸用粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へ、個人制作から共同制作へと繋げていく造形遊びの考え方を取り入れたプログラムである。

平成28年度より「粘土教室」から「ねんど教室」へ名称変更。

インストラクター：吉村友利氏（作家）

助 手：谷正輝氏、馬場夢乃氏

場 所：当館実技室

参加者数：2,455名



月日	団体名 学年	人数
6月7日	麻華保育園 年中・年長	49
	西奈中学校 支援学級	14
6月8日	静岡市立東豊田小学校 2年	125
6月9日	静岡聖母幼稚園 年長	58
	下川原こども園 年長	41
	有度北こども園 年長	32
6月10日	静岡市立清水駒越小学校 2年	65
	有度十七夜山保育園 年長	38
8月16日	長田南児童クラブ 1～5年	41
	瀬名児童クラブ 1～5年	17
	新通児童クラブ 1～5年	15
8月17日	橘小A Sクラブ 1～5年	43
	袖師児童クラブ 1～6年	65
8月18日	葵児童クラブ 1～6年	45
	三保第二児童クラブ 1～4年	20
	南わらしな児童クラブ 1～6年	30

8月23日	宮竹児童クラブ 1～5年	57
8月24日	豊田児童クラブ 1～3年	19
	天馬っこ児童クラブ 1～6年	49
8月25日	中田児童クラブ 1～4年	56
	飯田児童クラブ 1～3年	49
9月27日	東源台小学校 2年	32
	県立静岡視覚特別支援学校	22
9月28日	東源台小学校 2年	60
	県立中央特別支援学校 中学部	9
9月29日	県立中央特別支援学校 おおぞら学級	27
	静岡隣人会保育園 年長	33
10月19日	静岡市立清水船越小学校 2年	102
	静岡市立中藁科小学校 1・2年	25
10月20日	登呂こども園 年長	46
	田町こども園 年長	29
	北安東保育園 年中・年長	41
10月21日	静岡市立宮竹小学校 1年	91
11月15日	静岡市立南藁科小学校 1・2年	40
	矢部保育園 年中	25
11月16日	静岡市立安西小学校 1年	53
	竜南保育園 年長	33
11月17日	蒲原聖母幼稚園 年少・年中・年長	48
	あい保育園古庄 年長	12
	静岡市立玉川小学校 1～6年	29
11月30日	蒲原東部こども園 年少・年中・年長	54
	リリー幼稚園 年中・年長	56
12月1日	静岡市立田町小学校 1年	54
	菊川市立内田小学校 4年	35
12月2日	静岡市立清水三保第二小学校 2・3年	56
	あけぼの保育園 年長	46
12月6日	高部こども園 年中・年長	60
	静岡なかはら幼稚園 年長	50
12月7日	服織こども園 年長	24
	静岡市立番町小学校 2年	110
12月8日	丸子幼稚園 年長	38
	わらべ幼稚園 年長	26
	高松こども園 年長	31
2月8日	静岡市立峰山小学校 1～6年	11
2月9日	静岡市立駒形小学校 1・2年	68
	静岡市立大川小学校 1～6年	16
2月17日	三保こども園・折戸こども園 年長	35
合計人数		2455
団体数		57

■えのぐ教室

えのぐ教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に、学年が上がるにつれて少しずつ難易度をつけているが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：吉村友利氏（作家）

助 手：谷正輝氏、堀池玲美氏

場 所：当館実技室、屋外展示テラス

参加者数：1,649名



月日	団体名 学年	人数
5月24日	風の子保育園 年中・年長	54
	あいわ保育園 年長	12
	静岡サレジオ幼稚園 年長	74
5月25日	小百合キンダーホーム 年少・年中・年長	43
	水落保育園 年長	32
	矢部保育園 年長	24
	美和保育園 年長	19
5月26日	こまどり幼稚園 年長	49
	有度西こども園 年長	25
	静岡隣人会保育園 年中	31

6月1日	相生保育園 年中・年長	26
	服織中央こども園 年長	32
	リリー幼稚園 年中・年長	55
6月2日	ふじみ幼稚園 年中・年長	118
7月12日	日本平幼稚園 年中	26
	あゆみ第二幼稚園 年長	38
	県立聴覚特別支援学校幼稚部	24
7月13日	静岡市立西奈小学校支援学級	8
	静岡市立清水船越小学校支援学級	15
	静岡市立伝馬町小学校6年	39
7月14日	静岡市立清水船越小学校3年	140
7月15日	富士市立元吉原小学校3年	51
	ゆりかご保育園 年長	17
	曙保育園 年中・年長	33
9月7日	静岡田町幼稚園 年長	55
	船原幼稚園 年長	43
9月8日	麻機幼稚園 年長	68
	さくら幼稚園 年長	62
9月9日	日本平幼稚園 年中	55
	一番町保育園 年中・年長	29
	上土こども園 年長	32
10月26日	静岡田町幼稚園 年長	50
	うど東保育園 年中・年長	59
10月27日	江尻幼稚園 年長	49
	袖師保育園 年長	24
	静岡市立清水三保第一小学校3年	60
10月28日	静岡市立富士見小学校3年	78
合計人数		1649
団体数		37

■音のかけらワークショップ

「音のかけらワークショップ」は、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

近年、本プログラムの利用は特別支援学校のみとなっている。平成27年度は1校のみの利用であった。

現代アート鑑賞のための重要なコンテンツではあるが、ワークショップ実施のために、プログラム実施に場所と時間が必要となること、プログラム自体のユニバーサルデザイン化、作者の制作意図とプログラムとの整合性など、今後の利用について再検討が必要である。



月日	団体名 学年	人数
7月23日	県立中央特別支援学校 小学部3年	23
9月28日	県立中央特別支援学校 中学部	9
合計人数		32
団体数		2

■ロダン館ななふしぎ

「ロダン館ななふしぎ」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するプログラム。7枚のカードに書かれたクイズを解き、回答後ナビゲーターが作品解説をしながら答え合わせをしていく。

答え合わせ時の解説では、鑄造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、《考える人》や《カレーの市民》を前にして同じポーズや表情の真似することにより深く作品に目をやる子どもたちの姿が見られた。



月日	団体名 学年	人数
6月7日	西奈中学校 支援学級	14
6月8日	静岡市立東豊田小学校 2年	125
7月13日	県立中央特別支援学校 そよかぜ学級	28
9月29日	県立中央特別支援学校 おおぞら学級	14
9月30日	清水小島小学校 3・4年	55
11月16日	静岡県立大学 短期大学部 こども学科	32

2月16日	静岡市立城内中学校 特別支援学級	9
2月23日	川根本町立中川根南小学校 6年	7
合計人数		284
団体数		7

■美術館の秘密をさがれ

「美術館の秘密をさがれ」では、美術館を誰もが楽しく鑑賞できる展示の工夫や作品保護などについて、当館スタッフがナビゲーターとなり館内を案内するプログラムである。普段は見ることができない美術館の裏側や施設の特徴や工夫を紹介しながら、美術館が多くの人によって支えられていることに気づくことができる。小中学校での、社会科見学や総合的な学習の時間におけるキャリア教育的な視点を取り入れた活動としての申し込みが多くなってきている。



月日	団体名 学年	人数
5月18日	静岡市立清水第七中学校1年	27
5月24日	御殿場市立西中学校 2年	43
8月24日	富士市立鷹岡中学校 美術部	22
9月15日	静岡学園中学校 1年	75
10月7日	聖隷クリストファー中学校 1年	52
10月14日	県立掛川工業高校 1年	39
11月1日	静岡市立清水三保第一小学校 2年	54
11月2日	島田実業高等専修学校 2年	36
合計人数		348
団体数		8

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象とした、ロダン館彫刻作品のスケッチ・デッサン・クロッキープログラム。描く行為によって、通常の観覧以上に細部に眼を向けることとなり、より深い鑑賞体験となる鑑賞プログラムである。



月日	団体名 学年	人数
5月18日	静岡市立清水第七中学校 1年	27
8月6日	浜松市立細江中学校 美術部	27
8月24日	静岡市立豊田中学校 美術部	25
9月15日	星陵中学校 1年	70
11月17日	常葉学園菊川高校 美術デザイン科1年	42
2月2日	県立浜松江之島高等学校 2年	27
2月7日	常葉大学教育学部附属橘小学校 2年	60
3月3日	県立浜松江之島高等学校 2年	2
合計人数		280
団体数		8

■ボランティアスタッフとの鑑賞

学校向けギャラリーツアープログラム。

教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。

その一環として、来館1ヶ月前までに学校からの依頼に応じて、当館ボランティア（展示室ボランティア学校班）に連絡を取り、都合のつくボランティアに鑑賞の手伝いをお願いしている。

展示室では、子どもたちの感想や気付きに耳を傾けながら作品について一緒に考え、話をする鑑賞を行っており、観賞後、子どもたちから「楽しかったよ。」「また、美術館に来るね。」などの声が聞かれる。

ねんど教室やえのぐ教室に参加した園・学校にも観覧を呼びかけており、他のプログラムと「ボランティアスタッフとの鑑賞」プログラムとの併用実施をすることも多い。



月日	団体名 学年	人数
6月4日	静岡市立安東中学校 美術部	19
6月8日	静岡市立東豊田小学校 2年	125
6月11日	静岡市立豊田中学校 美術部	29
7月24日	御殿場市立御殿場中学校 絵画部	45
8月4日	静岡市立長田西中学校 美術部	25
8月6日	浜松市立細江中学校 美術部	27
10月7日	聖隷クリストファー中学校 1年	52
10月12日	県立静岡中央高校 通信制	53
10月28日	静岡市立富士見小学校 3年	78
11月4日	静岡市立清水江尻小学校 4年	85
2月3日	県立富士特別支援学校 高等部 2年	45
合計人数		583
団体数		11

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れた。また、当館主催の夏期研修会、県内各地区の図工美術科教員の研究会に参加し、講師を務めるなど積極的に取り組んだ。



月日	団体名	人数
5月11日	ときわ保育士会研修	63
7月29日	磐周教育研究会 図工・美術部	24
8月3日	県総合教育センター主催研修	21
8月5日	静岡県教育研究会 図工・美術部	250
8月20日	指導者向け ねんど・えのぐ教室体験会	35
8月21日	指導者向け 版画講座	10
2月9日	掛川市小中学校図工・美術主任者研修会	30
合計人数		433
団体数		7

※教員研修会での講師含

■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行ったり、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行った。

また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展覧会の見どころ解説などを行った。



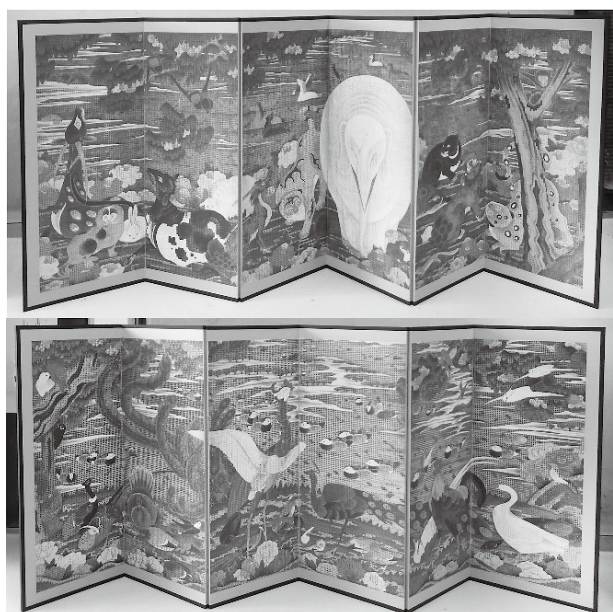
月日	団体名	人数
6月29日	伊豆の国市立大仁中学校	32
9月20日	県立中央特別支援学校 おおぞら学級	10
9月23日	富士宮市立井宮北小学校	25
10月11日	島田市立大津小学校	53
11月4日	静岡市立観山中学校	35
11月28日	静岡大学教育学部	10
12月3日	袋井市立袋井中学校 美術部	25
1月16日	富士市立岳陽中学校	70
1月17日	富士市立岳陽中学校	70
1月20日	富士市立岳陽中学校	35
1月23日	静岡大学教育学部	60
1月24日	静岡市立清水庵原小学校	50
1月26日	富士市立岳陽中学校	105
1月27日	静岡大学教育学部	60
1月31日	静岡大学教育学部	60
2月13日	浜松市立北部中学校	140
2月16日	御殿場市立原里小学校	110
3月3日	県立沼津特別支援学校愛鷹分校	16
合計人数		966
団体数		18

■粘土やレプリカ、当館資料の貸し出し

児童・生徒を引率して当館主催の粘土教室に参加するのは、授業時間数や距離・費用等で難しいが、自校で同様の造形遊び体験を実践したいという教員のために、粘土貸出を行っている。

また、学校の図画工作科・美術科の鑑賞分野の教材として使用できるように、本館の収蔵品を用いたレプリカ等の貸し出しを行っている。

平成28年度に、学校向け貸出用「樹花鳥獸図屏風」レプリカを新規作成し、貸出を開始。



粘土貸出（貸出日、学校名）	
4月16日	静岡市立安東中学校
5月13日	県立吉原林間学園
5月19日	エンゼル幼稚園
6月20日	磐田市立青城小学校
7月15日	千代田幼稚園
7月27日	大岡小放課後子ども教室
7月31日	リーチェル幼稚園
8月1日	富士ふたば幼稚園
8月17日	地域子育て支援センター服織
9月9日	静岡大学教育学部附属特別支援学校
9月13日	地域子育て支援センターあけぼの
9月13日	富士市立鷹岡小学校

10月8日	富士市立岩松小学校
10月13日	エンゼル幼稚園
10月21日	たちばな幼稚園
10月22日	県立静岡北特別支援学校
11月18日	藤枝市役所 自立支援課
レプリカ・資料等貸出（貸出日・学校名）	
4月1日	駿東郡清水町立清水中学校
6月16日	富士市立鷹岡小学校
6月20日	磐田市立青城小学校
8月4日	静岡県教育研究会 図工・美術部
9月9日	静岡市立井宮北小学校
10月21日	函南町立東中学校
10月27日	伊東市立門野中学校
11月19日	県立富士特別支援学校
12月7日	浜松市立芳川小学校
1月5日	県立焼津水産高等学校
2月5日	県立遠江総合高等学校
2月9日	掛川市立北中学校
3月4日	袋井市立三川小学校

■アートカード貸出

平成27年度より、当館収蔵作品48作品をカードにしたアートカードの貸出を開始した。当館に団体観覧を計画している学校の事前学習や、学校の図画工作科・美術科での鑑賞能力トレーニング題材としてなど、目的や対象に応じて、様々な形態で楽しみながら美術作品に対する興味関心を高められるツールとなっている。

アートカード貸出開始前の平成26年度から教員研修等で実演や紹介をし、図工・美術科教員の研究授業や実践発表の題材として扱われることも出てきたので、学校現場への認知が浸透し、利用が増えた。

平成27年度は、直接来館しての貸出返却に限っていたが、平成28年度から料金は利用校負担であるが宅配便等での貸し出しも開始した。



アートカード貸出（貸出日、学校名）	
4月1日	静岡大学教育学部
4月1日	県総合教育センター
4月14日	富士市立富士中学校
6月4日	小笠教育研究会 美術研究部
7月26日	静岡市立井宮北小学校
8月3日	富士市立田子浦小学校
8月3日	裾野市立富岡中学校
8月4日	静岡県教育研究会 図工・美術部
8月4日	島田市立大津小学校
8月17日	静岡市立清水第三中学校
8月23日	静岡市立清水小島小学校
9月9日	静岡市立井宮北小学校
9月14日	川根本町立川根中学校
9月22日	県立三島北高校
10月1日	菊川市立内田小学校
10月15日	袋井市立袋井中学校
10月23日	静岡市立井宮小学校
10月24日	静岡市立清水駒越小学校
10月24日	浜松市立芳川小学校
10月28日	富士市立富士第一小学校
11月3日	静岡市立西奈中学校
11月3日	静岡市立城北小学校
11月12日	静岡市立足久保小学校
11月14日	御殿場市立高根小学校
11月26日	県立大学短期大学部こども学科
1月5日	県立焼津水産高等学校
2月9日	掛川市立北中学校

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

■特別講演会

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月24日	東西の絶景展特別講演会 「あれから30年—日本画収集をふりかえって」	山下善也氏（東京国立博物館主任学芸員）	講堂	85 人
5月21日	同「コレクションが美術館の命と考えられていた頃—美術館は百年の計」	越智裕二郎氏（西宮市大谷記念美術館館長）	講堂	50 人
9月18日	徳川の平和展連続講演会 対談「〈徳川の平和〉の諸条件」	小和田哲男氏（静岡大学名誉教授）×芳賀徹（当館館長）	講堂	254 人
9月19日	同 鼎談「パクス・トクガワ—ナに花開く絵画」	河野元昭氏（京都美術工芸大学学長）×小林忠氏（岡田美術館館長）×芳賀徹（当館館長）	講堂	214 人
9月24日	同 対談「徳川の平和と『花はさくら木』」	辻原登氏（作家）×芳賀徹（当館館長）	講堂	116 人
10月1日	同 「江戸漢詩に描かれた都市風俗と田園風景」	揖斐高氏（成蹊大学名誉教授）	講堂	92 人
10月8日	同 「静岡と三遊亭円朝—江戸落語の集大成者」	延広眞治氏（東京大学名誉教授）	講堂	137 人
10月15日	同 「江戸の好奇心—絵にみる異国の人と動物たち」	内山淳一氏（仙台市博物館副館長）	講堂	108 人
10月22日	同 「江戸時代の自然災害と飢饉、疫病」	磯田道史氏（国際日本文化研究センター准教授）	講堂	258 人
10月29日	同 「東福門院と寛永二条城行幸」	笠谷和比古氏（国際日本文化研究センター名誉教授）	講堂	134 人
11月3日	同 「武家屋敷の美少年」	泉万里（当館学芸部長）	講堂	173 人
12月4日	ニッポンの立体展特別対談 「サブカルチャーからニッポンの立体を考える」	工藤健志氏（青森県立美術館学芸主幹）×村上敬（当館上席学芸員）	講堂	35 人
1月31日	蜷川実花展開催記念トークショー	蜷川実花氏×小山登美夫氏	講堂	216 人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、展覧会に関わった外部講師、当館学芸員による講座を開催した。

■美術講座

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
9月25日	移動美術展（島田）関連講座「静岡ゆかりの画家たち」	泰井良（当館上席学芸員）	島田市博物館	20人
10月16日	徳川の平和展美術講座「美の玉手箱をひらくときー『徳川の平和』展のみどころ 狩野派作品を中心に」	野田麻美（当館主任学芸員）	講座室	34人
10月19日	徳川の平和展 県職員向け夜間講座	野田麻美（当館主任学芸員）	講座室	31人
10月30日	友の会30周年記念のつどい 特別講演「徳川展のみどころ」	野田麻美（当館主任学芸員）	講座室	65人

■鑑賞講座

親子やファミリーを対象にした鑑賞講座。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
7月18日、8月21日	美術館に行こう！展 子どもとファミリーのための展覧会ツアー	川谷承子、石上充代（当館上席学芸員）	展示室	206人
7月23日、8月7日	美術館に行こう！展 小学生のための美術館探検ツアー	川谷承子、石上充代（当館上席学芸員）	展示室	228人

■フロアレクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について解説するもの。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月13日	東西の絶景展 学芸員のこの一点	新田建史（当館上席学芸員）	展示室	15人
4月20日		石上充代（当館上席学芸員）	展示室	35人
4月27日		川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	30人
5月11日		浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	50人
5月18日		村上敬（当館上席学芸員）	展示室	35人
5月25日		野田麻美（当館主任学芸員）	展示室	20人
6月1日		三谷理華（当館学芸課長）	展示室	25人
6月8日		泰井良（当館上席学芸員）	展示室	25人
6月15日		南美幸（当館上席学芸員）	展示室	32人

4月17日、 5月20日、 6月12日	東西の絶景展 フロアレクチャー	泰井良（当館上席学芸員）、 浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	100 人
4月23日、 6月 5日		浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	80 人
5月 8日、 6月17日		泰井良（当館上席学芸員）	展示室	60 人
5月20日	東西の絶景展 友の会フロアレクチャー	泰井良（当館上席学芸員）、 浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	20 人
5月1日	新収蔵品展 フロアレクチャー	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	20 人
5月15日	新収蔵品展 アーティストトーク	大庭大介氏（現代美術作家）	展示室	50 人
5月29日		重野克明氏（版画家）	展示室	30 人
8月7日	美術館に行こう！展 友の会フロアレクチャー	石上充代（当館上席学芸員）	展示室	18 人
9月4日 (2回)	美術館に行こう！展 大人のための展覧 会ツアー	川谷承子、石上充代 (当館上席学芸員)	展示室	140 人
8月27日	収蔵品展 フランス版画コレクションよ り フロアレクチャー	南美幸（当館上席学芸員）	展示室	10 人
9月11日	収蔵品展 静岡ゆかりの近代画家 フロア レクチャー	村上敬（当館上席学芸員）、 浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	10 人
9月18日	移動美術展（島田）フロアレクチャー	泰井良（当館上席学芸員）	島田市博物館	30 人
9月22日、 10月10日、 30日	徳川の平和展 フロアレクチャー	野田麻美（当館上席学芸員）	展示室	240 人
9月19日、 22日、 10月 5日	徳川の平和展 日本平スタディプランレ クチャー	野田麻美（当館上席学芸員）	展示室	9 人
10月29日、 11月 1日	移動美術展（富士）フロアレクチャー	泰井良（当館上席学芸員）	富士市文化会館 (ロゼシアター)	80 人
11月27日、 12月11日	ニッポンの立体展 フロアレクチャー	村上敬（当館上席学芸員）	展示室	35 人
11月27日	ニッポンの立体展 友の会フロアレクチャー	村上敬（当館上席学芸員）	展示室	7 人
12月10日	収蔵品展 西洋の絵画 フロアレクチャー	新田建史（当館上席学芸員）	展示室	7 人
2月12日、 3月 5日、 19日	収蔵品展 山の風景 フロアレクチャー	泰井良（当館上席学芸員）	展示室	35 人
2月24日、 3月 2日	蜷川実花展 フロアレクチャー (まちゼミ 草薙商店街)	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	14 人

対外活動

館員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

■講演会

- 泉万里： 「東泉院と美術——『三十六歌仙絵』を中心に」平成28年度市民歴史講座（富士市民大学第22回前期ミニカレッジ）
【富士市教育プラザ】 4月15日
「『徳川の平和』と花」華道家元池坊静岡県連合支部教授者研究会
【静岡市清水文化会館マリナート】 10月26日
- 川谷承子： 対談・川邊耕一×川谷承子×柳澤紀子(美術家)「川邊耕一展－森のかたち」関連イベント
【掛川二の丸美術館】 7月30日
同展覧会カタログにテキスト「川邊耕一展によせて」を寄稿
- 石津宏直： 静岡県総合教育センター主催研修「美術文化研修－鑑賞－」
【静岡県立美術館】 8月3日
静岡県教育研究会 図工・美術研究部 夏季研究大会 講師
【静岡県立美術館】 8月4日
掛川市小中学校図工・美術主任者研修会 講師
【大日本報徳社仰徳堂】 2月9日

■講座

- 泉万里： 「文化力による地域づくり」（平成28年度新規採用職員研修）
【静岡県自治研修所】 6月9、16、23、30日
- 石上充代： 「「美術館に行こう！」展のご紹介」（静岡県教育研究会美術教育研究部夏季研究大会静岡大会）
【静岡県立美術館】 8月5日
出張美術講座
【御殿場市立原里小学校】 2月16日
- 浦澤倫太郎： 出張美術講座
【富士宮市立井宮北小学校】 9月23日
茅野市ミュージアム活性化事業「茅野市美術館を一緒にサポートしませんか＋5」きほん編第3回「他の美術館を見学しよう」
【静岡県立美術館】 12月18日
- 石津宏直： 出張美術講座

- 【伊豆の国市立大仁中学校】 6月29日
【県立中央特別支援学校】 9月20日
【富士宮市立上井出小学校】 9月23日
【島田市立大津小学校】 10月14日
【静岡市立観山中学校】 11月4日
【静岡大学教育学部】 11月28日
【袋井市立袋井中学校】 12月3日
【富士市立岳陽中学校】 1月16日、1月17日、1月20日、1月26日
【静岡大学教育学部】 1月23日、1月27日、1月31日
【静岡市立清水庵原小学校】 1月24日
【浜松市立北部中学校】 2月13日
【御殿場市立原里小学校】 2月16日
【県立沼津特別支援学校愛鷹分校】 3月3日
磐周地区教育研究会 図工・美術研究部 夏季実技講習会 講師
【磐周教育研究所】 7月29日
草薙冬フェス
【草薙駅前商店街】 12月17日
静岡県消防設備協会防火ポスター審査会
【静岡県庁】 9月14日
「未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」審査会
【清水港湾合同庁舎】 9月16日

■美術館友の会事業への協力

- 泰井良： 友の会旅行「ホキ美術館 成田山新勝寺」
同行 3月8日

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

- 1 役員会・総会の開催 5月25日（水）（県立美術館）
- 2 研修会・講習会の実施
（1）第1回講習会「新規・リニューアル館の視察（東部）」
日時：平成28年10月19日（水）
三島市郷土資料館、かんなみ仏の里美術館、富士山かぐや姫ミュージアム
参加者数：26名
内容：近年、施設・設備の整備後30年以上の年月が経過し、経年劣化、機能劣化や性能劣化が進行している公共施設が増加していることが指摘されている。しかしながら、国・地方の財政は悪化し、また、人口減少と少子高齢化が進展しており、博物館園の

予算額は減少の一途をたどっている。このような中、耐震工事とリニューアルを同時に行った2館と、文化財を後世に遺すために新しく設立された1館を視察し、今後のリニューアル計画等に役立てるよう試みた。

(2) 第2回講習会 「博物館園の虫カビ対策について～IPM、燻蒸、その他～」

日時：平成29年1月27日（金） 13：30～16：10

会場：静岡県立美術館講座室、エントランスホール
参加者数：37名

内容：近年、気候の変動や天災、或いは施設の老朽化による被害から、指定品を含む博物館資料を守るため、様々な試みが続けられている。しかし、燻蒸を含む防虫防菌対策について、その概要や現場の状況を知る機会は、思いのほか少ない。本講習会では、虫やカビの対策についての近年の動向を学ぶと共に、被害が出てしまった場合に重要な燻蒸処理について、幅広く学ぶことを目指した。また、座学に加え、防除作業に携わる業者のご協力を仰ぎ、ブース形式で最新の情報をご提供頂いた。

講師：岩田泰幸氏（公益財団法人文化財虫菌害研究所研究員）、藪本学氏（日本液炭株式会社ガス営業部長）、芳村健治氏（日本液炭株式会社開発部長）、相澤邦彦氏（兵庫県立美術館保存・修復グループ学芸員）、協力：（五十音順）イカリ消毒(株)、エア・ウォーター(株)、（一財）環境文化創造研究所、関東港業(株)、光明理化学工業(株)、(株)資料保存器材、東海埠頭(株)、日本液炭(株)

3 地域セミナーの開催

- ・磐田市立旧見付学校附磐田文庫「昔の授業体験」
7月23日（土）、8月10日（水）
- ・熱海市立澤田政廣美術館「熱海市立澤田政廣美術館ナイトミュージアム」6月4日（土）ほか5日間
- ・浜松市楽器博物館「クラヴィコードって何？ピアノでもチェンバロでもない、耳を澄まして聴く、素敵な鍵盤楽器」8月6日（土）
- ・浜松市立賀茂真淵記念館「平成28年度夏の特別企画 賀茂真淵記念館夏期講座」6月29日（水）ほか

4 静岡県博物館協会会報（No. 77、No.80）の発行

5 静岡県博物館協会研究紀要 第40号の刊行

60 平成28年度静岡県立美術館年報

- 6 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営
- 7 東海地区博物館連絡協議会役員会及び総会への参加
日時：平成28年7月28日（木）
場所：大垣市奥の細道むすびの記念館（岐阜県）
- 8 防災事業の実施
 - ・加盟館園目録等データバックアップ事業：平成27（2015）年3月から継続
 - ・災害時連絡経路検討
- 9 広報及び情報交換
随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。
- 10 事業推進グループによる事業の推進
 - ・事業推進グループ会合 4回開催
平成28年7月13日（水）、10月19日（水）、11月22日（火）、平成29年1月27日（金）

■その他

- 泉万里： ふじのくに芸術祭2016企画委員・美術部門審査委員
- ・静岡県舞台芸術センター評議員
 - ・京都市文化財保護審議会委員
 - ・家具・道具・室内史学会運営委員
- 三谷理華： ジャポニスム学会学芸員勉強会代表幹事
- ・文化庁新進芸術家海外派遣研修（長期）
 - ・Co-commissaire pour l'exposition *Raphaël Collin (1850-1916) peintre fontenaisien* (Mairie de Fontenay-aux-Roses, 17 septembre - 31 octobre 2016)
- 泰井良： 一般財団法人地域創造公立美術館活性化事業企画検討委員
- ・全国美術館会議地域美術研究部会幹事
 - ・浜松市美術館美術資料審査会委員
 - ・鴨江アートセンター外部評価委員
- 新田建史： 「伊豆市美術館建設準備委員」
- ・愛知県立芸術大学講師
- 川谷承子： 展覧会「めぐりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる」への協力
- 主催：静岡大学、静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市、（公財）静岡市文化振興財団

美術館ボランティア・広報サポーター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985（昭和60）年から募集と研修を始め、1986（昭和61）年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との懸け橋となるべく活動を続けている。2009（平成21）年には組織化企画と再募集を行い（「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82～84を参照）、2010（平成22）年4月からは、3年の任期制を導入したうえで新体制により再始動した。

2回目の任期が満了となる平成27年度には、第3期に向けて再募集を行った。選考の結果、第2期からの継続者と新規応募者を併せ、計113名の方をボランティアとして登録し、今年度から活動いただいている。

・活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために次の3つの活動方針として定めている。

- （1）来館者サービス充実
- （2）美術館運営支援
- （3）地域連携推進

・活動内容、グループ

（1）全ボランティア共通の活動

当館ボランティアは、それぞれの地域、家庭、職場などにおいて当館の情報を提供し広めることにより、美術館の広報活動の一翼を担うとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たしている。この活動を促進するために、当館では、企画展ごとにその内容を、いち早く知ってもらうためのボランティア向け内覧会を開催している。これは原則として各会期の最初の休館日に、担当学芸員が展覧会概要や作品解説を行うものである。

（2）各グループの活動

6つのグループに分かれて活動した。ご案内グループのみ、他との兼任可としている。

①ご案内グループ 41名

図書閲覧室御受付を中心とする来館者対応が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納業務を行う。

②展示室グループ

A 学校班 17名

学校などの団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたち話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見る力を引き出す。

B ギャラリーツアー班 11名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞する。解説形式は当館学芸員の行う様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を採用。

③タッチツアーグループ 10名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチ・ツアー」のガイド役を行う。身体障がい者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチ・ツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

④実技室グループ 11名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室イベントは、絵画のワークショップや粘土開放日など多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。そのため、ボランティアのマンパワーが大変有益となっている。

⑤資料整理グループ 17名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の実美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシを整理、掲示し、一般来館者へ情報提供を行う。また作家からの個展のダイレクトメールなどを分類の上、専用のキャビネットに保管するとともに、データベース化を行うことにより、貴重なアーカイブを形成している。これらは膨大な時間と手間のかかる作業であり、ボランティアの力が大いに発揮されている。

⑥地域連携・草薙ツアーグループ 8名

「地域と美術館を結ぶ」ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館プロムナードにある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

・規約、ルール

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて活動している。報酬、旅費、などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとに休館日を利用してボランティアを対象とする内覧会を実施している。

・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は今のところ行っておらず、ボランティア会長や代表などは置いていない。

・活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することとし（募集基準）、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

・募集、登録、活動期間

より多くの方がボランティアに参加できるようにするため、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、その都度美術館が定め、募集要項に記載する。

■ 広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。（平成27年度末時点「広報サポーター」登録者数69名）

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

友の会活動

■諸会議

- (1) 理事会・評議員会
平成28年5月28日(土) 静岡県立美術館 講座室
・役員の選任について
・平成27年度事業報告、決算報告
・平成28年度事業計画、予算案
- (2) 臨時理事会(報告会)
平成28年9月1日(金) 静岡県立美術館 会議室
・事業報告
・ホームページについて
平成29年3月9日(木) 静岡県立美術館 会議室
・ホームページについて
・30周年記念事業報告
・平成29年度事業について
- (3) 事業委員会
静岡県立美術館 会議室等 10回開催
- (4) 会報委員会
静岡県立美術館 会議室等 17回開催
- (5) 30周年事業委員会
静岡県立美術館 会議室等 事業委員会後等に開催

■実技講座

- (1) 実技講座「原始機で裂織体験 第2弾」
平成28年9月10日(土) 9月11日(日) 2日間
静岡県立美術館 講座室
講師 松谷和子氏(裂織作家)
参加人数 8名

■講演会(イベント)等の開催

- (1) 企画展ごと会員向けフロアレクチャー
・「東西の絶景」
平成28年5月20日(金) 11名参加
・「美術館に行こう!」
平成28年8月7日(日) 12名参加
・「再発見! ニッポンの立体」
平成28年11月27日(日) 8名参加
- (2) 「徳川の平和特別講演会」(30周年記念事業)
・平成28年9月18日(火)~11月3日(木・祝)
静岡県立美術館 講堂
参加人数 延べ約250名
- (3) 「友の会30周年記念つどい」(30周年記念事業)
・平成28年10月30日(日)
静岡県立美術館 講堂
友の会会員対象特別講演「徳川展のみどころ」
講師 野田 麻美(県立美術館学芸課 主任学芸員)
参加人数 約50名
- (4) 「会員作品展」(30周年記念事業)
・平成28年10月25日(火)~30日(日)
県民ギャラリーA・B室
出品者数 58名
観覧者数 341名(芳名帳記載人数)
- (5) 「にが絵ひろば&アートプラット」(30周年記念事業)

- ・にが絵
平成28年11月6日(日)
静岡県立美術館正面 にが絵人数 約100人
静岡大学、常葉大学から似顔絵が描ける学生と会員等11名参加
- ・アートプラット
県美ミュージアムショップ他
県内若手作家アーティストの作品の展示と販売

■研修旅行

- (1) 「京都・奈良 国宝巡りの旅」(30周年記念事業)
平成28年6月8日(水)~10日(金) 2泊3日旅行
参加人数 27名
- (2) 「海を渡って四国そして・神戸」(30周年記念事業)
平成28年11月9日(水)~11日(金) 2泊3日旅行
参加人数 41名
- (3) 「ホキ美術館 成田山新勝寺」日帰り旅行
平成29年3月8日(水)
参加人数 47名
泰井 良 学芸課 上席学芸員同行

■友の会美術館支援事業

- (1) 各種実技支援事業

■情報資料の作成と提供

- (1) 友の会だより「プロムナード」発行(各1000部)
 - ・第89号 (4月8日発行) アトリエ訪問
洋画家・木津 文哉氏
 - ・第90号 (7月15日発行) アトリエ訪問
日本画家・栗原 幸彦氏
 - ・第91号 30周年記念号(2月15日発行) アトリエ訪問
金工作家・大角 幸枝氏
- (2) 情報の提供
 - ①美術館ニュース「アマリリス」郵送(年4回)
 - ②各種催事の情報提供
 - ③美術館内掲示板の有効活用
 - ④友の会ホームページの製作・更新

■キッズアートプロジェクトしずおか支援

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムパスポート」の作製や事業活動へ協賛

■30周年寄贈

- ・狩野益信「中国故事人物図屏風」

■その他の事業

- (1) 会員勧誘キャンペーン
 - ①「美術館に行こう!」期間中
・7月16日 1日間実施
新規入会会員 シニア: 1 (計1名)
 - ②「徳川の平和」期間中
・9月17日、18日 2日間実施
新規入会会員 一般: 7 特別: 1
シニア: 11 親子: 2 (計21名)

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5 月25日

改正 平成14年 6 月16日

改正 平成20年 2 月27日

改正 平成24年 2 月28日

改正 平成27年 4 月 1 日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、親子(キッズ)会員、学生会員、シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。
- (2) 高校生・専門学校生・大学生は、学生会員とする。

(3) 会員資格の有効期限中における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
 - (2) 副会長 1人
 - (3) 理事 (会長及び副会長を含む) 10人以内
 - (4) 評議員 15人以内
 - (5) 監事 2人
- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事及び評議員は、監事を相互に兼ねることができる。

(役員の職務)

- 第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

(役員の任期)

第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(専門委員会)

- 第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。
- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

(事務局)

- 第20条 本会に事務局を置く。
- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

(顧問)

- 第21条 本会に顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

- 第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。
- 第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。
- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

(会議の権能)

- 第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。
- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

(会議の開催)

- 第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めたとき。
 - (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。
- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めたとき。
 - (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

(会議の定足数)

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

(会議の議長)

- 第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。
- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

(会議の議決)

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面の決議等)

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
 - (2) 構成員の現在数
 - (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
 - (4) 議決事項
 - (5) 議決の経過の概要及びその結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

- (賛助会員)
- 第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。
- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。
- (会則の変更)
- 第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。
- (解散)
- 第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。
- 2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決によりその用途を定めるものとする。
- (雑則)
- 第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

- 附 則
- この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。
- 附 則
- この変更は、平成14年4月1日から施行する。
- 附 則
- 1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
- 2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。
- 附 則
- この変更は、平成24年2月28日から施行する。
- 附 則
- この変更は、平成27年4月1日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特 典 の 種 類	会 員 の 種 類				
	一般会員	親子(キッズ)会員	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	5枚	2枚
2 企画展ごと招待券	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚
3 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
4 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
5 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○	○
6 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等、企画展ごとのフロアレクチャー、友の会主催の事業に参加可能	○	○	○	○ (同伴1名まで)	○
7 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」・カフェ「ロダン」の飲食料金が会員本人のみ1割引	○	○	○	○	○
8 会員証提示により、県立美術館内のミュージアムショップの利用補助	○	○	○	○	○
9 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				○ (同伴1名まで)	

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費
一 般 会 員	(1名) 5,000円
親子(キッズ)会員	(1名) 3,000円
シニア会員 (70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特 別 会 員	(1口) 10,000円
賛 助 会 員	(1口) 50,000円

めぐりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる

会期：平成28年10月25日（火）～11月20日（日）

＊静岡県立美術館は11月1日（火）～11月20日（日）

主催：静岡大学、静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市、（公財）静岡市文化振興財団

協力：オルタナティブスペース・スノドカフェ、

企画：白井嘉尚（静岡大学教授）

川谷承子（静岡県立美術館上席学芸員）

以倉新（静岡市美術館学芸課長）

堀切正人（常葉大学准教授）

柚木康裕（オルタナティブスペース・スノドカフェ代表）

平野雅彦（静岡大学特任教授）

名倉達也（静岡大学助教）

事務局：漆畑雅子（静岡大学）

会場 | 出展作家 | 会期：

アート＆スポーツ／ヒロバ | 日詰明男、千葉広一、
岩野勝人 10月30日～11月20日

静岡県立美術館 | 福井利佐、鈴木基真 11月1日
～11月20日

静岡市美術館 | Nerhol（田中義久、飯田竜太）10
月25日～11月13日

中勘助文学記念館・杓子庵 | 木下琢朗 11月1日
～11月20日

旧マッケンジー住宅 | 木下琢朗、千葉広一

■概要

本展は、文化庁助成による静岡大学アートマネジメント力育成事業として平成25年度～27年度に開催された「めぐりアート静岡」の後継事業として、静岡市、静岡市文化振興財団、静岡市美術館、静岡県立美術館と静岡大学との連携により開催された。「静岡から芸術を発信する場の創出」を展覧会の目的とし、静岡にゆかりのある6名と1組の作家が、5つの会場で、展示を行った。

「めぐりアート静岡」として通算4回目となる今年度は、会期を2月から11月に変更し、会場の入れ替えを行った。JR東静岡駅北口の広大な市有地「アート＆スポーツ／ヒロバ」、静岡市文化振興財団が管理する旧マッケンジー住宅および中勘助文学記念館・杓子庵が新たに会場に加わった。静岡県立美術館と静岡市美術館は、第1回目から「めぐりアート静岡」の共同主催者として展示を行ってきており、今年度、静岡県立美術館では、二人のアーティストが展示を行った。静岡市生まれの福井利佐は、独自の切り絵の手法により、デザインやアートの分野で幅広く活躍しているアーティストである。美術館の正面玄関前の地面

に、鯉の切り絵を貼り、来場者を玄関口まで誘う展示を行ったほか、エントランスホールの天井から、人や動物の顔をモチーフにした作品を吊り、空間インスタレーションを行った。また、浜松市出身の彫刻家で、主に木を素材に風景を模った彫刻作品を制作し、複数の受賞経験を持つアーティストである。鈴木基真は、ロダン館に常設しているブロンズ彫刻に対峙させて、風景を模った木彫と、粘土彫刻を展示した。加えて、展示室2の壁面には、粘土彫刻を撮影した写真作品を展示した。

会期中、各会場で出展作家によるアーティストトークが行われたほか、ワークショップ、バンブー・ストック・フェスティバルを開催した。

■関連事業

・アーティストトーク

10月30日（日）10:00～10:30 岩野勝人／アート＆スポーツ／ヒロバ

11:30～11:30 日詰明男／アート＆スポーツ／ヒロバ

14:00～14:50 Nerhol／静岡市美術館

11月12日（土）10:30～11:20 木下琢朗／中勘助文学記念館

11月13日（日）13:30～14:20 鈴木基真／静岡県立美術館

14:30～15:20 福井利佐／静岡県立美術館

11月20日（日）10:30～11:20 千葉広一／旧マッケンジー住宅

13:00～13:50 千葉広一／アート＆スポーツ／ヒロバ

14:00～14:50 岩野勝人／アート＆スポーツ／ヒロバ

15:00～15:50 日詰明男／アート＆スポーツ／ヒロバ

・ワークショップ

11月5日（土）「ヒロバのイス」を作ろう！

前田直樹ワークショップ／アート＆スポーツ／ヒロバ

11月12日（土）粘土で風景を作ろう！

鈴木基真ワークショップ／静岡県立美術館

・バンブー・ストック・フェスティバル

11月20日（日）日詰明男の「竹の実見都市」でマルシェを開催。夕方、竹の楽器を叩いて黄金比の音楽「たたけたけ」が流れる中、“竹の星籠”に火が入りフィナーレを祝った。

■News

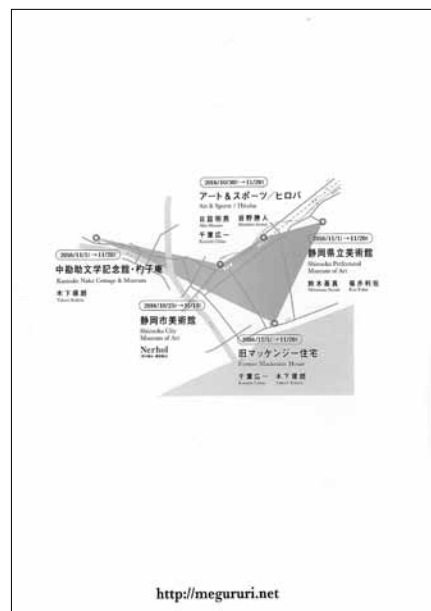
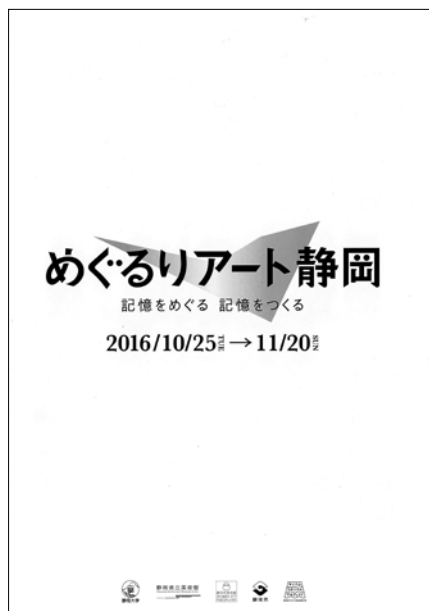
仕様：A4 4ページ 全3号
（News 1、News 2、News 3）
編集：企画者一同、片桐義晴
デザイン：Jicca design
印刷：松本印刷

■記録集

仕様：A4 40ページ
編集：企画者一同、片桐義晴
デザイン：Jicca design
印刷：松本印刷
発行：国立大学法人 静岡大学
発行日：平成29年3月27日

目次：

- 03 ごあいさつ
- 04 作家紹介
- 08 会場と展示
- 24 バンブースtock・フェスティバル
- 26 アーティストトーク
- 27 ワークショップ
- 28 アーティストインタビュー
- 36 来場者の声
- 38 ふりかえり
- 39 成果と課題



広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、各メディアを通じた広報活動を行っており、平成8年度からは公式ホームページでも情報発信を行っている。

近年では類似施設の増加、広報手段の更なる多様化に伴い、新たな展開が必要になっている。

ここでは、ポスター・チラシなど主要な広報活動とともに、ホームページの運営やSNSの活用について記載する。

■主要な広報活動

- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・展覧会等のイベント情報の各メディアへの資料（プレスリリース）提供
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・広告掲載、テレビスポット放映
- ・特集紙面、番組への協力
- ・県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、FMしみず）
- ・ボランティア向け内覧会の実施
- ・広報サポーターへの情報提供（ポスター・チラシを送付し、口コミでの広報を依頼）
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供

■ホームページ

<http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で20年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度（1997）	6,000
平成10年度（1998）	12,000
平成11年度（1999）	21,000
平成12年度（2000）	40,000
平成13年度（2001）	70,200
平成14年度（2002）	87,300
平成15年度（2003）	85,000
平成16年度（2004）	98,000
平成17年度（2005）	103,500
平成18年度（2006）	155,400
平成19年度（2007）	164,500
平成20年度（2008）	169,780
平成21年度（2009）	149,000
平成22年度（2010）	353,500
平成23年度（2011）	419,000
平成24年度（2012）	370,660
平成25年度（2013）	977,227
平成26年度（2014）	243,000
平成27年度（2015）	245,000
平成28年度（2016）	315,902

・ホームページリニューアル

ホームページに関する今年度のもっとも大きな取り組みとして、約10年ぶりに行われた全面的なリニューアルがあげられる。

これは、利用者にとって、よりわかりやすい情報発信を行うことと、以前からの課題でもあったスマートフォンのディスプレイにおける適切な表示への対応を主たる目的としたものである。

平成28年11月に制作・管理を行う業者をプロポーザル方式で選定し、4ヶ月ほどの期間をかけ、館職員の意見も反映させながら制作を進めた。デザインや階層を一新し、視認性・操作性を高めるとともに、レスポンス・ウェブ・デザインを導入することでスマートフォンにおいても最適化された表示が可能になった。リニューアルしたホームページは平成29年3月30日に公開した。

平成29年4月現在、当館ホームページアクセス数の半数以上を、スマートフォンからのものが占めており、今回のリニューアルによって現状に即した環境を整えることができたといえる。

・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、ホームページ上でのアンケートを実施している。聴取内容は以下のとおりで、回答は専用のメールフォームで行う。

1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
2. 当ホームページの情報内容について
3. 当ホームページの更新頻度について
4. 当ホームページのデザインについて
5. 当ホームページの見やすさについて
6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

これまで寄せられた回答の一部は、今年度のホームページリニューアルにも生かされている。

なお、回答者の中から企画展開催期間毎に、抽選で5名の方に次回企画展の招待券2枚をプレゼントした。

■SNS

平成26年7月からFacebookを運営中である。展示作品の紹介やワークショップの記事を随時掲載しており、話題性のあるタイムリーなニュースに対しては、多くの「いいね！」を獲得し、「シェア」も行われ、広報ツールとしても重要な役割を果たしている。

さらに今年度は「蜷川実花展」の開催に合わせ、写真を中心としたSNSであるInstagramを導入した。同展では特定の作品について写真撮影を行うことができたが、その付近に当館独自のハッシュタグを付けて投稿することを促す旨を表示した。その結果、来館者による約2000件の投稿があり、情報を広く拡散することができた。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラー

第121(春)号 2016年4月1日発行

- p.1 表紙 大庭大介《LOG (Icefall)》／上席学芸員 川谷承子
- p.2 TOPICS 葦山の代官屋敷と英国公使／館長 芳賀徹
- p.3 TOPICS 魅力を伝える美術館、これからも。／東京国立博物館主任研究員 山下善也
- p.4 新収蔵品紹介 平成二十七年度新収蔵品・寄贈作品の紹介／上席学芸員 川谷承子
- p.5 EXHIBITION 「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」／上席学芸員 石上充代
- p.6-7 研究ノート 狩野探幽筆「学古図帖」(個人蔵)の先にあるものー(倣古図)研究事始めー／主任学芸員 野田麻美
- p.7 本の窓 『幕末江戸下町絵日記 町絵師の暮らしとなりわい』／福原敏男著／学芸部長 泉万里
- p.8 美術館問わず語り 開館三十周年おめでとうございます。／ミュージアムショップ 沖野良美

第122(夏)号 2016年7月1日発行

- p.1 表紙 池大雅《蘭亭曲水図屏風》／主任学芸員 野田麻美
- p.2 TOPICS 「徳川の平和展」ー企画の本音／館長 芳賀徹
- p.3 TOPICS 「大雅vs蕪村ー徳川の平和展によせてー」／京都美術工芸大学学長 河野元昭
- p.4-5 EXHIBITION 「開館30周年記念展 徳川の平和(パクス・トクガワナ)ー250年の美と叡智ー」／主任学芸員 野田麻美
- p.6-7 研究ノート 「江戸天下祭図屏風」研究事始め／学芸部長 泉万里
- p.7 本の窓 『大阪万博ー二十世紀が夢見た二十世紀』平野暁臣編著／上席学芸員 川谷承子
- p.8 美術館問わず語り 五年間お世話になりました／静岡県文化・観光部総務企画課 横畑朋之

第123(秋)号 2016年10月1日発行

- p.1 表紙 ヤン・ファン・ホイエン《レーネン、ライン河越しの眺め》／上席学芸員 新田建史
- p.2 TOPICS ふじの国の新たな聖地にむけてー創造力がスパークする空間ー／静岡大学教育学部教授 白井嘉尚
- p.3 TOPICS アーティストに出会い、語り、つくり、楽しむー夏休み子どもワークショップー／主査 石津宏直
- p.4 EXHIBITION 「再発見！ニッポンの立体ー生人形からフィギュアまでー」／上席学芸員 村上敬
- p.5 EXHIBITION 「めぐりりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる」
「ロダンウィークーロダンを楽しむ特別な一週間ー」(総務課管理班長 青木彰彦)
- p.6-7 研究ノート 渡辺省亭《十二ヶ月花鳥図》の構図について／上席学芸員 石上充代
- p.7 本の窓 『ゴールドフィンチ』1~4 ドナ・タート著 岡真知子訳／上席学芸員 南美幸
- p.8 美術館問わず語り 県美で音楽を／(公財) 静岡市文化振興財団 静岡音楽館AOI 学芸員 小林旬

第124(冬)号 2017年1月4日発行

- p.1 表紙 佐分眞《雪のグリュンデルワルド》／上席学芸員 泰井良
- p.2 TOPICS 「徳川の平和」展への感謝と反省／館長 芳賀徹
- p.3 TOPICS 「東西の絶景」展と「徳川の平和」展ふたつの三十周年記念展を振り返って／当館研究活動評価委員 豊橋市美術館アドバイザー 金原宏行
- p.4 EXHIBITION 「蜷川実花展」／上席学芸員 川谷承子
- p.5 EXHIBITION 「山の風景 富士山、箱根からスイスの山まで」／上席学芸員 泰井良
- p.6-7 研究ノート 平井顕斎《耕織図》／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p.7 本の窓 『ミケランジェロ・プロジェクト』／上席学芸員 新田建史
- p.8 美術館問わず語り 美術館友の会も30周年を迎えました／県立美術館友の会会長 北條博厚



第121(春)号



第122(夏)号



第123(秋)号



第124(冬)号

新たな広報チャンネルの開拓

【東西の絶景展】

- ・NHK静岡放送局の番組「たっぷり静岡」による本展及び当館30周年の足跡をたどる連続番組の効果が大きかった。
- ・県庁本館前の大型縦看板に広告を掲示するなど、県庁の媒体を利用した低額な広報を展開できた。
- ・Facebookにより、見どころ・作品紹介のほか、イベント案内を行い、一定の反響を得ることができた。

【美術館に行こう！】

- ・静岡市内の幼稚園・保育園、小学校（低学年）に保護者割引付きフライヤーを、静岡市内の認可外保育所、県内の児童館・子育て施設にポスター、チラシを配布した。
- ・名義共催のテレビ静岡主催による子ども向けイベントでチラシ、割引券を配布したほか、親子・子ども向けフリーペーパーへの記事掲載等のターゲットを絞った広報展開を行い、子ども連れによる来館増につながった。

【徳川の平和展】

- ・静岡新聞の特別広報及び清水銀行の特別協賛により、新聞の全面広告も出来、通常より多く露出した。
- ・JR東海の特別協力を得られたため、通常より広範囲のポスター掲出や280万人ものエクスプレス予約会員へのメールマガジン、ホームページでの情報発信ができ、また、会員証の提示による団体料金適用も県外からの誘客につながった。
- ・特別連続講演会は、見込みを上回る聴講者が来館し、誘客につながった。
- ・リピーター料金は初めての試みであったが、約千人の利用者があり想定どおりであった。

【ニッポンの立体展】

- ・名義共催として㈱静岡第一TVによる15秒告知CMのテレビ広報を行った。
- ・読売新聞（全県版）で全5段広告を計5回、作品紹介の記事を計5回掲載することができた。
- ・草薙冬フェス（平成28年12月17日）では、ブースに訪れた方や通りがかった方へ割引券付きのチラシを配布した。（約250）

【蜷川実花展】

- ・蜷川実花展においては、インスタグラムによる公式な発信のほか、展覧会独自のハッシュタグによる投稿を呼びかけ、SNSによる広報展開を図った。撮影可能エリアの設定があったこともあって、約2,000件の投稿があった。

ロダン館展示・イベント

第3回ロダンウィーク

■ 趣旨

平成26年度、ロダン館開設20周年を一層活性化させるためのキックオフ事業として、地域や大学等と連携した「ロダンウィーク」事業を開催した。ロダン作品32体を擁し、国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい作りを目的に「ロダンウィーク」を、例年事業として定着させることとし、第3回「ロダンウィーク」を開催した。

■ 概要

- (1) 日時 平成28年11月1日(火)～11月6日(日)
- (2) 場所 静岡県立美術館内・正面広場付近

1. 「ロダンを聴く！～ピアノと朗読とともに～」

11月5日(土) 13:30開場 14:00開演(上演時間60分)／ロダン館

出演者：

後藤友香理氏(ピアノ)
宮城嶋遥加氏(朗読)
長谷川慶岳(作曲)

演奏曲目：

長谷川慶岳《バラの髪飾りの少女》
リスト《巡礼の年 第2年イタリア》より「物
思いに沈む人」
長谷川慶岳《波》
フランク《前奏曲、コラールとフーガ》

主 催：静岡県立美術館

協 力：国立大学法人静岡大学

来場者：140人

ロダン館中央の「地獄の門」前を舞台に設定して行われた公演。静岡大学教育学部で講師を務める後藤友香理氏がピアノ演奏を担当した。曲目は、同大で作曲を指導する長谷川慶岳氏が、ロダン作品からインスピレーションを得て作曲した楽曲が中心である。後藤氏によるピアノ演奏に合わせ、同大人文社会科学部在学中の宮城嶋遥加氏がオリジナルのテキストを朗読した。朗読は、仮設スクリーンに映し出された作品や人物に向かって、対話をするかのように行われた。音楽や演劇的手法によってロダン作品の魅力を表現した意欲的なパフォーマンスであり、来場者にも大いに好評を博

した。

2. 丘の上の「ロダンマルシェ」にがおえひろば&アートプラット

・丘の上ロダンマルシェ

11月6日(日) 10:00～16:00／美術館前広場

草薙マルシェ実行委員会によるフランス風グルメ、雑貨市及びアートパフォーマンスで、23店舗が出店した。

参加者：5,300人

・友の会「にが絵広場」

11月6日(日) 10:00～16:00／美術館前広場・プロムナード

静岡県立美術館友の会会員や静岡大学、常葉大学の大学生が「にが絵」を描いた。

参加者：101名(「にが絵広場」、「アートプラット」の合算)

・友の会「アートプラット」

11月6日(日) 10:00～16:00／美術館前広場・プロムナード

静岡県立美術館友の会による若手アーティストの作品展示・販売・ワークショップ等を行った。

3. ロダン賞コンサート

11月6日(日) 14:30～15:30／ロダン館

出演者：大倉礼加(ヴァイオリン)、
里見有香(ピアノ)

静岡音楽館AOIが毎年おこなう「静岡の名手たち」オーディション合格者の中から、静岡県立美術館・ロダン館で演奏するにふさわしい演奏家に「ロダン賞」が贈られている。ロダン館を会場に、本年は第20回「ロダン賞」受賞者による演奏会を開催した。

聴講者：160名

4. 静岡大学学生によるギャラリートーク

静岡大学「比較言語文化各論Ⅰ」の授業として、大学生がロダンについての見識を深め、その成果として、ギャラリートークを行った。

開催日時：11月3日(木・祝) 13:30～15:00

会 場：ロダン館

解 説：

- ・井上まな
- ・西澤奈生
- ・田中なつみ

参加者数：30人



▲ギャラリートークの様子

5. ロダン館ガイド【ロダン館アプリ】

スマートフォンを利用し、ロダン館彫刻作品の解説を眼と耳でお楽しみいただける「ロダン館アプリ」を静岡県立大学経営情報学部 渡邊研究室の協力のもとに開発した。

6. ボランティアによるお茶会

ボランティア・草薙ツアーグループによるロダンウィーク記念茶会を、下記のとおり実施した。美術館プロムナードにある杉山彦三郎記念茶畑産の茶葉を利用して来場者にふるまい、あわせてロダン館の広報活動を行った。

日時及び参加者数：

11月3日（木・祝）11：00～14：00 500名

場所：正面玄関前

7. 「めぐりアート静岡－記憶をめぐる 記憶をつくる－」

会期：平成28年10月25日（火）～11月20日（日）

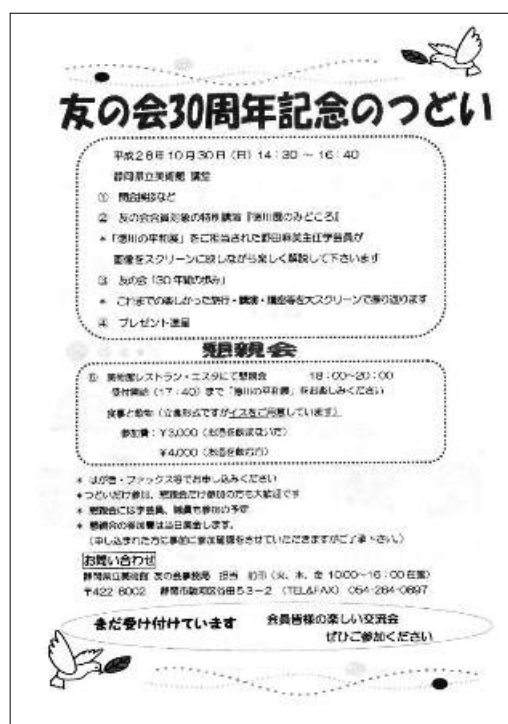
概要：静岡市、静岡市文化振興財団、静岡市美術館、静岡県立美術館と静岡大学との連携により開催された現代アート展。「静岡から芸術を発信する場の創出」を目的とし、静岡にゆかりのある6名と1組の作家が、5つの会場で、展示を行った。

詳細については、本誌P.68～70を参照のこと。

参加者数：3,000人



▲にがお絵ひろば・アートプラット チラシ表



▲にがお絵ひろば・アートプラット チラシ裏



▲マルシェ チラシ表



▲マルシェ チラシ裏

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
61	93,918	8,005	10,000		
62	95,635	9,911	10,000		
63	112,528	10,346	14,714		
元	98,806	12,474	11,937		
2	101,477	11,432	8,274		
3	91,342	13,755	8,545		
4	109,287	14,442	9,499		
5	95,903	10,927	9,308		
6	108,004	12,060	9,159		
7	73,254	10,717	7,015		
8	109,076	9,487	8,621		
9	87,436	10,615	6,486	4,257	
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289
18	81,657	10,700	5,087	8,891	499
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188
26	41,201	8,646	823	1,539	186
27	59,350	10,932	712	2,852	185
28	42,386	8,743	1,043	1,405	227
合計	2,358,698	334,213	187,691	139,500	5,037

28年度内別月別	4	666	358	119	120	18
	5	3,385	380	128	161	26
	6	3,306	600	122	65	15
	7	2,260	605	68	115	13
	8	5,535	403	84	274	14
	9	4,716	774	94	139	22
	10	3,966	1,137	115	149	10
	11	7,020	1,210	67	92	9
	12	2,286	965	51	39	4
	1	0	216	16	23	4
	2	4,771	770	75	94	30
	3	4,475	1,325	104	134	62

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展 覧 会 等 の 名 称	主 催 者 名	入場者数(人)
1	4/1(金)	4/3(日)	3	AB	無	16 現代書作家展しずおか	毎日新聞静岡支局	500
2	4/18(月)	4/18(月)	1	A	無	静岡県立美術館30周年記念式典	静岡県立美術館	166
3	5/10(火)	5/15(日)	6	A	無	静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	548
4	5/17(火)	5/22(日)	6	AB	無	第53回 静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	1,481
5	5/24(火)	5/29(日)	6	AB	無	大塚亮治・面打4教室百面創展	増田侑司	1,356
6	5/31(火)	6/5(日)	6	AB	無	第43回 二科会静岡支部展絵画部	二科会静岡支部	1,018
7	6/7(火)	6/12(日)	6	AB	無	第43回 二科会静岡支部展写真部	二科会静岡支部	999
8	6/14(火)	6/19(日)	6	AB	無	第44回 静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	1,289
9	7/12(火)	7/18(月・祝)	7	AB	無	静岡県自由美術展	静岡県自由美術協会	735
10	7/20(水)	7/31(日)	11	AB	無	第81回 静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,525
11	8/2(火)	8/7(日)	6	AB	無	静岡県教育研究会	静岡県教育委員会	1,033
12	8/9(火)	8/14(日)	6	AB	無	第28回 静岡独立美術展	静岡独立美術協会	1,085
13	8/16(火)	8/21(日)	6	AB	無	第34回 一基書展	一基会	905
14	8/23(火)	8/28(日)	6	AB	無	第66回 静岡県水彩画協会展	静岡県水彩画協会	2,275
15	8/30(火)	9/4(日)	6	A	無	庫流きものギャラリー「飾り帯結び展」	三輪民庫	680
16	8/30(火)	9/4(日)	6	B	無	静岡アール・パレ展	望月久美子	453
17	9/6(火)	9/11(日)	6	AB	無	2016 第25回 静岡県写真愛好者芸術展	静岡県写真愛好者芸術展実行委員会	1,232
18	9/13(火)	9/19(月・祝)	7	AB	無	第47回 静岡独立書展	静岡独立書人団	785
19	9/21(水)	9/25(日)	5	AB	無	第13回 アトリエ・ニケ子ども造形・デザイン・絵画教室 展覧会	大森恵	1,199
20	9/27(火)	10/2(日)	6	AB	無	第42回 静岡県フレミッシュ織教室展・静岡裂織公募展	静岡県フレミッシュ織教室	984
21	10/4(火)	10/10(月・祝)	7	AB	無	第39回 静岡県日本画展	静岡県日本画連盟	1,124
22	10/12(水)	10/16(日)	5	AB	無	静岡三軌展2016	静岡三軌展実行委員会	784
23	10/18(火)	10/23(日)	6	AB	無	ふじのくに芸術祭2016 美術部門写真展	静岡県	960
24	10/25(火)	10/30(日)	6	AB	無	30周年記念友の会会員作品展	静岡県立美術館友の会	718
25	11/1(火)	11/6(日)	6	AB	無	第34回 夏休み読書感想画コンクール	静岡新聞社	3,486
26	11/8(火)	11/13(日)	6	AB	無	高文連美術工芸展(中部展)	静岡県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	1,387
27	11/15(火)	11/20(日)	6	AB	無	高文連美術工芸展(県展)	静岡県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	1,198
28	11/22(火)	11/27(日)	6	AB	無	第42回 静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	949
29	11/29(火)	12/11(日)	12	AB	無	第20回 すこやか長寿祭美術展	公益財団法人しずおか健康長寿財団	1,784
30	12/13(火)	12/18(日)	6	AB	無	ふじのくに芸術祭2015 学生アートフェスティバル	静岡県	502
31	2/1(水)	2/5(日)	5	AB	無	第28回 特別支援学校高等部合同作品展	静岡県高等学校文化連盟特別支援学校専門部	843
32	2/7(火)	2/12(日)	6	AB	無	第38回 ジュニア県展	静岡新聞社	2,243
33	2/14(火)	2/19(日)	6	AB	無	常葉学園橘高等学校美術専攻第5回作品展	常葉学園橘高等学校	1,019
34	2/21(火)	3/5(日)	12	AB	無	第7回 秀景ふるさと富士写真展	静岡県	1,065
35	3/7(火)	3/12(日)	6	AB	無	第32回 千世の会書展	千世の会	924
36	3/14(火)	3/20(月・祝)	7	A	無	木組みの家具展	森下雅行	1,498
37	3/22(水)	3/26(日)	5	A	無	第4回 杉浦カメラ店ユーザー写真展	杉浦立芳	1,267
38	3/28(火)	3/31(金)	4	A	無	白隠・若冲墨蹟展	白隠墨蹟愛好会	387
合 計								42,386

来館者のアクセス満足度

利用交通機関について、平成28年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が68.6%と最も高く、次いで「JR」12.3%、「路線バス」5.2%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は76.0%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は77.5%であった。過去5年間の状況を見ると、概ね2～3割の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの、収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと、近くの駐車場から順次満車になり、駐車できるまでに時間がかかってしまうという問題がある。このことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学や県埋蔵文化財センターの職員駐車場を借用し、美術館来館者用に充てるなど、引き続き自家用車利用者の利便性の向上に努めて行きたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から、なだらかな上り坂を上ることになるので、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができることを案内しているものの、バス運行は平日及び土曜日は1時間に2本、来館者の多い日曜及び祝日が1時間に1本であるため、利便性が高いとは言い難い。今後はバス会社へ協力要請するなどの検討が必要である。

また、美術館案内表示等周辺環境については、平成28年度に開館30周年を迎えたことから、プロムナードを中心に案内表示類のほか、休憩用のベンチの更新や補修を行った。

今後も計画的に整備していく予定である。

平成28年度主要記事

4月5日	収蔵品展「新収蔵品展」(～6月19日)	27日	再発見！ニッポンの立体フロアレクチャー(11月27日、12月11日)
12日	企画展「東西の絶景」開幕(～6月19日)	12月4日	再発見！ニッポンの立体特別対談(12月4日)
17日	東西の絶景フロアレクチャー(4月17日、23日、5月8日、20日、6月5日、12日、17日)	2月1日	山の風景(～4月2日)
24日	東西の絶景特別講演会 1.「あれから30年－日本画収集をふりかえって」山下善也 元当館主任学芸員(4月24日) 2.「コレクションが美術館の命と考えられていた頃－美術館は百年の計」越智裕二郎 元当館学芸課長(5月21日)	14日	企画展「蜷川実花展」開幕(～3月26日) 第2回美術館協議会
6月14日	第三者評価委員会	通年	創作週間(通算46日) 実技講座(通算10日) ロダン館デッサン会(通算24日) ちょこっと体験(通算25日) わくわくアトリエ(通算4日) 粘土開放日(通算10日、30回) 絵の具開放日(通算6日、12回) 美術館教室(通算43日)
7月9日	収蔵品展「フランス版画コレクションより」(～9月4日) 企画展「美術館に行こう！」開幕(～9月8日)		
18日	美術館に行こう！会期中イベント 子どもとファミリーのための展覧会ツアー(7月18日、8月21日) 小学生のための美術館たんけんツアー(7月23日、8月7日) 大人のための展覧会ツアー(9月4日)		
20日	第1回美術館協議会		
9月6日	静岡ゆかりの近代画家(～11月6日)		
10日	島田市移動美術展(～10月16日)		
17日	企画展「徳川の平和」開幕(～11月3日)		
18日	徳川の平和特別講演会(9月18日、19日、24日、10月1日、8日、15日、22日、29日、11月3日)小和田哲男氏(静岡大学名誉教授)他10名 徳川の平和フロアレクチャー(9月22日、10月10日、10月30日)		
29日	富士市移動美術展(～11月6日)		
11月1日	ロダンウィーク(～6日)		
3日	草薙ツアーグループ「呈茶サービス」 ロダン館ギャラリートーク		
5日	ロダンを聴く！～ピアノと朗読とともに～		
6日	ロダン賞コンサート「静岡の名手たち」 丘の上のロダンマルシェ 友の会主催「アートプラット」 友の会主催「にがえひろば」		
11月8日	西洋の絵画 画材とともに3(～1月9日)		
15日	企画展「再発見！ニッポンの立体」開幕(～平成29年1月9日)		

開館30周年記念展 東西の絶景 モネ、ゴーギャン、若冲も大観も

No.	章	作者名	生没年	作品名	制作年代 (西暦)	(和暦)	素材等	寸法	期間
1	【第1章】 日本画－ 豊饒なる山水	式部輝忠	15-16世紀 (室町後期)	富士八景図	1530頃	享禄3頃, 室町末期	紙本墨画	各97.5×32.8	前期
2		初期狩野派		四季花鳥図屏風	16世紀中頃	室町末期	紙本着色	各138.5× 269.4	
3		狩野探幽	1602-1674 (慶長7-延宝2)	富士山図	1667	寛文7	紙本墨画淡彩	56.6×118.4	
4		狩野山雪	1590-1651 (天正18-慶安4)	富士三保松原図	17世紀前半	江戸初期	紙本墨画,金泥引	各153.5× 360.0	
5		伊藤若冲	1716-1800 (正徳6-寛政12)	樹花鳥獸図屏風	18世紀後半	江戸後期	紙本着色	右 137.5× 355.6 左 137.5×366.2	
6		呉春	1752-1811 (宝暦2-文化8)	柳陰帰漁図	1783	天明3	紙本墨画淡彩	161.3×183.0	
7		谷文晁	1763-1840 (宝暦13-天保11)	連山春色図	1797	寛政9	絹本着色	154.4×91.3	
8		浦上春琴	1779-1846 (安永8-弘化3)	競秀争流図	1830	文政13	絹本着色	55.6×121.0	
9		原在中	1750-1837 (寛延3-天保8)	富士三保松原図	1822	文政5	絹本着色	40.9×100.8	
10		狩野永岳	1790-1867 (寛政2-慶応3)	四季耕作図屏風	19世紀	江戸後期	紙本金地着色	各163.5× 357.4	
11		下村観山 横山大観	1873-1930 (明治6-昭和5) 1868-1958 (明治1-昭和33)	日・月蓬莱山図	1900頃	明治33頃	絹本墨画淡彩	各98.0× 154.0	
12		中村岳陵	1890-1969 (明治23-昭和44)	牡鹿啼く	1930	昭和5	紙本着色	各163.6× 162.1	
13		村上華岳	1888-1939 (明治21-昭和14)	春峰晴煙図	1928	昭和3	紙本淡彩	43.7×60.9	
14		近藤浩一路	1884-1962 (明治17-昭和37)	東山栗田口	1925	大正14	紙本墨画	72.0×84.0	
15		秋野不矩	1908-2001 (明治41-平成13)	廻廊	1984	昭和59	紙本金地着色	151.3×101.0	
1		式部輝忠	15-16世紀 (室町後期)	富士八景図	1530頃	享禄3頃, 室町末期	紙本墨画	各97.5×32.8	後期
16		狩野宗眼重信	16世紀後半- 17世紀前半	帝鑑図・咸陽宮図屏 風	17世紀初	桃山時代	紙本金地着色	各155.8× 362.6	
17		狩野探幽	1602-1674 (慶長7-延宝2)	竹林七賢・香山九老 図	17世紀	江戸初期	紙本墨画淡彩	各144.2× 337.0	
18		池大雅	1723-1776 (享保8-安永5)	龍山勝会・蘭亭曲水 図<重要文化財>	1763	宝暦13	紙本着色	各158.0× 358.0	
19		池玉瀾	1727-1784 (享保12-天明4)	溪亭吟詩図	18世紀	江戸中期	紙本墨画着色	58.0×125.0	
20		浦上玉堂	1745-1820 (延享2-文政3)	抱琴訪隠図	1813頃	文化10頃	紙本墨画淡彩	112.0×62.8	
21		円山応挙	1733-1795 (享保18-寛政7)	木賊兔図	1786	天明6	絹本着色	104.5×42.0	
22		長沢蘆雪	1754-1799 (宝暦4-寛政11)	牡丹孔雀図	1793-99	寛政5-11	絹本着色	185.0×97.0	
23		山口素絢	1759-1818 (宝暦9-文政元)	富嶽図	18世紀末	寛政末頃	絹本着色	41.0×75.6	
24		狩野栄信	1775-1828 (安永4-文政11)	楼閣山水図	1802-16	享和2-文 化13	絹本着色	190.0×194.0	
25		狩野永岳	1790-1867 (寛政2-慶応3)	富士山登龍図	1852	嘉永5	絹本墨画	179.0×87.0	
26		狩野芳崖	1828-1888 (文政11-明治21)	寿老人図	1881-85頃	明治14-18 頃	紙本墨画淡彩	183.2×78.5	
27		橋本雅邦	1835-1908 (天保6-明治41)	三井寺	1894	明治27	紙本着色	130.5×64.0	

No.	章	作者名	生没年	作品名	制作年代 (西暦)	(和暦)	素材等	寸法	期間
28	【第1章】 日本画－ 豊饒なる山水	富岡鉄斎	1836-1924 (天保7-大正13)	蜀國棧道図	1905頃	明治38頃	絹本着色	172.7×96.0	後期
29		横山大観	1868-1958 (明治元-昭和33)	群青富士	1917-18頃	大正6-7頃	絹本着色	各176.0× 384.0	
30		徳岡神泉	1896-1972 (明治29-昭和47)	雨	1964	昭和39	紙本着色	110.7×143.7	
31	【第2章】 日本人の油 彩画-西欧へ の挑戦	徳川慶喜	1837-1912 (天保8-大正2)	風景	1868-1877 頃	明治初期	紙、油彩	31.0×45.0	通期
32		平木政次	1859-1943 (安政6-昭和18)	富士	1897	明治30	キャンヴァス、 油彩	44.0×67.0	
33		五姓田義松	1855-1915 (安政2-大正4)	富士	1905	明治38	キャンヴァス、 油彩	46.8×101.5	
34		鹿子木孟郎	1874-1941 (明治7-昭和16)	紀州勝浦	1910	明治43	キャンヴァス、 油彩	59.0×74.8	
35		川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	巨岩海浜図	1912-26頃	大正期頃	板、油彩	43.5×174.0	
36		佐伯祐三	1898-1928 (明治31-昭和3)	ラ・クロッシュ	1927	昭和2	キャンヴァス、 油彩	52.5×64.0	
37		原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	風景	1930	昭和5	キャンヴァス、 油彩	73.0×92.0	
38		須田国太郎	1891-1961 (明治24-昭和36)	筆石村	1938	昭和13	キャンヴァス、 油彩	97.0×145.5	
39		和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	日本平望巖台	1939	昭和14	キャンヴァス、 油彩	45.0×52.8	
40		児島善三郎	1893-1962 (明治26-昭和36)	箱根	1937頃	昭和12頃	キャンヴァス、 油彩	90.7×115.2	
41		岡鹿之助	1898-1978 (明治31-昭和53)	観測所	1951	昭和26	キャンヴァス、 油彩	65.1×80.3	
42		小糸源太郎	1887-1978 (明治20-昭和53)	春雪	1953	昭和28	キャンヴァス、 油彩	83.0×116.0	
43		香月泰男	1911-1974 (明治44-昭和49)	冬島	1965	昭和40	キャンヴァス、 油彩、方解末、 墨	90.9×60.6	
44		曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	スペインの野	1968	昭和43	キャンヴァス、 油彩	73.0×91.0	
45	【第3章】 西洋－近代 の風景画	アシル＝エトナ・ ミシャロン	1796-1822	廃墟となった墓を見 つめる羊飼いの	1816		キャンヴァス、 油彩	81×100	通期
46		ギュスターヴ・ クールベ	1819-1877	ピュイ・ノワールの 溪流	1865		キャンヴァス、 油彩	75.0×90.0	
47		ジャン＝バティ スト＝カミュー・ コロ	1796-1875	メリ街道、ラ・フェ ルテ＝ス＝ジュアル 付近	1862		板、油彩	40.5×54.0	
48		ジャン＝フラン ソワ・ミレー	1814-1875	羊飼いと羊たち	1855頃		板、油彩	34.9×26.7	
49		ヨーハン＝バル トルト・ヨン キント	1819-1891	オンフルール近郊の 街道	1866		キャンヴァス、 油彩	58.4×78.4	
50		カミュー・ピサ ロ	1830-1903	ライ麦畑、グラット ＝コックの丘、ポン トワーズ	1877		キャンヴァス、 油彩	60.3×73.7	
51		クロード・モネ	1840-1926	ルーアンのセーヌ川	1872		キャンヴァス、 油彩	49.2×76.2	
52		ポール・ゴーギ ャン	1848-1903	家畜番の少女	1889		キャンヴァス、 油彩	73.0×92.0	
53		ポール・シニャッ ク	1863-1935	サン＝トロペ、グリ モーの古城	1899		キャンヴァス、 油彩	73.0×91.7	
54		ジョルジュ・ブ ラック	1882-1963	Bass	1911		紙、エッチング、 ドライポイント	45.5×32.6	
55		パブロ・ピカソ	1881-1973	ダヴィデとバテシバ	1949		紙、リトグラフ	61.1×48.2	
56		ファン・グリス	1887-1927	果物皿と新聞	1918		キャンヴァス、 油彩	92.2×66.0	
57		モーリス・ド・ ヴラマンク	1876-1958	小麦畑と赤い屋根の 家	1905		キャンヴァス、 油彩	60.0×73.0	
58		ジョアン・ミロ	1893-1983	シウラナの教会	1917		キャンヴァス、 油彩	46.3×55.1	

No.	章	作者名	生没年	作品名	制作年代 (西暦)	(和暦)	素材等	寸法	期間
59	【第3章】 西洋－近代 の風景画	ハイム・スーチン	1894-1943	カーニュ風景	1923		キャンヴァス、 油彩	60.0×72.4	通期
60		ヴァシリー・カン ディンスキー	1866-1944	《冷たいかたちのある 即興》のための習作	1914頃		紙、水彩、グワッ シュ、鉛筆	33.0×24.0	
61		パウル・クレー	1879-1940	ホールC. エントラ ンスR 2	1920		厚紙に貼られた 洋紙、油彩	21.7×46.6	
62	【第4章】 戦後から現 代へ	ジョアン・ミッ チュエル	1926-1992	湖	1954		キャンヴァス、 油彩	203.2×254.5	通期
63		吉原治良	1905-1972 (明治38-昭和47)	w o r k	1959	昭和34	キャンヴァス、 油彩	162×130	
64		白髪一雄	1924-2008 (大正13-平成20)	屋島	1965	昭和40	キャンヴァス、 油彩	182.0×227.0	
65		元永定正	1922-2011 (大正11-平成23)	作品	1963	昭和38	キャンヴァス、 油彩、水性樹脂 絵具	125.7×183.1	
66		難波田龍起	1905-1997 (明治38-平成9)	ミクロの世界	1966	昭和41	キャンヴァス、 油彩、エナメル	162.1×130.3	
67		アンゼルム・キ ャーファー	1945-	極光	1978-88		写真、灰・焦げ 跡のついた鉛、 上塗りした鉄の フレーム	241.4×101.4	
68		石田徹也	1973 (昭和48)~2005 (平成17)	飛べなくなった人	1996	平成8	板、アクリル	103.0×145.6	
69		石田徹也	1973 (昭和48)~2005 (平成17)	燃料補給のような食 事	1996	平成8	板、アクリル	145.6×206.0	
70		正木隆	1971-2004 (昭和46-平成16)	造形01-14	2001	平成13	綿布、油彩	163.5×227.5	
71		小谷元彦	1972- (昭和47-)	胸いっぱいいの愛を (Single/girl)	2005	平成17	デジタルプリン ト、ウッドフ レーム	172.7×122.5	
72		ダレン・アーモ ンド	1971-	Civil Dawn@ Mt.Hiei.7	2008		アクリル、Cブ リント	186×186×5	
73		今井俊満		東方の光					
74	【第5章】 コレクション を伝える	東山魁夷	1908-1999 (明治41-平成11)	秋富士	1955	昭和30	絹本着色	66.6×88.1	前期
75		山本丘人	1900-1986 (明治33-昭和61)	山野待春			紙本淡彩	35.0×42.2	
76		駒井哲郎	1920-1976 (大正9-昭和51)	樹	1958	昭和33	紙、エッチング	27.0×18.0	
77		小野竹喬	1889-1979 (明治22-昭和54)	はつ夏	1955-64	昭和30年 代	紙本着色	46.7×57.7	後期
78		梅原龍三郎	1888-1986 (明治21-昭和61)	暁天（富士山・大仁）	1944-56頃	昭和19-31 頃	紙本着色	46.3×33.0	
79		長谷川潔	1891-1980 (明治24-昭和55)	南仏古村（ムーアン・ サルトゥー）	1925	大正14	紙、メゾチント	13.6×37.8 (紙 33.3× 51.0)	
80		駒井哲郎	1920-1976 (大正9-昭和51)	コミック1	1958	昭和33	紙、カラー・ア クアチント	17.0×10.0	
81		曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	風景	1920頃	大正中期	キャンヴァス、 油彩	33.4×45.5	通期
82		香月泰男	1911-1974 (明治44-昭和49)	飛鳩	1958-61	昭和33-36	キャンヴァス、 油彩	27.4×22.1	
83		香月泰男	1911-1974 (明治44-昭和49)	茶の実	1960-1973 頃	昭和40-48 頃	キャンヴァス、 油彩	27.5×21.2	
84		香月泰男	1911-1974 (明治44-昭和49)	白椿	1960年代 -1970年代 頃	昭和35-45 年代頃	キャンヴァス、 油彩	18.5×14.0	
85		香月泰男	1911-1974 (明治44-昭和49)	みもごと猫	1960年代 -1970年代 頃	昭和35-45 年代頃	キャンヴァス、 油彩	18.5×14.0	
86		熊谷守一	1880-1977 (明治13-昭和52)	はたるぶくろ	1961	昭和36	板、油彩	33.2×24.1	

No.	章	作者名	生没年	作品名	制作年代 (西暦)	(和暦)	素材等	寸法	期間
87	【第5章】 コレクションを伝える	岡田謙三	1880-1977 (明治13-昭和52)	作品	1961	昭和36	キャンヴァス、 油彩	83.5×57.7	通期
88		鳥海青児	1902-1972 (明治35-昭和47)	はにわ	1958-1959	昭和33-34	キャンヴァス、 油彩	45.5×33.5	
89		椿椿山	1801-1854 (享和元-嘉永7)	花卉図	1844	天保15	紙本淡彩	174.0×97.1	前期
90		椿椿山	1801-1854 (享和元-嘉永7)	牡丹図	1844	天保15	紙本墨画	127.0×58.7	
91		菊池容斎	1788-1878 (天明8-明治11)	楠正成笠置山参朝之 図	1872	明治5	絹本着色	116.8×37.9	
92		菊池容斎	1788-1878 (天明8-明治11)	雪中日蓮上人の像	19世紀後半	江戸後期- 明治前期	絹本墨画	94.6×42.2	
93		滝和亭	1832-1901 (天保3-明治34)	遊鷺図	19世紀後半	明治後期	紙本墨画淡彩	134.0×51.7	
94		椿椿山	1801-1854 (享和元-嘉永7)	蕃植図	1842	天保13	絹本淡彩	141.5×68.3	後期
95		椿椿山	1801-1854 (享和元-嘉永7)	海鶴蟠桃図	1853	嘉永6	紙本墨画淡彩	129.0×70.0	
96		菊池容斎	1788-1878 (天明8-明治11)	蒙古襲来之図	1862	文久2	絹本淡彩	161.2×83.2	
97		菊池容斎	1788-1878 (天明8-明治11)	日蓮上人波題目之図	19世紀後半	江戸後期- 明治前期	絹本淡彩	108.1×45.8	
98				天平四年山背国愛宕 郡計帳断簡（第一断 簡）＜重要文化財＞	732	奈良時代 天平4	紙本墨書	30.4×50.6	前期
99				天平四年山背国愛宕 郡計帳断簡（第二断 簡）＜重要文化財＞	732	奈良時代 天平4	紙本墨書	30.6×50.8	
100		藤原定家	1162-1241 (応保2-仁治2)	明月記断簡	1227	鎌倉時代 嘉禄3	紙本墨書	28.5×43.9	
101		藤原師時（藤原 定家書写）	1077-1136 (承暦元-保延2)	長秋記断簡	13世紀前期	鎌倉時代 書写	紙本墨書	28.5×48.7	
102				天平勝宝四年東大寺 写経所請経文	752	奈良時代 天平勝宝4	紙本墨書	29.4×40.6	後期
103				古今和歌集卷第一断 簡（亀山切）	11世紀中期	平安時代 書写	紙本墨書	21.4×13.8	
104				後嵯峨上皇幸西園寺 詠翫花和歌＜重要文 化財＞	1247	鎌倉時代 宝治元	紙本墨書	28.6×209.4	
105		ガスパール・デュ ゲ	1615-1675	サビーニの山羊銅	1669-71		キャンヴァス、 油彩	68.5×49.5	通期
106		川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	海底に遣る日清勇士 の髑髏	1899年以前	明治32年 以前	板、漆絵	42.5×81.0	通期
107		ジョゼフ・コース ス	1945-	タイトルド、雨	1967		アクリル、シル ク印刷	120×120	

7月9日（土）～9月8日（木）

※所蔵者表記のない作品は静岡県立美術館蔵

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (cm) 縦×横または高さ×幅×奥行き	所蔵者
ほんもの そっくり？							
1	小出檜重	1887-1931	静物	1917	キャンヴァス、油彩	78.4×90.8	
2	森村泰昌	1951-	批評とその愛人 より	1989	カラー写真、額縁（7点組のうち）	各90.0×106.0	
3	森村泰昌	1951-	批評とその愛人 マ ケット	1989	紙、木、ラス網、粘土、ア クリルガッシュ	30.0×51.5×28.0	個人蔵
うごいてる うごいてる！							
4	ヴィクトル・ヴァザ ルリ	1906-1997	Penta-dell	1973-76	キャンヴァス、アクリル	200.0×200.0	個人蔵
5	ヴィクトル・ヴァザ ルリ	1906-1997	Boreal-F	1974-76	キャンヴァス、アクリル	194.0×194.0	個人蔵
6	金沢健一	1956-	音のかげら 1	1987	鉄、ゴム	2.5×220×220	
7	李禹煥	1936-	線より	1979	キャンヴァス、岩絵具、に かわ	182.0×227.0	
8	オノデラユキ	1962-	関節に気をつけろ！ No.3	2004	ゼラチン・シルバー・プリ ント、バライタ紙	77.0×108.0	個人蔵
9	オノデラユキ	1962-	関節に気をつけろ！ No.10	2004	ゼラチン・シルバー・プリ ント、バライタ紙	77.0×108.0	個人蔵
10	ジュリアン・オピー	1958-	Tina walking	2009	コンピュータ映像、52イン チLCDスクリーン	125.7×74.8×12.5	個人蔵
なにで できているの？							
11	淀井敏夫	1911-2005	幼いキリン・堅い土	1985	石膏	135.0×109.0×73.0	
12	小谷元彦	1972-	SP1'Beginning' (The Whorl of Lanugo01)	2007	アルミニウム casting、鉛、 パール塗料	93.0×93.0×10.0	
13	小谷元彦	1972-	SP1'Beginning' (The Whorl of Lanugo02)	2007	アルミニウム casting、鉛、 パール塗料	93.0×93.0×10.0	
14	小谷元彦	1972-	SP1'Beginning' (The Whorl of Lanugo03)	2007	アルミニウム casting、鉛、 パール塗料	93.0×93.0×10.0	
15	草間彌生	1929-	最後の晩餐	1981	ミクスト・メディア（テー ブル1、イス6、綿布、綿、 既製品ほか）	テーブル：107.0×215.0× 108.0 椅子：各80.0×45.0×54.0	
こんなかきかたがあるんだ							
16	ポール・セザンヌ	1839-1906	ジャ・ド・ブーファ ンの大樹	1885-87	紙、水彩、鉛筆	32.5×50.0	
17	川口軌外	1892-1966	白い花	1932	キャンヴァス、油彩	91.0×73.0	
18	坂田一男	1889-1956	祭壇の男	1926	キャンヴァス、油彩	80.0×60.0	
19	海老原喜之助	1904-1970	かぜ	1954	キャンヴァス、油彩	162.2×131.0	
よくわからない でも きになる							
20	田中敦子	1932-2005	1985A	1985	綿布、アクリル系樹脂塗料	218.5×333.3	
21	草間彌生	1929-	無題	1959	キャンヴァス、油彩	232.5×359.0	
22	菅井汲	1919-1996	Masse Noire	1964	キャンヴァス、油彩	195.0×130.0	
23	植木茂	1913-1984	トルソ	1956	木	152.3×59.0	個人蔵
24	ドナルド・ジャッド	1928-1994	無題	1990	黒のアノダイズド・アルミ ニウム、ブロンズ色のプレ キシガラス（10ユニット）	各15.2×68.5×61.0	
25	ドナルド・ジャッド	1928-1994	無題	1988	和紙、木版（10枚組）	各60.0×80.0	

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (cm) 縦×横または高さ×幅×奥行き	所蔵者
ほんもの？ほんものじゃない？							
26	丹羽勝次	1931-	箱シリーズ '68	1968	プリント合板、縄	148.5×92.0×5.0	
27	前田守一	1932-2007	バサッ	1969	木、塗装（2個組）	各157.3×45.7×9.5	
28	飯田昭二	1927-	Half and Half	1968	鳥籠、靴、鏡	48.4×50.0×50.1	
29	鈴木慶則	1936-2010	〈内乱のきざし〉の 相貌をおびた非在の タブロー	1967	木、キャンヴァス、油彩	130.6×130.6	
30	鈴木慶則	1936-2010	非在のタブロー 梱 包されたオダリスク	1968	ミクスト・メディア（キャン ヴァス、油彩ほか）	125.3×189.5×21.5	
きれいな たくさんのいろ たのしいね							
31	幾 嘸	1931-	虹の橋	1974	油彩、ベニヤほか	長さ1300.0×幅50.0cm	個人蔵
32	オノデラユキ	1962-	12 Speed No. CO-8	2008	ゼラチン・シルバー・プリ ント、パライタ紙	124.0×173.0	個人蔵
33	ジェームズ ・ローゼンクイスト	1933-	F-111（南,西,北,東）	1974	紙、リトグラフ、シルクス クリーン	91.0×738.0	

開館30周年記念展

徳川の平和（パクス・トクガワナ）－250年の美と叡智－

指定●は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品

前期：9月17日（土）～10月10日（月・祝） 後期：10月12日（水）～11月3日（木・祝）

番号	指定	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
第一章 国家安寧―平和への道							
I 徳川家康とその時代							
1		狩野安信	徳川家康像	絹本著色	一幅	日光東照宮宝物館	
2		徳川秀忠詞書	源氏物語画帖	紙本墨書・紙本著色	八面（詞・絵各五十四面のうち）	徳川美術館	場面替え
3			洛中洛外図屏風	紙本金地著色	六曲一隻	京都国立博物館	前期
4			洛中洛外図屏風	紙本金地著色	六曲一隻	国立歴史民俗博物館	後期
5	◎	狩野探幽	松に孔雀図壁貼付	紙本金地著色	二面	元離宮二条城事務所	
6	◎	狩野探幽または山楽	松図障壁画	紙本金地著色	四面	元離宮二条城事務所	
II 徳川将軍家の御用絵師たち							
7		狩野探幽	三十六歌仙図額	板絵金地著色	六面（十八面のうち）	静岡浅間神社	前期
8		狩野探幽	白鷺図	絹本著色	一幅	静岡県立美術館	
9		狩野探幽	四季花鳥図屏風	絹本淡彩	六曲一双	徳川美術館	後期
10		狩野探幽	一ノ谷合戦・二度之懸図屏風	紙本金地著色	六曲一隻	静岡県立美術館	
11		狩野探幽	山水図	絹本墨画淡彩	一幅	高松松平家歴史資料（香川県立ミュージアム保管）	
12		狩野常信	墨竹図風炉先屏風	絹本墨画	二曲一隻	徳川美術館	後期
13		狩野常信	吉野図屏風	紙本著色	二曲一双	徳川美術館	後期
14		狩野常信	花鳥人物貼交図屏風	絹本著色	六曲一双	板橋区立美術館	前期
15		狩野益信	朝鮮通信使図屏風	紙本著色	八曲一双	泉涌寺	
16		狩野益信	賢帝図屏風	紙本金地著色	六曲一双	個人蔵	
17		狩野探幽	学古図帖	絹本／紙本・著色／墨画	一帖	個人蔵	場面替え
18-1		狩野探幽	倣古名画卷	絹本著色／墨画	一卷（七巻のうち）	個人蔵	場面替え
18-2		狩野安信	倣古名画卷	絹本著色／墨画	一卷（七巻のうち）	個人蔵	場面替え
18-3		狩野安信	倣古名画卷	紙本著色／墨画	一卷（七巻のうち）	個人蔵	場面替え
18-4		狩野常信	倣古名画卷	絹本著色／墨画	一卷（七巻のうち）	個人蔵	場面替え
18-5		狩野益信	倣古名画卷	紙本墨画	一卷（七巻のうち）	個人蔵	場面替え
19		狩野安信・益信・常信・探信・探雪	名画集	絹本著色	一帖	個人蔵	場面替え
20		狩野安信・益信・常信・探信・探雪	花鳥人物図画帖	絹本著色	一帖	嬉遊会コレクション	場面替え
21		狩野常信・探信	雑画帖	絹本著色／墨画	一帖	個人蔵	場面替え
22		狩野常信	和漢流書手鑑	絹本著色／墨画	二帖	個人蔵	場面替え
23		狩野益信	和漢名画卷	絹本著色／墨画	一卷	個人蔵	場面替え
24		狩野惟信	倣古名画卷	絹本著色／墨画	一卷	個人蔵	場面替え
第二章 諸人快楽―「徳川の平和」の世に生きる							
I 都市の繁栄							
25			都鄙図屏風	紙本著色	八曲一隻	静岡県立美術館	9/17～10/2
26			洛中洛外図屏風	紙本著色	六曲一隻	個人蔵	10/4～11/3
27		住吉具慶	洛中洛外図屏風	紙本金地著色	六曲一双	個人蔵	10/18～11/3
28			洛中洛外図屏風	紙本著色	六曲一双	個人蔵	9/17～10/2
29			京大坂図屏風	紙本著色	六曲一双	サントリー美術館	10/4～10/16
30			江戸天下祭図屏風	紙本著色	六曲一双	個人蔵	前期
31		菱川師宣	江戸風俗図巻	絹本著色	二巻	出光美術館	場面替え
32			江戸風俗図屏風	紙本著色	六曲一双	出光美術館	後期

番号	指定	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
33			十二ヵ月風俗絵巻	紙本著色	二巻	国立歴史民俗博物館	場面替え
34			東海道図屏風	紙本著色	六曲一双	個人蔵	前期
35			東海道図屏風	紙本著色	四曲一隻	個人蔵	前期
36			東海道図屏風	紙本著色	六曲一隻	国立歴史民俗博物館	後期
37		小沼満英	三嶋宿風俗絵屏風	紙本淡彩	六曲一双	三島信用金庫	後期
II 都市と田園のエスプリ							
38		英一蝶	吉原風俗図巻	紙本著色	一巻	サントリー美術館	場面替え
39		英一蝶	四条河原納涼図	紙本淡彩	一幅	千葉市美術館	前期
40		英一蝶	太神楽図	紙本淡彩	一幅	個人蔵	
41		英一蝶	乗合船図	絹本著色	一幅	東京国立博物館	後期
42		英一蝶	淀川図	絹本淡彩	一幅	個人蔵	
43		英一蝶	雨宿図屏風	紙本淡彩	六曲一隻	東京国立博物館	後期
44		英一蝶	田園風俗図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	サントリー美術館	前期
45		英一蝶	節句図	絹本著色	三幅対	高松松平家歴史資料 (香川県立ミュージ アム保管)	後期
46		英一蝶	朝顔に日傘図	紙本著色	一幅	愛知県美術館 木村 定三コレクション	後期
47		英一蝶	浅草歳市図	絹本著色	一幅	愛知県美術館 木村 定三コレクション	後期
48		久隅守景	鷹狩図屏風	紙本著色	八曲一双	日東紡績株式会社	前期
49		久隅守景	四季耕作図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	個人蔵	前期
50	○	久隅守景	四季耕作図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	個人蔵	後期
51		久隅守景	耕作図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一隻	千葉市美術館	後期
52	●	久隅守景	納涼図屏風	紙本墨画淡彩	二曲一隻	東京国立博物館	後期
53		久隅守景	鍋冠祭図押絵貼屏風	紙本墨画淡彩	二曲一隻	個人蔵	後期
第三章 雅俗交響—知の愉しみと好奇心							
I 文芸と絵画の響き合い							
54	◎	池大雅	蘭亭曲水・龍山勝会 図屏風	紙本著色	六曲一双	静岡県立美術館	後期
55	◎	池大雅	柳下童子図屏風	紙本墨画淡彩	八曲一隻	京都府 池大雅美術 館コレクション	前期
56		池大雅	五君咏図	紙本墨書／墨画	六幅	個人蔵	場面替え
57	◎	与謝蕪村	奥の細道図	紙本墨画淡彩	一巻（下巻）	京都国立博物館	場面替え
58		与謝蕪村	陶淵明図	紙本墨画淡彩	一幅	京都国立博物館	後期
59		与謝蕪村	三ッ朝図	紙本墨画淡彩	一幅	京都国立博物館	後期
60		与謝蕪村	紫陽花にほととぎす 図	紙本墨画淡彩	一幅	愛知県美術館 木村 定三コレクション	前期
61		与謝蕪村	若竹図	紙本墨画淡彩	一幅	愛知県美術館 木村 定三コレクション	前期
62		渡辺崋山	田園雑興詩画	紙本墨書／墨画淡彩	詩九面・画九幅	嬉遊会コレクション	場面替え
II 異国へのまなざしと博物趣味							
63		杉田玄白訳・小田野 直武画	解体新書	紙本墨摺	一冊	個人蔵	
64		平賀源内	西洋婦人図	布地油彩	一面	神戸市立博物館	後期
65		宋紫石	ライオン図	絹本著色	一幅	大和文華館	後期
66		石川大浪	西洋婦人図	絹本著色	一幅	大和文華館	後期
67		石川大浪	紅毛婦人図	絹本墨画淡彩	一幅	神戸市立博物館	前期
68		石川大浪	ヒポクラテス像	絹本墨画	一幅	神戸市立博物館	後期
69		石川孟高	少女愛猫図	絹本墨画	一幅	大和文華館	前期
70		石川孟高	火喰鳥図	絹本著色	一幅	歸空庵コレクション	前期
71		荒木如元	瀬海都城図	布地油彩	一面	神戸市立博物館	後期
72		荒木如元	オランダ海港図	布地油彩	一幅	大和文華館	前期

番号	指定	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
73		佐竹曙山	菖蒲洋刀図	絹本著色	一幅	歸空庵コレクション	前期
74		司馬江漢	獅子のいる風景図	銅版筆彩	一面	神戸市立博物館	前期
75		司馬江漢	流水双馬図	絹本著色	一幅	歸空庵コレクション	後期
76		司馬江漢	異国風景人物図	絹本油彩	二幅	神戸市立博物館	後期
77		司馬江漢	学術論争図	絹本油彩	二曲一隻	歸空庵コレクション	前期
78		伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	紙本著色	六曲一双	静岡県立美術館	前期
79		伊藤若冲	白象群獣図	紙本著色	一面	個人蔵	前期
80			椿・芥子図屏風	紙本金地著色	八曲一双	個人蔵	後期
81			椿図屏風	紙本金地著色	六曲一双	個人蔵	後期
82		三熊花顔	蝶類図卷	絹本著色	一卷	摘水軒記念文化振興財団	場面替え
83			衆鱗図（第二帖）	紙本著色	一帖（四帖のうち）	高松松平家歴史資料（香川県立ミュージアム保管）	場面替え
84			衆芳画譜（花果 第五帖）	紙本著色	一帖（四帖のうち）	高松松平家歴史資料（香川県立ミュージアム保管）	場面替え
85		増山雪斎	虫多帖（春帖）	紙本著色	一帖（四帖のうち）	東京国立博物館	場面替え
86		堀田正敦編	禽譜（林禽二）	紙本著色	一帖（十帖のうち）	東京国立博物館	場面替え
第四章 変化と革新—新時代への胎動							
87		狩野永岳	三十六歌仙歌意図屏風	紙本著色	六曲一双	静岡県立美術館	
88		狩野永岳	四季耕作図屏風	紙本金地著色	六曲一双	静岡県立美術館	
89		岡田為恭	春秋鷹狩茸狩図屏風	紙本著色	六曲一双	大和文華館	
90	◎	渡辺崋山	一掃百態図	紙本墨画淡彩	一冊	田原市博物館	場面替え
91	◎	渡辺崋山	渡辺巴洲像画稿	紙本墨画	一幅	田原市博物館	前期
92		渡辺崋山	御母堂栄之像画稿	紙本著色	一幅	田原市博物館	前期
93		渡辺崋山	佐藤一斎像画稿	紙本墨画／淡彩	五幅	千葉市美術館	場面替え
94	◎	渡辺崋山	市河米庵像	絹本著色	一幅	京都国立博物館	後期
95		渡辺崋山	翎毛虫魚図	紙本淡彩	二冊	草雲美術館	場面替え
96		椿椿山	伊東瑞三像	絹本著色	一幅	個人蔵	後期
97	◎	椿椿山	渡辺崋山像	絹本著色	一幅	田原市博物館	前期
98		椿椿山	山海奇賞図卷	紙本淡彩	一卷	静岡県立美術館	場面替え
99		立原杏所	鴻爪図卷	紙本淡彩	一卷	個人蔵	場面替え
100		葛飾北斎	萩の玉川図	紙本淡彩	一幅	板橋区立美術館	
101		歌川広重	墨田川春景図	絹本著色	一幅	静岡県立美術館	10/18～11/3
102		歌川広重	江戸近郊図	絹本著色	一幅	板橋区立美術館	9/17～10/16
103		歌川広重	目黒四季図	絹本著色	四幅	摘水軒記念文化振興財団	
104		徳川慶喜	風景	紙、油彩	一面	静岡県立美術館	

再発見！ ニッポンの立体 生人形からフィギュアまで 出品リスト

静岡県立美術館

2016年11月15日(火) - 2017年1月9日(月・祝)

* 寸法 (cm) については別記ないものは、高さ×幅×奥行あるいは縦×横となっています。(H：高さ、W：幅)

* リスト番号は図録と一致します。当館で出品されない作品は掲載していません。

* 番号末尾にAが付いている作品は御出品者様の御事情により差し替えになったものであり、図録には掲載されていません。

* 番号先頭にSが付いている作品は静岡展独自出品作であり、図録には掲載されていません。

* 展示作品は都合により変更となる場合があります。

No.	作者	作品	制作年	技法・材質	大きさ (cm)	所蔵先
第 I 章 置物・縁起物・飾り物						
I - 1. 仙人・超人・キャラクター						
解説：置物・縁起物						
134	桂光春	菊慈童	明治時代後期	金工	H28.0	掛川市二の丸美術館
135	豊川光長 (二代)	菅公童子立像	1923(大正12)	金工、金銀象嵌	H18.6	掛川市二の丸美術館
144	寺内信一	歳徳神像	1932(昭和7)	陶	H16.0	とこなめ陶の森
13	高村東雲	西行法師像	江戸時代後期	木、彩色	30.5×15.0×10.3	小平市平櫛田中彫刻美術館
139	加納鉄哉	鍾馗像		木、彩色	H35.0	岐阜市歴史博物館
140	加納鉄哉	鬼念仏像		木、彩色	H37.8	岐阜市歴史博物館
138	加納鉄哉	鍾馗像		木	H23.1	岐阜市歴史博物館
27	高村光雲	西王母		木	H28.5	清水三年坂美術館
38	平櫛田中	灰袋子	1950(昭和25)	木	H45.3	平塚市美術館
136	森川杜園	春日赤童子	1889(明治22)	木、彩色	H22.2	小平市平櫛田中彫刻美術館
21		堤土人形 山姥と金太郎			18.0×13.0×5.5	静岡市立芹沢銈介美術館
22		堤土人形 敦盛			22.0×19.0×8.5	静岡市立芹沢銈介美術館
解説：「キャラ化」の作用						
17		花巻土人形 だるま			12.0×11.0×8.1	静岡市立芹沢銈介美術館
79		達磨木型		木	20.0×26.5×26.0	静岡市立芹沢銈介美術館
80		高崎だるま		紙、粘土、胡粉、水性塗料	39.0×33.0×29.0	
75	平櫛田中	気楽坊	1961(昭和36)	木、彩色	19.5×19.0×11.0	小平市平櫛田中彫刻美術館
76	平櫛田中	福聚大黒天尊像	1970(昭和45)	木、彩色	H17.8	小平市平櫛田中彫刻美術館
77	平櫛田中	満徳恵比寿尊像	1971(昭和46)	木、彩色	H17.5	小平市平櫛田中彫刻美術館
148	河井寛次郎	鉄釉陶彫像	1935(昭和10)	陶	25.0×16.0×13.0	河井寛次郎記念館
149	河井寛次郎	鉄釉陶彫像	1937(昭和12)	陶	28.5×16.0×14.0	河井寛次郎記念館
S1		「今川さん」関連資料				個人蔵
82		店頭用ベコちゃん人形		ソフトビニール製、金属台座、布製衣装	H100.0	不二家
I - 2. 瑞獣・動物・キャラクター						
14	諏訪立川流二代目立川和四郎富昌	狛犬			73.0×74.0×43.0 (右) 80.0×74.0×37.0 (左)	静岡浅間神社
29	富本梅月	龍観世音像香炉	1925(大正14)	陶	42.0×25.0×25.0	とこなめ陶の森
解説：近代日本の金工と陶彫						
132	津田信夫	鶴		鍍金	6.0×14.0×5.0 (左) 10.8×16.5×6.0 (右)	千葉県立美術館
133	津田信夫	玉麟焔爐		鍍金	24.5×38.0×14.0	千葉県立美術館

No.	作者	作品	制作年	技法・材質	大きさ (cm)	所蔵先
131	香取秀真	美々豆久香炉		鍍金	17.8×11.4×8.6	千葉県立美術館
145	沼田一雅	陶彫 印度象	1950-54(昭和25-29)頃	陶	15.8×21.8×8.8	東京国立近代美術館
147	小川雄平	陶製黒豹置物	1933(昭和8)	陶	22.0×44.5×12.3	東京国立近代美術館
24		木の葉猿 (馬乗り)			14.0×5.0×9.5	静岡市立芹沢銈介美術館
20		相良土人形 犬			18.0×15.0×8.0	静岡市立芹沢銈介美術館
18		花巻土人形 座り猫			15.0×12.0×9.0	静岡市立芹沢銈介美術館
解説：どうぶつキャラ＝瑞獣？						
81		招き猫			31.0×18.0×16.0	
S2		静岡県イメージキャラクター「ふじっぴー」 関連資料				静岡県
83		店頭用サトちゃん人形	2015(平成27)	ABS樹脂 (本体)、 HDPE (高密度ポリエチレン)、砂鉄 (台座)	H68.0 台座22.0	佐藤製薬 (協力：清水薬局)
コラム「本物そっくり」とは						
58A	安藤緑山	貝尽くし	明治時代-大正時代	象牙、彩色	6.6×18.5×12.5	清水三年坂美術館
15A		鵜	幕末期-明治時代		7.6×18.0×12.0	清水三年坂美術館
63	川村吾蔵	ホルスタイン種乳牛牝	1923(大正12)	ブロンズ	45.5×64.0×22.5	佐久市川村吾蔵記念館
72		食品サンプル			径15.0 (スパゲティ、サラダ)、 H16.0 (ビール)	
S17		オーギュスト・ロダン 《考える人》頭部3D プリンタ出力		デジタルデータ	不定	静岡県立美術館
I-3. 精巧な飾り物						
解説：根付・水滴・香合						
114	上方派	眠り猫とあわび	江戸時代中期	象牙	3.8×2.3×1.5	京都 清宗根付館
115	京都派	魚を持つ漁師	江戸時代中期	象牙	2.8×8.0×2.0	京都 清宗根付館
99	江月銘	梨蜂木彫根付		木彫彩色	5.0×3.5	清水三年坂美術館
101	王藻銘	落花生木彫根付		木彫彩色	2.5×5.0	清水三年坂美術館
97	光春銘	銀杏象牙彫根付		象牙	4.0×3.5	清水三年坂美術館
100	無銘	蟬木彫根付		木彫彩色	6.0×2.0	清水三年坂美術館
98	光角銘	亀木彫根付		木	6.0×5.0×3.0	清水三年坂美術館
117	加納鉄哉	二の舞	大正時代後期	木	3.0×1.5×3.5	京都 清宗根付館
116	鈴木正直 (初代)	草鞋に蛙		黄楊	4.7×2.5×3.5	京都 清宗根付館
119	岸一舟	面づくし	1960(昭和35)	象牙	4.8×3.3×4.1	京都 清宗根付館
118	稲田一郎	恵比寿		象牙	3.3×3.2×2.7	京都 清宗根付館
120	関沢芳堂	海のめぐみ	2006(平成18)	象牙	3.9×1.9×2.5	京都 清宗根付館
121	駒田柳之	夕暮		黄楊	2.5×7.6×3.0	京都 清宗根付館
122	永島信也	鬼が出るか蛇が出るか	2016(平成28)	黄楊、鼈甲、岩絵具	6.7×3.6×2.7	Gallery花影抄
123	永島信也	瑞兆	2016(平成28)	鹿角、鼈甲	6.1×3.2×2.2	Gallery花影抄
104	橋本平八	楽地雨趣	1931(昭和6)	木、彩色	2.0×2.3×2.5	個人 (三重県立美術館寄託)
102	橋本平八	たにぐく		木、彩色	3.0×4.0×7.0	個人 (三重県立美術館寄託)
106	橋本平八	多仁俱九		木、彩色	2.5×3.5×5.0	個人 (三重県立美術館寄託)
105	橋本平八	稲舟香合	1933(昭和8)	木	3.0×7.0×3.5	個人 (三重県立美術館寄託)
103	橋本平八	三猿香合	1929(昭和4)	木、彩色	5.0×8.0×5.0	個人 (三重県立美術館寄託)
108	山田常山 (三代)	梨皮紫泥水滴	1986(昭和61)頃	陶	3.4×8.1×3.6	とちぎ蔵の街美術館「石井コレクション」

No.	作者	作品	制作年	技法・材質	大きさ (cm)	所蔵先
107	下村良之介	子水滴	1995(平成7)頃	陶	8.9×8.4×10.4	とちぎ蔵の街美術館「石井コレクション」
109	小山一草 (二代)	サザエ水滴	1981(昭和56)頃	陶	4.3×5.9×6.3	とちぎ蔵の街美術館「石井コレクション」
111	大嶋久興	黄瀬戸水滴	1996(平成8)頃	陶	5.5×8.3×5.0	とちぎ蔵の街美術館「石井コレクション」
112	佐藤和彦	灰陶泥彩水滴	1989(平成元)頃	陶	5.3×9.4×4.6	とちぎ蔵の街美術館「石井コレクション」
110	宮永理吉 (三代 宮永東山)	影青鎗文有水滴	1990(平成2)頃	磁器	4.6×6.9×5.8	とちぎ蔵の街美術館「石井コレクション」
113	吉川充	渦巻文水滴	1991(平成3)頃	陶	6.4×9.7×8.9	とちぎ蔵の街美術館「石井コレクション」
解説：明治の工芸						
128A	正阿弥勝義	瓢箪に蜂花瓶	明治時代	鉄、赤銅に金・赤銅象嵌、四分一、金	H20.5	清水三年坂美術館
129	村上盛之	冬瓜大香炉			H26.0 (轆虫8.5)	清水三年坂美術館
130	長谷川一清	孔雀置物	明治時代	銀地に金・銀・赤銅・四分一・素銅象嵌、肉彫、象嵌七宝	雄H17.5 雌H13.5	清水三年坂美術館
126	宮川香山	崖ニ鷹大花瓶 一对	1876-82(明治9-15)頃	陶	右H52.0×W37.0 左H52.0×W34.0	山本博士コレクション (宮川香山眞葛ミュージアム保管)
125	宮川香山	葡萄鼠細工花瓶 一对	1876-82(明治9-15)頃	陶	各H35.5	山本博士コレクション (宮川香山眞葛ミュージアム保管)
127A	明珍正信	伊勢海老	幕末期		幅31.0	清水三年坂美術館
59	山崎南海	牙彫自在海老		象牙、彩色	8.0×27.0×13.0	清水三年坂美術館
60	津田笑齋	活動海老	1925(大正14)	象牙、彩色	13.0×12.0×10.0	個人
解説：小さきものとしてのフィギュア						
S3	MODELKASTEN	1/35女子高生	2013-2015(平成25-27)	ポリウレタン樹脂、彩色	H4.8 (直立姿勢のもの)	(株) アートボックス
インターミッション「2.5次元」としての半立体						
85	高村光雲	江口の遊君	1899(明治22)	木	径40.5	清水三年坂美術館
86	辻村松華	婦人像	1900(明治33)	乾漆	55.0×39.0	東京藝術大学
解説：構造社と近代生活						
87	齋藤素巖	泉	1927(昭和2)	石膏、彩色	76.5×147.5×5.0	小平市
89	陽咸二	女と犬	1929(昭和4)	ブロンズ	115.6×98.5×9.5	宇都宮美術館
88	陽咸二	女と猫	1929(昭和4)	ブロンズ	116.0×98.0×9.3	宇都宮美術館
解説：辻晋堂と「板のやうな」彫刻						
151	辻晋堂	ポケット地平線	1965(昭和40)	陶	26.5×93.0×13.5	三重県立美術館
解説：中谷ミチコとレリーフ						
96	中谷ミチコ	印象 鳥	2012(平成24)	石膏、透明樹脂、顔料	78.0×82.0×9.0	作家蔵
追加	中谷ミチコ	I'll give you my blood	2016(平成28)	石膏、透明樹脂、顔料	43.0×53.0×3.6	作家蔵
93	中谷ミチコ	美しい鳥	2011(平成23)	石膏、透明樹脂、顔料	114.0×90.0×10.5	H.G.蔵
解説：絵画とレリーフのあいだ						
S4	白髪一雄	屋島	1965(昭和40)	カンヴァス、油彩	182.0×227.0	静岡県立美術館
S6	丹羽勝次	NO HOOKS	1968(昭和43)	合板、ラッカー、縄	138.0×123.0	静岡県立美術館
解説：工芸と彫刻をめぐって						
S7	嵯峨篤	Repose/009-017	2008(平成20)	MDF、ウレタンコート、9枚組	41.5×41.5×3.3-4.7	静岡県立美術館
S8	小谷元彦	SP1'Beginning' (The Whorl of Lanugo01)	2007(平成19)	アルミニウム casting、鉛、パール塗料	93.0×93.0×10.0	静岡県立美術館
S9	小谷元彦	SP1'Beginning' (The Whorl of Lanugo02)	2007(平成19)	アルミニウム casting、鉛、パール塗料	93.0×93.0×10.0	静岡県立美術館
S10	小谷元彦	SP1'Beginning' (The Whorl of Lanugo03)	2007(平成19)	アルミニウム casting、鉛、パール塗料	93.0×93.0×10.0	静岡県立美術館

No.	作者	作品	制作年	技法・材質	大きさ (cm)	所蔵先
解説：セザンヌと森村——もうひとつの冴えたやり方						
S11	森村泰昌	批評とその愛人 (3) (4) (6) (7)	1989(平成元)	カラー写真、額縁	90.0×106.0	静岡県立美術館
解説：2.5次元としてのフィギュア						
S12	桜文鳥	フィギュアキャラクタ ーイラスト		デジタルデータ	不定	
S16	鈴木憲	「ノーツちゃん」原画	2016(平成28)	デジタルデータ	不定	ガイアノーツ (株)
156	桜文鳥	あかねちゃんとアヒル ちゃん	2002(平成24)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H22.5	作家蔵
158	桜文鳥	メイver.1.1 (緑)	2011(平成23)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H11.0	作家蔵
S15	タナベシン	1/6 リアルタイプノ ーツちゃん	2012(平成24)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H13.5	ガイアノーツ (株)
S14	塚原重義 (監督)	《女生徒》関連資料	2014(平成26)			個人蔵
S13	MODELKASTEN	昭和初期の女学生	2014(平成26)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H5.0	(株) アートボックス
第Ⅱ章 人間を考える						
Ⅱ－１．現代の人物表現						
49	野口哲哉	誰モ喋ッテハイケナイ	2008(平成20)	樹脂、化学繊維など	H31.0	個人蔵
50	野口哲哉	Sleep Away	2015(平成27)	樹脂、化学繊維など	H37.0	個人蔵
51	野口哲哉	Clever Bird	2016(平成28)	樹脂、化学繊維など	45.7×21.0×18.0	個人蔵
52	野口哲哉	Red Man 2016ver	2016(平成28)	樹脂、化学繊維など	28.5×11.0×8.0	個人蔵
53	野口哲哉	ビットマンシリーズ (8点組)	2016(平成28)	樹脂など	各7.3×2.1×1.3	個人蔵
解説：現代作家の技法——張り子・木彫・乾漆						
73	荒井良	Emergence	2015(平成27)	紙、木、胡粉彩色	H91.0	小泉清氏蔵
45	棚田康司	卓の少年－太陽－	2015(平成27)	楠材の一本造りに彩 色、アクリル糸	139.0×57.0× 31.0	
46	棚田康司	卓の少年－月－	2015(平成27)	楠材の一本造りに彩 色、レース糸	128.0×57.0× 31.0	
47	保井智貴	echoic	2008(平成20)	漆、麻布、螺鈿、錫 粉、岩絵具、膠、黒 曜石、大理石etc.	163.0×50.0× 28.0	個人蔵
48	保井智貴	light	2014(平成26)	楠、漆、麻布、螺鈿、 岩絵具、膠、黒曜石、 タイ離席、他	160.0×40.0× 23.0	作家蔵
解説：現代の人体表現としてのフィギュア						
154	桜文鳥	RSH (リアルスケール ヘッド) ver.1.1	2013-14(平成25- 26)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H56.0	作家蔵
157	桜文鳥	メイ (紺)	2005(平成17)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H11.0	作家蔵
159	桜文鳥	メイver.1.1 (橙)	2011(平成23)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H11.0	作家蔵
S18	タナベシン	1/6 Military Girl 01	2016(平成28)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H11.0	作家蔵
S19	タナベシン	1/6 Winanna The Hunter	2015(平成27)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H31.0	個人蔵
S20	矢竹剛教	1/6 Future Girl (黒)	2015(平成27)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H28.0	個人蔵
S27	矢竹剛教	Honey Bee 胸像 (カ ラーアレンジ)	2012(平成24)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H20.0	
S26	矢竹剛教	Honey Bee 胸像 (通 常色)	2011(平成23)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H20.0	
S21	矢竹剛教	丑蜜 胸像 (カラーア レンジ)	2006(平成18)	ポリウレタン樹脂、 彩色	H15.0	個人蔵
Ⅱ－２．肖像・人物像						
36	米原雲海	永富謙八翁之像	1901(明治34)	木	30.0×26.5×24.5	井原市立田中美術館
37	平櫛田中	小田部助左衛門翁像	1929(昭和4)	木	29.5×39.5×30.0	個人蔵
40	鯉江方寿	鯉江小三郎尚方像	1887(明治20)	陶	17.5×17.0×12.0	とこなめ陶の森
解説：常滑にみる地場産業の近代化と美術化						

No.	作者	作品	制作年	技法・材質	大きさ (cm)	所蔵先
84	松山政太郎	筋展示レリーフ	1884(明治17)	陶	63.5×31.5×4.5	常滑市
31	大熊氏廣	木戸孝允胸像	1892(明治25)	石膏	56.5×39.0×20.0	京都市美術館
30	内藤陽三	鯉江方寿翁胸像	1884(明治17)	陶	52.5×46.0×24.0	とこなめ陶の森
41	平野霞裳	鯉江方寿翁家立像	1913(大正2)	陶	69.0×30.0×23.0	常滑市
42	平野霞裳	鯉江方寿翁像頭部	1914(大正3)	陶	72.0×40.0×40.0	とこなめ陶の森
解説：寺内信一《裸婦像》						
26	寺内信一	裸婦像	1884(明治17)	陶	82.0×38.0×24.0	常滑市
解説：近代彫刻とロダン						
32	朝倉文夫	市川團十郎像	1939(昭和14)	ブロンズ	H66.5	台東区立朝倉彫塑館
35	高村光太郎	大倉喜八郎像	1927(昭和2)	ブロンズ	14.5×10.5×12.0	神奈川県立近代美術館
33	高村光太郎	裸婦座像	1917(大正6)	ブロンズ	29.5×14.0×15.0	京都国立近代美術館
91	戸張孤雁	女の肖像		ブロンズ	42.5×37.0×21.0	東京国立近代美術館
90	荻島安二	マスク (マレーネ・ディートリッヒ)	1938(昭和13)	軽合金	20.5×16.0×13.0	東京国立近代美術館
152	八木一夫	人物	1964(昭和39)	陶	36.0×17.0×11.0	広島県立美術館
解説：澤田政廣と彩色木彫						
S23	澤田政廣	笛人	1971(昭和46)	木、彩色	H90.0	静岡県立美術館
Ⅱ－3.「人形」とは何か						
23		金沢土人形 立ち娘	江戸時代末期		13.0×6.0×4.0	静岡市立芹沢銈介美術館
19		相良土人形 玉ころがし			8.0×11.0×5.5	静岡市立芹沢銈介美術館
78		童子頭部 (張子の型)			27.5×13.0×16.5	静岡市立芹沢銈介美術館
解説：静岡姉さま						
S24	四代目曾根 (鈴木) ます	静岡姉さま	2016(平成28)	紙、水引	(大) H40.0 (小) H25.5	個人蔵
解説：人形の彫刻						
137	森川杜園	里万歳		木、彩色	(大) H15.1 (小) H8.7	小平市平櫛田中彫刻美術館
141	橋本平八	人形像	1925(大正14)	木、彩色	21.0×9.5×5.0	個人 (三重県立美術館寄託)
143	石井鶴三	隅田川		木、彩色	H23.8	小平市平櫛田中彫刻美術館
142	橋本平八	伊勢人形 参宮道者	1929(昭和4)	木	各7.5×3.5×2.0	個人 (三重県立美術館寄託)
解説：関節人形						
25		御所人形 (三つ折人形)	江戸時代後期		H48.0	個人蔵
54	四谷シモン	Simon Doll	2014(平成26)	木、桐塑、ガラス、毛、布、皮	107.0×26.0×18.0	作家蔵
解説：生人形とフィギュア						
61	松崎福松	野見宿禰と当麻蹶速	1928(昭和3)		35.7×30.0×35.0	双葉寿司
S25	ブラッツ	駿府人形 (HITOGATA) 徳川家康公坐像	2016(平成28)	ミクストメディア	H22.0 (台座含む)	(有) ブラッツ
155	桜文鳥	RSH (リアルスケールヘッド) -A3	2015(平成27)	ポリウレタン樹脂、彩色	H56.0	作家蔵
解説：マネキン人形						
43	向井良吉	マネキン (FW-68)	1952(昭和27)	楮製紙 マネキン着用衣裳：セーター (複製)、フレアスカート・ベルト (オリジナル) 杉野芳子制作、1954 (昭和29) 年	H170.0	杉野学園衣裳博物館
44	グループ七彩 (欠田 誠・加野正浩)	仲間	1971(昭和46)	FRP、布	166.0×55.0×31.0 (立・男性) 118.0×60.0×82.0 (座・女性) 124.0×57.0×68.0 (座・男性)	東京都現代美術館

No.	作者	作品	制作年	技法・材質	大きさ (cm)	所蔵先
第三章 自然との交感						
Ⅲ－１．外界に目を向ける						
67	横田七郎	めざし	1928(昭和3)	木、彩色	H6.0	平塚市美術館
68	横田七郎	静物	1929(昭和4)	木、彩色	H7.0	平塚市美術館
65	横田七郎	栗	1933(昭和8)頃	木	H6.5	平塚市美術館
66	横田七郎	栗	1933(昭和8)頃	木	H7.0	平塚市美術館
71	宮本理三郎	蛙	1950(昭和25)以前	木、彩色	H3.6	東京藝術大学
69	宮本理三郎	蛙	1934(昭和9)	木、彩色	H3.3	東京藝術大学
70	宮本理三郎	木彫蜥蜴	1929(昭和4)以降	木、彩色	5.0×37.5×4.5	清水三年坂美術館
56A	石川光明	羊	明治時代	木	18.5×31.5×19.2	清水三年坂美術館
55	石川光明	木彫兎	1912(明治45/大正元)	木	15.0×20.0×16.5	清水三年坂美術館
57	高村光太郎	兎	1899(明治32)頃	木	12.0×11.6×14.1	東京国立近代美術館
解説：陶彫と風景彫刻						
153	鈴木治	馬	1971(昭和46)	陶	81.0×17.0×45.0	京都国立近代美術館
150	辻晉堂	東山にて	1962(昭和37)	陶	68.0×118.0×15.5	静岡県立美術館寄託
74	前原冬樹	一刻	2012(平成24)	朴、柘植、油彩	6.5×60.0×20.5	作家蔵
124	須田悦弘	雑草	2008(平成20)	木、彩色	径2.5、4.0、5.0 (3点)	作家蔵 ©Yoshihiro Suda/ Courtesy of Gallery Koyanagi
Ⅲ－２．祈りのかたち						
解説：土偶と埴輪						
1		縄文土偶	縄文時代晩期初頭		20.0×13.5×4.0	静岡市立芹沢銈介美術館
2		縄文土偶 頭部	縄文時代		6.0×7.5×3.0	静岡市立芹沢銈介美術館
3		縄文岩偶	縄文時代		9.5×9.0×2.5	静岡市立芹沢銈介美術館
4		人物埴輪頭部	弥生時代		10.0×10.0×10.5	静岡市立芹沢銈介美術館
解説：橋下平八《石に就て》						
64	橋下平八	石に就て	1928(昭和3)	木、彩色	28.6×18.2×19.0	個人 (三重県立美術館寄託)
16		かまど面		木	43.8×49.0×17.7	静岡市立芹沢銈介美術館
11		木製阿弥陀仏		木、彩色	31.0×12.5×7.5	静岡市立芹沢銈介美術館
12		木製神像		木、彩色	22.5×10.0×5.0	静岡市立芹沢銈介美術館
解説：仏像と近代彫刻						
5		木造大地母神像	平安時代後期	木	H83.0	井原市立田中美術館
6		木造阿弥陀如来化仏	平安時代後期	木	H33.0	井原市立田中美術館
7	円空	釈迦如来坐像	江戸時代前期	木	H30.9×16.0×8.5	三重県立美術館
8	円空	地藏菩薩立像	江戸時代前期	木	58.6×15.0×13.0	個人蔵 (三重県立美術館寄託)
9	木喰	薬師如来坐像	1801(寛政13)		H72.0	調布市武者小路実篤記念館
10	木喰	玉津島大明神	1807(文化4)		49.5×15.8×12.5	河井寛次郎記念館
解説：市井の仏師						
28	加納鉄哉	観音像	1919(大正8)	木	H45.8	岐阜市歴史博物館
解説：エピローグ						



99	97	95	93	91	89	87	85	82	80
100	98	96	94	92	90	88	86	84	83
								81	

B

78	76	74	72	70	68	66	64	63	61
								59	57
79	77	75	73	71	69	67	65	62	60
								58	56

A

101	103	105	107	109	111	113	115	117	119
						121			
102	104	106	108	110		114	116	118	120
						122			

C

D

E

A

- A55 | 竜巻和子 | Mgrd
- A56 | 栗田麻衣 | フラウ
- A57 | 土居優子 | 「はるかに」(CD)
- A58 | シンシア・アキナ | 「アース」写真
- A59 | 福岡リサ | フラウ
- A60 | 福岡リサ | MAMA MARIA
- A61 | フランシス | FHM
- A62 | 中野依紗 | Mgrd
- A63 | シンシア・アキナ | 2013 Samantha Thavasa campaign photo © Disney

- A64 | 佐田麻衣 | @UULA
- A65 | 佐田麻衣 | VOGUE TAIWAN
- A66 | 佐田麻衣 | 月刊 MEN 松田麻衣
- A67 | 佐田麻衣 | ハーバース・アキナ
- A68 | 二階堂ふみ | フラウ
- A69 | ハーバース・アキナ | 「不思議の国のハローキティ」© 1976, 2013 SANRIO CO., LTD. 協力/ 佐田麻衣
- A70 | 佐田麻衣 | Mgrd
- A71 | 佐田麻衣 | コーラス
- A72 | 佐田麻衣 | VOICE
- A73 | 佐田麻衣 | BARBOUTI
- A74 | 佐田麻衣 | Mgrd
- A75 | 佐田麻衣 | MAMA MARIA
- A76 | 佐田麻衣 | フラウ
- A77 | 佐田麻衣 | フラウ
- A78 | 佐田麻衣 | Mgrd
- A79 | 佐田麻衣 | MAQUA

B

- B80 | 佐田麻衣 | VOGUE TAIWAN
- B81 | 佐田麻衣 | 「2012 佐田麻衣」写真
- B82 | 佐田麻衣 | ELLE HONGKONG
- B83 | 佐田麻衣 | Mgrd

- 主催 | 静岡県立美術館 | 静岡県テレビ
- 協賛 | 株式会社ハナ・アート・アート
- 協賛 | 株式会社ハナ・アート・アート
- 協賛 | 株式会社ハナ・アート・アート
- 協賛 | 株式会社ハナ・アート・アート

観覧について

- 会場での撮影は原則としてご遠慮ください。
- ただし、①入場左手「Aed Blossom」②観覧展示室の「桜」③観覧展示室の「PLANT A TREE」については撮影が可能です。
- 以下の点について、ご注意ください。
- ④写真撮影可能な写真機のみ撮影が可能です。
- ⑤三脚の使用はできません。
- ⑥フラッシュの使用はできません。
- ⑦作品に接しないよう、また他の鑑賞者の鑑賞を妨げないようご注意ください。
- ⑧作品見学のため、混雑時には撮影を制限する場合があります。
- ⑨観覧室の観覧は、入場券が必要です。

注意事項

- ⑩展示作品には触れないでください。
- ⑪会場内での飲食・喫煙・飲酒、ボールペンなどの使用はご遠慮ください。
- ⑫会場内での飲食・喫煙・飲酒、ボールペンなどの使用はご遠慮ください。
- ⑬会場内での飲食・喫煙・飲酒、ボールペンなどの使用はご遠慮ください。
- ⑭会場内では撮影の指示に従ってください。

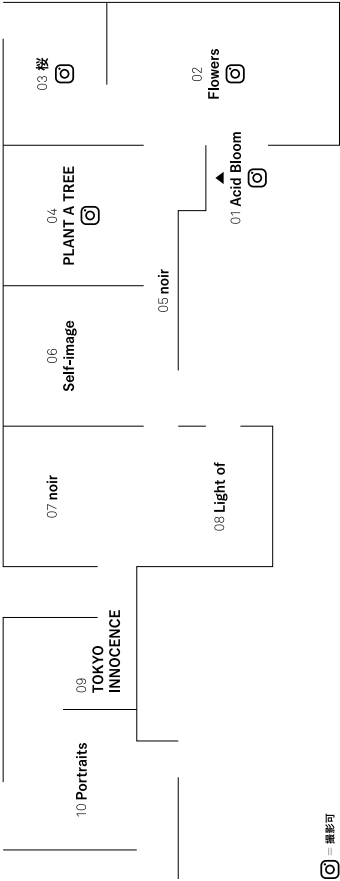
静岡県立美術館

Shizuoka Prefectural Museum of Art

30th ANNIVERSARY

A

- D113 | 長谷川裕己 | コーラス
- D114 | 栗田麻衣 | FHM
- D115 | 土居優子 | Mgrd
- D116 | 佐田麻衣 | フラウ
- D117 | 佐田麻衣 | SWAK
- D118 | 渡辺直美 | OH MY RODY
- D119 | 石原ともみ | フラウ
- D120 | 山田優 | shi ucuna sakura collection 2011
- D121 | 北野武 | SIGHT
- D122 | 岩崎めぐみ | MAMA MARIA
- E123 | 大森靖子 | 「きゅるきゅる」(CD)
- E124 | 佐田麻衣 | 「はるかに」(CD)
- E125 | 佐田麻衣 | sweet
- E126 | 佐田麻衣 | Mgrd
- E127 | 佐田麻衣 | N@G+S F2002, Masatoshi Nagase Official Portal Website
- E128 | 佐田麻衣 | ELLE CHINA
- E129 | 佐田麻衣 | SWAK
- E130 | 伊勢谷友介 | EYESCREAM
- E131 | 伊勢谷友介 | 2011 Samantha Thavasa campaign photo
- E132 | 佐田麻衣 | SWAK
- E133 | 佐田麻衣 | SWAK
- E134 | 佐田麻衣 | SDO 文庫「舞姫」
- E135 | 佐田麻衣 | Mgrd
- E136 | 佐田麻衣 | Mgrd
- E137 | 佐田麻衣 | Mgrd
- E138 | 佐田麻衣 | 長澤まさみ smart



01 | Acid Bloom | 入口左手

【2003年】C-print 2点
2003年刊行の写真集「Acid Bloom」より。ご当地、伊豆で撮影した桜の写真で、華やかに、展覧会の賑が聞く。花に上った小さな見出しの目録で見ているのよ、桜の花が画面全体に大きくクロームアップされ、見るものは、そのイメージにやわらかく包み込まれるような気分だ。

02 | Flowers | 第1展示室

【2015年】C-print 6点
生き生きとしたポップでカラフルな色彩に溢れる花の写真は、鶴川の代表作的なイメージ。かつての国内巡回展の副題が「地上の花、天上の鳥」であったように、華やかで鮮やかな色彩の作品が、広々とした空間を埋め尽くす。

03 | 桜 | 第2展示室

【2011年】C-print 12点、大判出力4点
2011年刊行の写真集「桜」から、震災の年として記憶される2011年の春、鶴川は、生を謳歌するかのよに咲き誇る桜を、何かに隠されたように撮影し撮った。1週間ですべて500カットにも及んだという。本展では、展覧会としては国内初となる、展示室の壁、床ともに、桜のイメージで全面を覆いつくした空間インスタレーションを行う。

04 | PLANT A TREE | 第3展示室

【2011年】C-print 2点、大判出力1点
2011年刊行の写真集「PLANT A TREE」から、2010年春のある日、春風に吹かれながら、目黒川の桜が川面に散る様子を、2、3時間程度で撮り取ったという。「あの日にしか撮れない、その時にしか残さない、そんな写真はなっている」と本人は語る。移ろう時間の中に、決定的な一瞬を封じ込めた写真。

05 | noir | 第3展示室—第4展示室 遷移空間

【2010年】C-print 54点
2010年刊行の写真集「noir」から、光が明かないほど色彩は暗く、光が強いほど影もまた濃く出る。日常の中にある、光や闇、極彩色の世界に隣り合わせの暗部に、鶴川は敏感に反応する。黒の中に色を見て、色の中に黒を感じ取る、そうした感性が鶴川の作品に奥深さと強弱を与えている。

06 | Self-image | 第4展示室

【2013年】C-print 28点
2013年刊行の写真集「Self-image」から、初めから断片的に撮影されたきた黒白のセルフポートレート、鮮やかな色彩を封印することで、「生身」に近い、何も武装していない、作者自身が浮かび上がる。

07 | noir | 第5展示室

【2010年】C-print 47点、大判出力4点

08 | Light of | 第5展示室

【2016年】C-print 12点
花火と野外フェスの「光」をテーマに構成した最新作「Light of」より。フェスの会場で、強烈な光を跳ねよと手を伸ばす群衆。花火が放つ色彩や、裸の、刹那的な光の軌跡、恍惚の瞬間を切り取る。

09 | TOKYO INNOCENCE | 第6展示室 手前

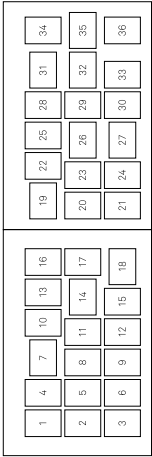
【2013年—2015年】C-print 54点
2013年刊行の写真集「TOKYO INNOCENCE」を中心に近年まで、アーティスト、デザイナー、アイドル、モデル、パフォーマー、ドラッグシーン……、過剰で過激な東京のアンダーグラウンド・カルチャーの、クレイジーで妖しげで、刹那的な華やかで満ちる作品群。

10 | Portraits | 第6展示室 奥

【2009—2015年】C-print 84点
よく知られているアイドルや俳優たちが、様々な表情・姿を見せる。背景のセットや衣装、小道具にいたるまで、鶴川がディレクションし撮影した。被写体に頼ることなく、その魅力を最大限に引き出しながら、丁寧な作り込みで自分自身の作品としても見事に成立させている。豊富なアイデアと巧みな演出力は、鶴川ならではの。

09 | TOKYO INNOCENCE | 第6展示室 手前

【2013年—2015年】C-print 54点



A

B

C

A

A1 | GIMICO | アンビュティモデル | ♀
A2 | 宝海大空 | 役者 ♂
A3 | ヒロシ:まもり、masaki | LEZ:コスチュームデザイナー、おかしな衣装製作、masaki | GOGOROY | ♂ ♀ ♂
A4 | チロル
A5 | 夢眠ねむ | でんぱ組.inc | アイドル | ♀
A6 | エリカ(Clum†Poni) | 現代美術作家 | ♀
A7 | 武藤静香 | Rudyデザイナー | ♀
A8 | 松沢聡奈 | モデル | ♀
A9 | 奈良新也 | シン・原宿アートデパート | ヘアメイク | ♂
A10 | 江崎 | 紫陽花(アジダハ)の底面 | 着ぐるみ製作、模写するドレーン | ♂ ♀
初版すずな | 桜の底面 | アクター・ミナ
着ぐるみを模写するドレーン | ♀ | 着ぐるみ製作:島風藤名
着ぐるみを製作、模写するドレーン | ♂ ♀
着ぐるみを模写するドレーン | ♂ ♀
着ぐるみを模写するドレーン | ♂ ♀
着ぐるみを模写するドレーン | ♂ ♀
SGM | パフォーマー | ♂
マトアゼルコリア | シンガー・DJ、GIZAデザイナー | ♀
AyaBambi | DANCER、MODEL | ♀
城山桜桃 | サークス・パフォーマー | ♀
カリわんズ | ラブ・コスチューム制作 | ♂ ♀
よりか | 衣装製作 | ♀
池田ひらり | Dogharukuku staff、student | ♀

C

C37 | 越前リョーマ | ホスト | ♂
C38 | 勝部みづ | アイドル(でんぱ組.inc) | ♀
C39 | 麗夜(れいや) | ホスト | ♂
C40 | IC、RYOTA | メンズ・ボールド・スニーク | ♂
C41 | サエボーグ | アーティスト | ♀
C42 | マヒロ | アクター、セリット・マジシャン | ♀
C43 | 赤羽太郎 | スチーム・イン・カール | ♂
C44 | 柳野有砂 | Creative Director&Designer of FIG&VIPER/DJ/Model | ♀
C45 | Home: | 着ぐるみ製作:島風藤名 | ♂ ♀ | 撮影:いにてこ | ♀
C46 | ルーフエン
C47 | りこ | コロコロの底面 | 着ぐるみ製作:島風藤名 | ♂ ♀
C48 | カマアユ | ♂
C49 | 藤 遼志 | ホスト | ♂
C50 | 西原鶴真 | 隣家見参者 | ♀
C51 | sakapan | Tokyo Boy/Student 96's | ♂
C52 | オナンス・ベル・マーマー | ドラッグ・クワーン、画家 | ♀
C53 | 桜井莉奈 | モデル | ♀
C54 | 己龍 | ♂

【名前 | 肩書き | 性別】

収蔵品展

フランス版画コレクションより
ジャック・カロ、ウジェーヌ・イザベイ、ミレーらを中心に
7月9日（土）～9月4日（日）

No.	作者名	作品名
1	ジャック・カロ	大狩猟
2	ジャック・カロ	ボヘミアン（全4点）
3	ジャック・カロ	《戦争の惨禍（大）》
4	ウジェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュⅠ、Ⅱ
5	コロー、ドービニー、ドラクロワ、ミレー、テオドール・ルソー	《40のガラス版画》より

名品コーナー

左	福岡道雄	湯原湖で（2）
中	ジャン＝フランソワ・ミレー	羊飼いと羊たち■
右	原勝郎	バガテル公園、パリ

静岡ゆかりの近代画家 日本画・洋画でつづる
9月6日（火）～11月6日（日）

No.	作者名	作品名
1	中村岳陵	爽秋
2	中村岳陵	残照
3	中村岳陵	磯
4	野島青荪	晩夏
5	野島青荪	博物館
6	野島青荪	塑像
7	秋野不矩	天竜川
8	秋野不矩	たむろするクーリー
9	秋野不矩	ブラーミンの家
10	秋野不矩	ウダヤギリⅡ
11	高島達四郎	漁師の家
12	高島達四郎	エトルタ
13	高島達四郎	伊豆下田港
14	小林猶治郎	崖
15	小林猶治郎	雪溪
16	小林猶治郎	踏附けられた景物
17	小林猶治郎	夜櫻

18	小林猶治郎	入江（習作第六〇四）
19	小林猶治郎	静物
20	北川民次	タスコの祭

名品コーナー

左	前田守一	遠近のものさし
中	ハイム・スーチン	カーニュ風景
右	和田英作	日本平望嶺台■

西洋の絵画 画材とともに3

11月8日（火）～1月9日（月・祝）

No.	作者名	作品名
油絵の描法		
1	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
2	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
3	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
4	ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
5	アレッサンドロ・マニャスコ	山道の行列
6	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流
7	ポール・シニャック	サン＝トロベ、グリモーの古城

油絵の色々な支持体

8	ヤン・ファン・ケッセル	二人の狩猟者のいる森の風景
9	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーロ
10	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景
11	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ナルキッソスのいる古典的風景
12	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没
13	テオドール・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家

版画の色々

14	アルブレヒト・デューラー	放蕩息子
15	ゼバルト・ペーハム	ヘラクレスとケンタウロス（『ヘラクレスの事績』より）
16		ヘラクレスとネメアのライオン（『ヘラクレスの事績』より）
17		ヘラクレスとヒュドラ（『ヘラクレスの事績』より）
18		ヘラクレスとガザの柱（『ヘラクレスの事績』より）

19		ヘラクレスとカクス（『ヘラクレスの事績』より）
20		ヘラクレスとアンタイオス（『ヘラクレスの事績』より）
21		ヘラクレスとケルベロス（『ヘラクレスの事績』より）
22	ゼバルト・ペーハム	ヘラクレスとトロイア人（『ヘラクレスの事績』より）
23		ヘラクレスとネッソス（『ヘラクレスの事績』より）
24		ヘラクレスとイオレ（『ヘラクレスの事績』より）
25		ネッソスの衣服をヘラクレスに届けるリカス（『ヘラクレスの事績』より）
26		ヘラクレスの死（『ヘラクレスの事績』より）
27	ジャック・デ・ゲインⅡ世	土（地）（『四大元素』より）
28	ジャック・デ・ゲインⅡ世	水（『四大元素』より）
29	ジャック・デ・ゲインⅡ世	空気（気）（『四大元素』より）
30	ジャック・デ・ゲインⅡ世	火（『四大元素』より）
31	レンブラント・ファン・レイン	三本の木
32	アドリアーン・ファン・オスターデ	納屋
33	アドリアーン・ファン・オスターデ	釣り人たち
34	ヤン・ボト	ボンテ・モッレ（『ローマ周辺の時め』より）
35	マルコ・リッチ	神殿とゴシック教会のある廃墟の時め
36	アントニオ・カナル（通称カナレット）	ドーロ風景
37	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	納骨堂
38	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』第二扉絵

名品コーナー		11月22日（火）～1月9日（月・祝）
左	名和晃平	Moment#65 ■
中	ファン・グリス	果物皿と新聞
右	三岸好太郎	海 ■

山の風景 富士山、箱根からスイスの山まで
2月1日（水）～4月2日（日）

No.	作者名	作品名
1	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図
2	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦）
3	平木政次	富士
4	黒田清輝	富士之図
5	浅井忠	雲
6	五姓田義松	富士
7	東城鉦太郎	山家の春

8	和田英作	富士
9	川村清雄	風景
10	佐分眞	雪のグリュンデルワルド
11	茨木猪之吉	初夏の常念岳
12	児島善三郎	箱根
13	須田国太郎	筆石村
14	石川欽一郎	駿河湾
15	石川欽一郎	神域より天の香具山を望む
16	曾宮一念	八つ残雪
17	曾宮一念	毛無連峯
18	青木達弥	薄
19	北川民次	風景
20	小林和作	秋山
21	田村一男	北越大雪
22	高島達四郎	伊豆下田港
23	牧野宗則	雪更紗
24	牧野宗則	光明

名品コーナー

左	柳原義達	道標・鳩
中	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む
右	和田英作	日本平望嶽台 ■

*■は個人蔵、その他の作品は全て当館の所蔵品です。

移動美術展

島田市出身の洋画家 北川民次と静岡の創作版画

【本館】

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横cm）
1	平井顕斎	山水図	1856(安政3)年	紙本墨画淡彩	175.5×97.8
2	福田半香	山水図	1857(安政4)年	紙本墨画	170.5×85.7
3	平木政次	富士	1897(明治30)年	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0
4	五姓田義松	富士	1905(明治38)年	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5
5	石川欽一郎	田舎の早春	1900-10年代(明治末年頃)	紙、水彩	27.4×37.2
6	石川欽一郎	台湾次高山	1925-28(大正14-昭和3)年頃	紙、水彩	25.0×33.7
7	石川欽一郎	岡山の海岸		紙、水彩	24.2× 32.8
8	石川欽一郎	海辺（早川海岸）	1935(昭和10)年頃	キャンヴァス、油彩	53.2×72.8
9	石川欽一郎	駿河湾	1939(昭和14)年頃	絹、水彩	53.0×64.5
10	栗原忠二	セントポール	1916(大正5)年頃	キャンヴァス、油彩	80.0×100.0
11	栗原忠二	ロンドン郊外		キャンヴァス、油彩	50.0×60.7
12	柏木俊一	道	1912-1925年頃(大正時代)	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5
13	柏木俊一	海と畑と森	1934(昭和9)年	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0
14	北川民次	瀬戸十景（1）窯小屋	1937(昭和12)年	紙、リノカット	13.4×19.8
15	北川民次	瀬戸十景（2）土堀り場		紙、リノカット	15.9×12.7
16	北川民次	瀬戸十景（3）煙突のある風景		紙、リノカット	19.4×13.2
17	北川民次	瀬戸十景（4）夜の工場		紙、リノカット	13.2×19.4
18	北川民次	瀬戸十景（5）工場のなか		紙、リノカット	19.7×13.0
19	北川民次	瀬戸十景（6）ろくろを回す男		紙、リノカット	19.6×12.2
20	北川民次	瀬戸十景（7）山のなかの窯場		紙、リノカット	11.8×15.9
21	北川民次	瀬戸十景（8）窯焼き		紙、リノカット	19.5×13.3
22	北川民次	瀬戸十景（9）窯入れ		紙、リノカット	19.4×12.2
23	北川民次	瀬戸十景（10）瀬戸市街		紙、リノカット	19.6×13.2
24	北川民次	風景	1944(昭和19)年	キャンヴァス、油彩	72.8×60.8
25	北川民次	雑草の如くⅢ（裸婦）	1949(昭和24)年	キャンヴァス、油彩	130.3×162.0
26	北川民次	母子像	1957(昭和32)年	紙、リトグラフ	44.5×33.5
27	青木達弥	薄	1941(昭和16)年	キャンヴァス、油彩	116.8×91.0

【分館】

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横cm）
1	恩地孝四郎	抒情Ⅰ	1914-15(大正3-4)年	紙、木版	13.3×10.9
2	恩地孝四郎	抒情Ⅱ	1914(大正3)年	紙、木版	20.4×14.0
3	恩地孝四郎	裸形のくるしみⅢ	1914(大正3)年	紙、木版	19.6×7.7
4	恩地孝四郎	抒情 あかるい時	1915(大正4)年	紙、木版	13.3×9.7
5	恩地孝四郎	裸形のくるしみⅠ	1915(大正4)年	紙、木版	20.0×8.0
6	恩地孝四郎	裸形のくるしみⅡ	1915(大正4)年	紙、木版	19.9×7.9
7	中川雄太郎	巴川の夕景	1931(昭和6)年	紙、木版	19.2×28.4
8	中川雄太郎	静岡駅前	1931-33(昭和6-8)年頃	紙、木版	19.7×23.9
9	中川雄太郎	焼津の祭	1932(昭和7)年頃	紙、木版	13.0×18.8
10	中川雄太郎	街角	1935(昭和11)年頃	紙、木版	31.8×40.4
11	山口源	夏の午後	1943(昭和18)年	紙、多色木版	33.5×45.5
12	山口源	明治神宮	1945(昭和20)年	紙、多色木版	18.0×24.0
13	山口源	能役者	1958(昭和33)年	紙、木版	86.5×47.0
14	山口源	同棲	1962(昭和37)年	紙、多色木版	84.2×45.6
15	山口源	湧玉池		紙、多色木版	24.5×18.1
16	伊藤勉黄	上海の裏町	1945(昭和20)年	紙、木版	38.0×28.0
17	伊藤勉黄	イシスとホルス	1979(昭和54)年	紙、木版	75.0×45.0
18	伊藤勉黄	風媒花	1988(昭和63)年	紙、木版	48.0×75.0
19	栗山茂	いか	1952(昭和27)年	紙、木版	35.0×24.3
20	栗山茂	古代の賦－装	1989(平成元)年	紙、紙凸版	69.5×55.0
21	栗山茂	日本平の富士	2000(平成12)年	紙、木版	36.4×50.3
22	前田守一	作品CB-1「暗愚」	1959(昭和34)年	紙、木版	177.0×172.0
23	前田守一	作品CB-2「木偶」	1959(昭和34)年	紙、木版	177.0×173.0
24	前田守一	作品DG-1	1960(昭和35)年	紙、木版	116.0×87.0
25	前田守一	はごろも橋	1978(昭和53)年	紙、木版	35.0×60.0
26	前田守一	明治はるあき－停車場にて	1995(平成7)年	紙、木版	55.0×77.0
27	前田守一	窓辺の手－そして木馬たち－	1997(平成9)年	紙、木版	44.0×80.0

富士山と静岡ゆかりの絵画

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横cm）
1	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	1876(明治9)年以降	キャンヴァス、油彩	41.2×76.2
2	平木政次	富士	1897(明治30)年	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0
3	五姓田義松	富士	1905(明治38)年	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5
4	曾宮一念	工部大学	1911(明治44)年	キャンヴァス、油彩	34.0×45.7
5	曾宮一念	芝浦埋立地	1913(大正2)年	キャンヴァス、油彩	53.0×72.0
6	曾宮一念	自画像	1914(大正3)年	キャンヴァス、油彩	45.8×33.6
7	曾宮一念	風景	1920年頃(大正中期)	キャンヴァス、油彩	33.4×45.5
8	曾宮一念	梨畑道	1924(大正13)年	キャンヴァス、油彩	59.0×71.5
9	曾宮一念	種子静物	1934(昭和9)年	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7
10	曾宮一念	麦秋	1941(昭和16)年	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0
11	曾宮一念	スペインの野	1968(昭和43)年	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0
12	曾宮一念	毛無連峯	1970(昭和45)年	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7
13	石川欽一郎	田舎の早春	1900-10年代(明治末年頃)	紙、水彩	27.4×37.2
14	石川欽一郎	台湾次高山	1925-28(大正14-昭和3)年頃	紙、水彩	25.0×33.7
15	石川欽一郎	岡山の海岸		紙、水彩	24.2×32.8
16	石川欽一郎	海辺（早川海岸）	1935(昭和10)年頃	キャンヴァス、油彩	53.2×72.8
17	石川欽一郎	駿河湾	1939(昭和14)年頃	絹、水彩	53.0×64.5
18	栗原忠二	セントポール	1916(大正5)年頃	キャンヴァス、油彩	80.0×100.0
19	栗原忠二	ロンドン郊外		キャンヴァス、油彩	50.0×60.7
20	柏木俊一	道	1912-1925年頃(大正時代)	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5
21	柏木俊一	海と畑と森	1934(昭和9)年	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0
22	青木達弥	薄	1941(昭和16)年	キャンヴァス、油彩	116.8×91.0
23	山口源	夏の午後	1943(昭和18)年	紙、多色木版	33.5×45.5
24	山口源	能役者	1958(昭和33)年	紙、木版	86.5×47.0
25	山口源	湧玉池		紙、多色木版	24.5×18.1

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

平成22年3月26日条例第23号

平成24年3月23日条例第1号

平成26年3月28日条例第29号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 (趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もつて県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

(追加〔平成24年条例第1号〕)

(協議会の委員)

第14条 委員の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。
(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則 (平成元年3月29日条例第43号)

1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成3年3月19日条例第2号)

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則 (平成4年3月25日条例第14号)

1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成8年3月28日条例第11号)

1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成11年3月19日条例第16号)

1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成13年7月24日条例第45号)

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則 (平成15年3月12日条例第2号)

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則 (平成17年7月15日条例第49号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成22年3月26日条例第23号)

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成24年3月23日条例第1号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 (平成26年3月28日条例第29号)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第3条関係)

(一部改正〔平成22年条例23号〕)

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	1人につき 200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。

2 団体とは、20人以上をいう。

3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2 (第5条関係)

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

別表第3 (第9条関係)

(一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号・26年29号〕)

(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料
		10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,050円
	県民ギャラリーB	12,850円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,350円
	県民ギャラリーB	8,550円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,650円	13,800円	21,450円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

改正 平成5年3月25日規則第13号

平成6年3月10日規則第5号

平成9年3月28日規則第51号

平成12年3月31日規則第17号

平成13年7月24日規則第59号

平成20年3月31日規則第19号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。
ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

(一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕)

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー

等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復ししなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

(損害賠償)

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料

をいう。)をいう。)の2分の1の額(当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額)

- (5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動(これらに準ずるものを含む。)として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額
 - (6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動(これらに準ずるものを含む。)として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額
 - (7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額
- 2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

- 3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕)

(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

- (1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。
 - (2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。
- 2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料(使用料)還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則(平成5年3月25日規則第13号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月10日規則第5号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月28日規則第51号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月31日規則第17号)

- 1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式(以下「旧様式」という。)により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。
- 3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則(平成13年7月24日規則第59号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日規則第19号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

様式第1号（第4条関係）
（用紙 日本工業規格A4縦型）
（一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

特別観覧承認申請書
年 月 日
静岡県立美術館長 様
住所
氏名
電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名			点数	
特別観覧の目的						
区 分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用	
日 時	年 年	月 月	日 日	時から 時から	時まで 時まで	
内 訳	模 写	点	日	円	合 計 円	
	模 造	点	日	円		
	撮 影	点	回	円		
	熟 覧	点	日	円		
	原板使用	点	回	円		
備 考						

様式第2号（第5条関係）
（用紙 日本工業規格A4縦型）
（一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書
年 月 日
静岡県立美術館長 様
住所
氏名

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称					
展覧会、講演等の内容					
使 用 区 分	県民ギャラリー（Ａ・Ｂ） 講堂				
使 用 期 間	年 月 日（ ） 時 分から 年 月 日（ ） 時 分まで 日間				
入場料等の徴収の有無	有・無	円			
主 催 者 名					
連絡責任者及び電話					
後 援 者 名					

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号（第10条関係）
（用紙 日本工業規格A4縦型）
（一部改正〔平成6年規則5号〕）

観覧料等減免申請書
年 月 日
静岡県立美術館長 様
住所
氏名 印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料 特別観覧料 使用料
申請の理由	
日時	年 月 日（ ） 時から 年 月 日（ ） 時 分まで
観覧人員	人
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人
責任者氏名	
責任者電話番号	
観覧料等	円
減免申請額	円

様式第4号（第11条関係）
（用紙 日本工業規格A4縦型）
（一部改正〔平成6年規則5号〕）

特別観覧料 還付申請書
使用料
年 月 日
静岡県立美術館長 様

住所
氏名 印

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申 込 期 間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年 9月1日～ 9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～ 1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～ 2月15日	1月1日～ 1月15日
9月	3月1日～ 3月15日	2月1日～ 2月15日
10月	4月1日～ 4月15日	3月1日～ 3月15日
11月	5月1日～ 5月15日	4月1日～ 4月15日
12月	6月1日～ 6月15日	5月1日～ 5月15日
1月	7月1日～ 7月15日	6月1日～ 6月15日
2月	8月1日～ 8月15日	7月1日～ 7月15日
3月	9月1日～ 9月15日	8月1日～ 8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

（展示品等の管理）

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

（現状回復義務）

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関すること。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。
- 3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。
- 3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

- 2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

- 2 委員の定数は、15人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 会長及び副会長にともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長には生活・文化部長、副会長には、文化振興総室長をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が招集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立し

て物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。

5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。

6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

別表

文化・観光部長 部長代理(理事) 文化学術局長 文化政策課長 美術館副館長
--

(4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

(1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。

(2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

(1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。

(2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

(1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。

(2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。

(3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関する事
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関する事
- (3) 監査に関する事
- (4) 文書の収受発送に関する事
- (5) 公印の管守及び機密に関する事
- (6) 予算・決算その他会計事務に関する事
- (7) 美術品及び物品の購入に関する事
- (8) 財産及び物品の管理に関する事
- (9) 美術館協議会に関する事
- (10) 他課の所管に属さない事

学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関する事
- (2) 展覧会の企画及び開催に関する事
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関する事
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関する事
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関する事
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関する事
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関する事

	館長	副館長	学芸部長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	1人	8人	10人	20人
非常勤	1人				3人	4人
臨時技術員					1人	1人

■美術館協議会

鈴木 壽美子	静岡県文化協会会長
立田 洋司	静岡県立大学特任教授
北條 博厚	静岡県立美術館友の会会長
大庭 弘義	高等学校美術・工芸教育研究会会長 (県立金谷高等学校校長)
亀山 光生	静岡市立小中学校校長会代表 (静岡市立安東小学校校長)
漁田 俊子	静岡県立大学短期大学部教授
坂本 雅子	東海大学短期大学部特任教授
今井 利昭	(社)静岡県観光協会しずおかツアー リズムコーディネーターチーフ
石川 たか子	(株)丸伸代表取締役社長
日比野 秀男	掛川市ステンドグラス美術館館長
岡野 晃子	ベルナールビュフェ美術館副館長
北村 敏廣	地元報道機関代表 (株)静岡新聞社代表取締役専務)
桜井 茂樹	全国報道機関代表 (NHK静岡放送局長)

石塚 正孝	グランシップ館長
齋藤 安彦	弁護士(追手町法律事務所)

■専門委員

木村 重圭	前甲南女子大学教授
榊原 悟	岡崎市美術博物館館長・おかざき 世界子ども美術博物館館長
坂本 満	お茶の水女子大学名誉教授 金沢美術工芸大学客員教授
潮江 宏三	京都市美術館館長
建畠 哲	埼玉県立近代美術館館長
山梨 絵美子	東京文化財研究所副所長

■資料評価委員

西田 郁夫	静岡県文化・観光部長
後藤 淳	静岡県文化・観光部部長代理
石垣 昭彦	静岡県文化・観光部文化局長
小泉 祐一郎	静岡県文化政策課長
坂田 芳乃	静岡県立美術館副館長

■職員

館長	芳賀 徹
副館長	坂田 芳乃
総務課長	濱田 志保
総務班長	松下 喜宗
主査	金原 功
主事	岩崎 正太
主事	塚口 佑太
管理班長	青木 彰彦
主任	大橋 倫代
主任	吉田 啓亮
学芸部長	泉 万里
学芸課長	三谷 理華
上席学芸員	南 美幸
上席学芸員	新田 建史
上席学芸員	村上 敬
上席学芸員	泰井 良
上席学芸員	川谷 承子
上席学芸員	石上 充代
主任学芸員	野田 麻美
主査	石津 宏直
主任学芸員	浦澤 倫太郎

■非常勤嘱託員及び臨時技術員

非常勤嘱託員	新間 教子
	中村 美穂子
	見城 絵理奈
臨時技術員	西畑 春佳

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	39,128
共催展収入	20,792
県民ギャラリー等使用料	4,282
財産売払・貸付・運用収入	5,585
助成金等	0
その他	6,068
計	75,855

■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	188,539
管理費	268,633
運営費	54,882
施設管理費	213,751
事業費	96,931
企画展事業費	63,167
常設展事業費	8,896
資料・普及事業費	24,868
館蔵品取得費	3,000
施設整備費	69,498
基金積立	84
計	626,685

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地	静岡市駿河区谷田53番 2 号	同 左
敷 地	県文化センター内（約130,000㎡）	同 左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 2 階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、2 階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込 P C 板、吹付タイル 屋根：カラーステンレス葺、トップライト（アルミ、 複層ガラス） 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年 3 月～昭和60年 8 月	平成 4 年 3 月～平成 5 年11月

■施設概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器 1 φ 300KVA、3 φ 400KVAモールド型	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器 1 φ 280KVA、3 φ 350KVA 契約電力 700KW
	発 電 設 備 ディーゼル機関 4 サイクル 6 気筒、 1,800rpm出力300KVA 3 φ 3 W6,600V	発 電 設 備 ディーゼル機関 4 サイクル 6 気筒、 1,800rpm出力200KVA 3 φ 3 W220V
	太陽光発電設備 10KW× 2 台	
	蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、 充電サイリスタ全自動整流器	蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置
	弱 電 設 備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館 者表示、映像資料（ビデオ）、電話、 放送、電気時計、テレビ共聴	弱 電 設 備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴
空気調和設備	防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤（自火報、 防排煙）、防犯非常錠制御盤、防災ア ンプ（360W）、ITV監視装置、地図式 表示版	防災、防犯設備 同 左
	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（150USRT、 40USRT）、温水焚吸収冷温水機 （30USRT）、空気熱源回収型スクリー ー式ヒートポンプ冷凍機（150USRT）、 プレート式熱交換機（396,300Kcal/h）	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（80USRT） 2 基、蒸気ボイラー（250Kg/h）2 基、 空冷チラーユニット（3.77USRT）、 プレート式熱交換機（86,000Kcal/h）
	蓄 熱 層 冷温水槽550㎡・55㎡、 ソーラー用20㎡	冷温水クッションタンク 5 ㎡ 冷水クッションタンク 0.75㎡
	ソーラーパネル 平板型672枚	
	空気調和機 収蔵庫 3 系統、展示室 2 系統、県民 ギャラリー 1 系統、その他 4 系統及 びパッケージ型 1 台、ファンコイル ユニット46台、他空冷ヒートポンプ パッケージエアコン、ルームエアコン	空気調和機 収蔵庫 3 系統、展示室 4 系統、全熱 交換機（3 台）

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他 3 系統 3 台	排 煙 機 メイン展示室他 2 系統 4 台
	給 水 設 備 受水槽30㎡（二槽式）、高架水槽12㎡（二槽式）	給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5 ㎡
	排 水 設 備 公共下水道に放流	排 水 設 備 公共下水道に放流
	消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓	消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓
昇降機設備	身 障 者 用 油圧式11人乗750kg	身 障 者 用 油圧式23人乗1,500kg
	荷 物 用 油圧式3,000kg	

■建設工事費

本 館	ロ ダ ン 館
建 築 3,802,838 千円	建 築 3,415,995 千円
外 構 397,162	外 構 —
プロムナード 173,300	プロムナード —
周辺環境整備 —	周辺環境整備 268,509
合 計 4,373,300	合 計 3,684,504

■諸室概要

■本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン（70席 198㎡）・カフェ（39席 92.3㎡）

レストラン「エスタ」及びカフェ（ロダン）は、日本平ホテルが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777㎡）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

県民ギャラリー（2室 490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂 (262席 305㎡)

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室 (約30席 71㎡)

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室 (15.21㎡)

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 毎週日曜、祝日

10:30~15:30

(2時間を限度)

授乳室 開館日全て

10:00~17:30

(夜間開館日は20時まで)

■ロダン館

ロダンフロア (1,461㎡)

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室 (149㎡)

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールに設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

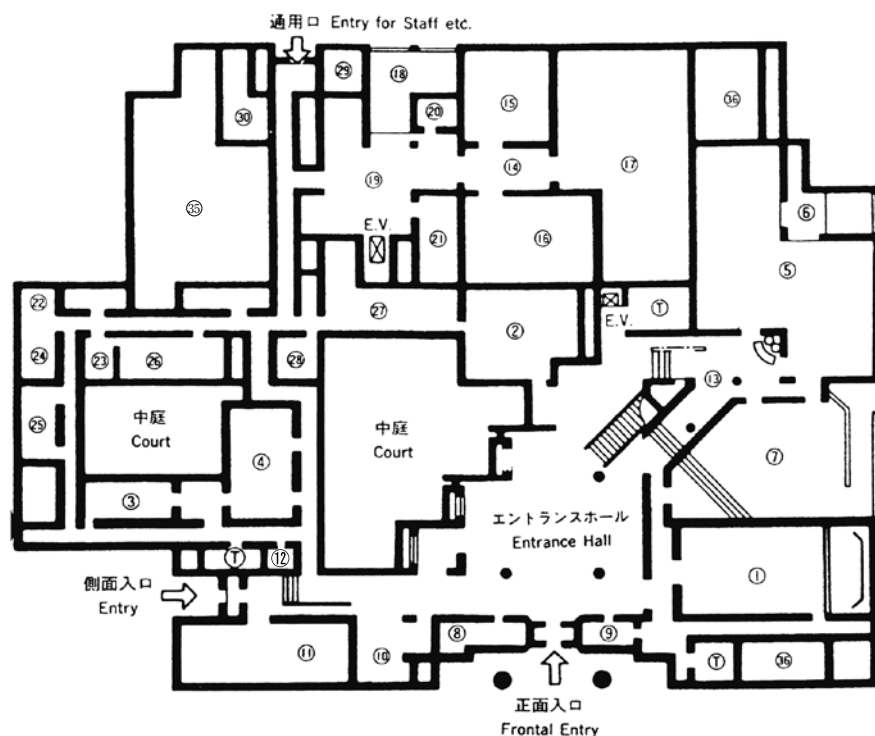
ブリッジ・ギャラリー (276㎡)

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

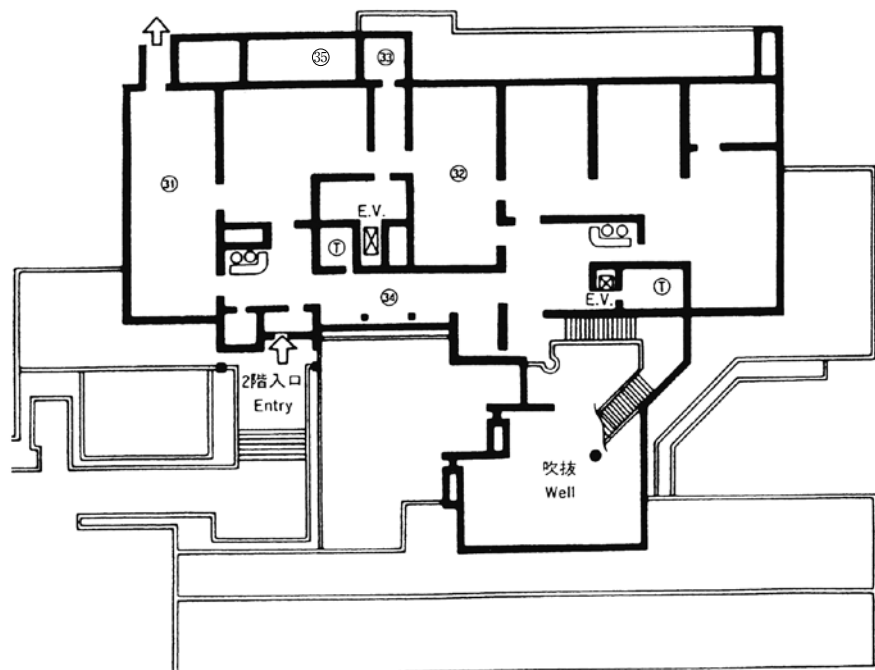
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ カフェ Cafe

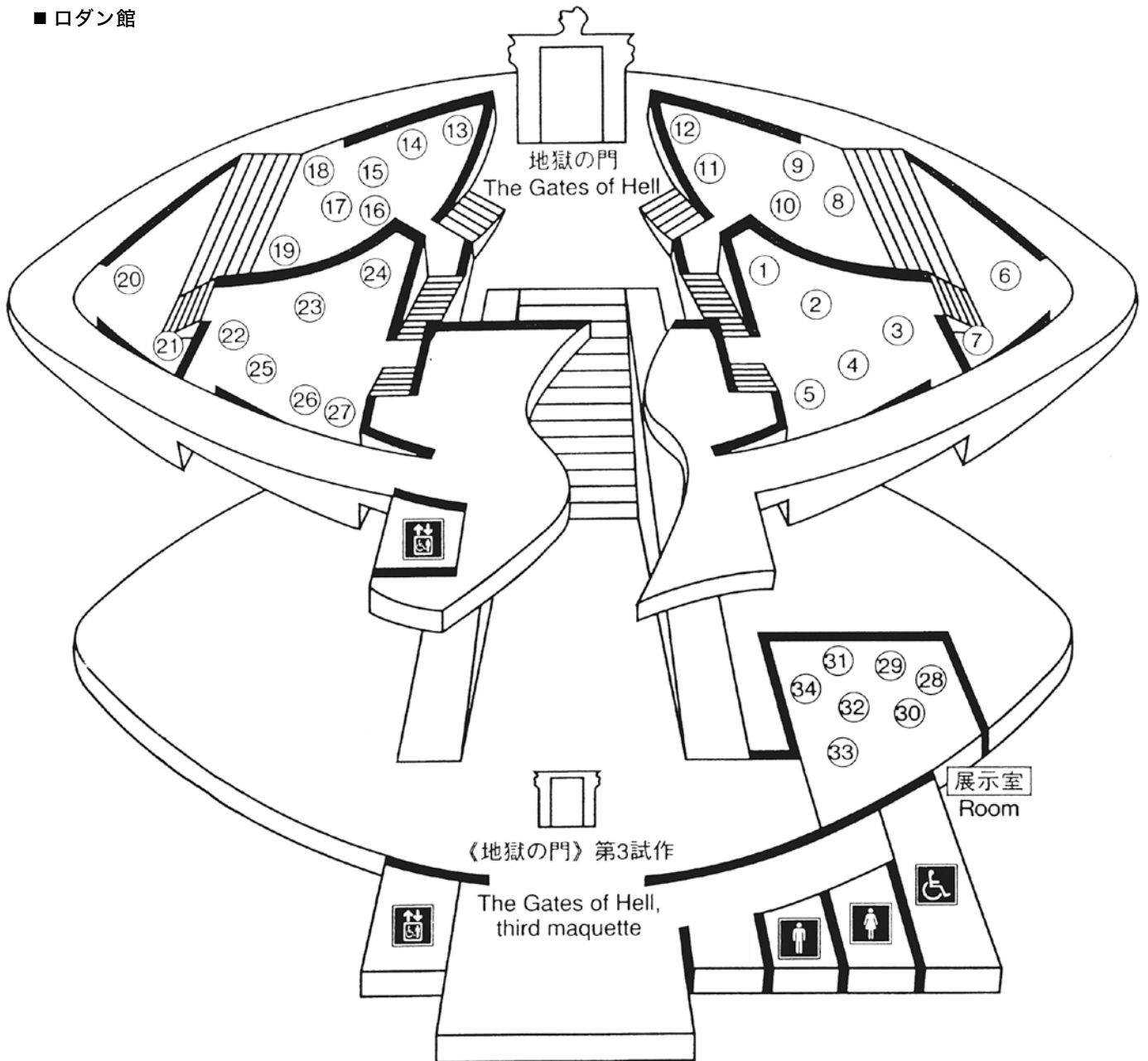
⑩ (次頁へ)

2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫 1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

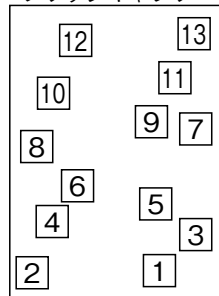
■ ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレーの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室

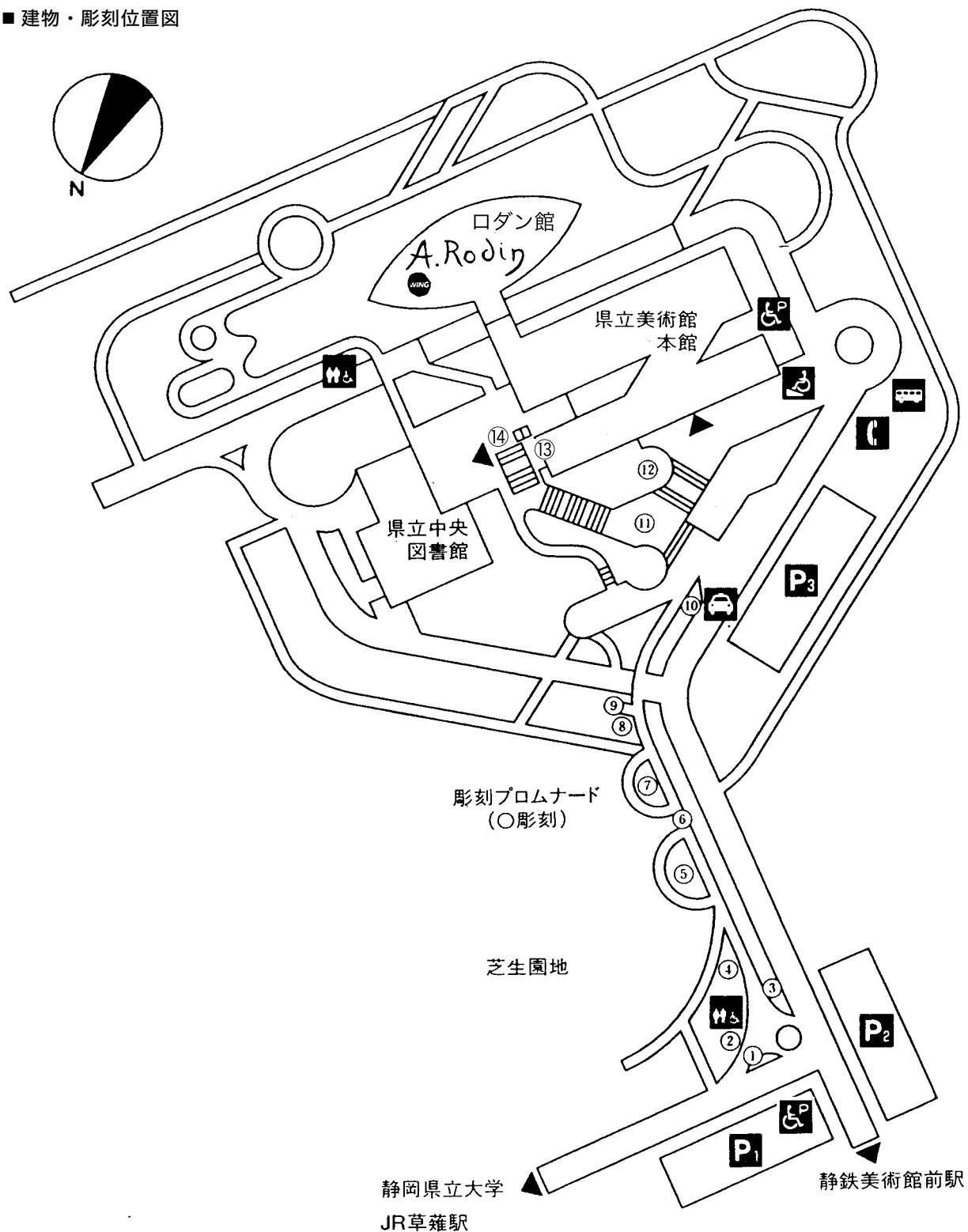
- ㉘ カルボー, J.B. / ナボリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ベールズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / パラの髪飾りの少女
- ㉛ カルボー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉞ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシッツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ ブールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ ブールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークⅡ》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式Ⅴ－相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線－菱形Ⅱ》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

- 開館時間
午前10時～午後5時30分
(展示室への入室は午後5時まで)
[夜間開館] 7月23日(土)～8月27日(土)の土曜日は午後7時まで開館(入館は午後6時30分まで)

■休館日
毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、その他展示替等のための休館日

■収蔵品展覧料
一般300円(団体200円)
大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展覧料

展覧会名	一般	70歳以上
東西の絶景	600円 <400円>	300円 <200円>
美術館に行こう！	800円 <600円>	400円 <300円>
徳川の平和	1,000円 <800円>	500円 <400円>
再発見！ニッポンの立体	1,000円 <800円>	500円 <400円>
蜷川実花展	1,200円 <1,000円>	600円 <500円> ※高校生・大学生含む

* < >内は前売及び20名以上の団体料金
* 中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。(高校生・大学生は、収蔵品展は無料、企画展は展覧会によって有料・無料となります。)

- 施設利用料

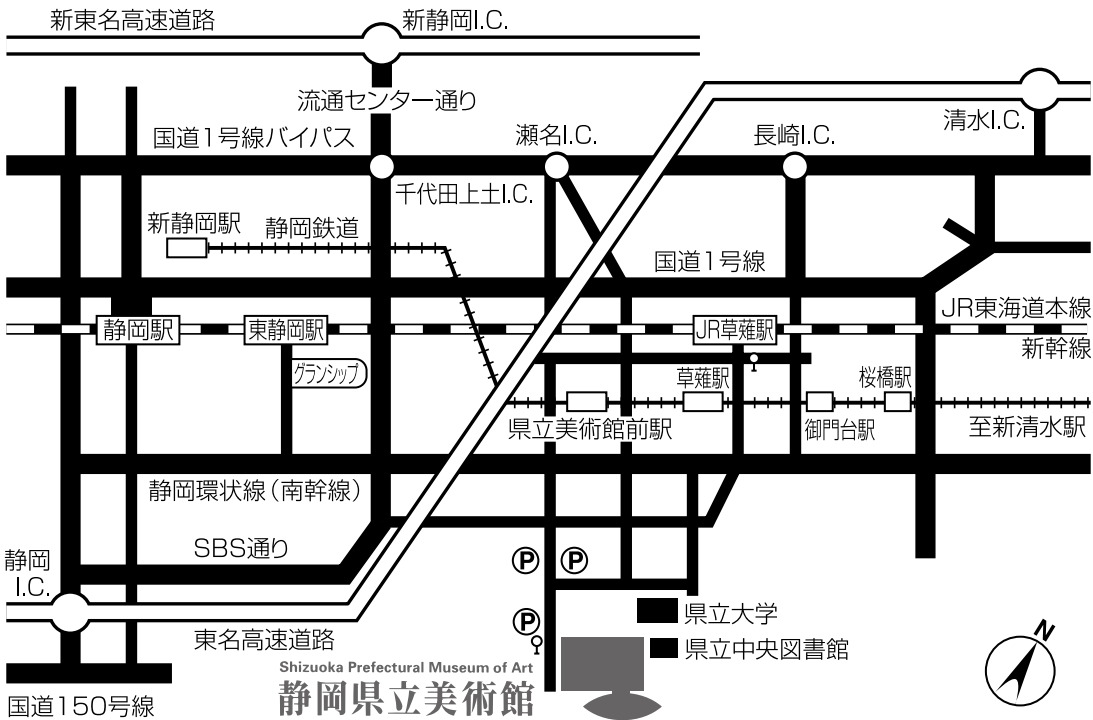
(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料 10時～17時30分
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,050円
	県民ギャラリーB	12,850円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,350円
	県民ギャラリーB	8,550円

(2) 講堂

使用料		
午前 10時～12時30分	午後 13時～17時30分	全日 10時～17時30分
7,650円	13,800円	21,450円

交通案内
JR「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分
JR「静岡駅」南口からタクシー約20分
東名高速道路・静岡IC、清水ICまたは新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分
美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
電話番号 総務課 (TEL) 054-263-5755
〃 (FAX) 054-263-5767
学芸課 (TEL) 054-263-5857
〃 (FAX) 054-263-5742
美術館友の会事務局 054-264-0897
ミュージアムショップ 054-264-8926



平成28年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館 ©

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印刷：松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡 2210

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2016

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by MATSUMOTO Printing Co. Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2017

